

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

2023 年度 報告書

Japanese Language Class Annual Report

2023.4-2024.3

*Japanese Language Class
School of Engineering
The University of Tokyo*

はじめに

日本語教師に求められる役割は、日本語学習者のニーズの多様化、日本語教育を取り巻く環境や状況の影響を受け、絶えず進化している。ここでは、本学の工学系研究科日本語教室の目的やビジョンに基づき「日本語教師の役割」について記す。

古屋他（2018）は、日本語教師の役割について、以下の4つの言説に分類している。1970年代からは、「1.学習者に日本語を習得させるために学習を管理する役割」である。1980年代からは、「2.学習者が自律的に学習できるようになるために支援する役割」、および、「3.学習者の学習を取り巻く環境やシステムを整備する役割」である。1990年代からは、「4.学習者と教師という二項対立的な捉え方から脱却し、学習者と他者との学び合いを促進するための場を設計する役割」に分類している。1980年代以降、日本語教師に求められる役割は、新たな言説が既存の言説に取って代わっているのではなく、さまざまな言説が並立している状況だと述べている。

工学系研究科日本語教室における日本語教育は、学習者個人にとどまらず、ゼミやキャンパス、社会環境など学習者を取り巻くコミュニティ全体にまで及ぶ。日本語教育の対象は留学生だけでなく、日本人学生や留学生を取り巻く人々も含まれている。日本語教師は学習者と他者との学び合いを促進し、多様な人々とのつながりを深め、共に生きるための力を育成する役割も担っている。

具体的には、図1に示すように、教師は、5つの目的と3つのビジョンに沿い、教育場目に応じた役割を担う必要がある。第一に、留学生の基礎・専門日本語力を養うことが挙げられる。日本語教育の授業では、多忙で専門性を持つ大学院生を「学ぶ主体」として捉え、自

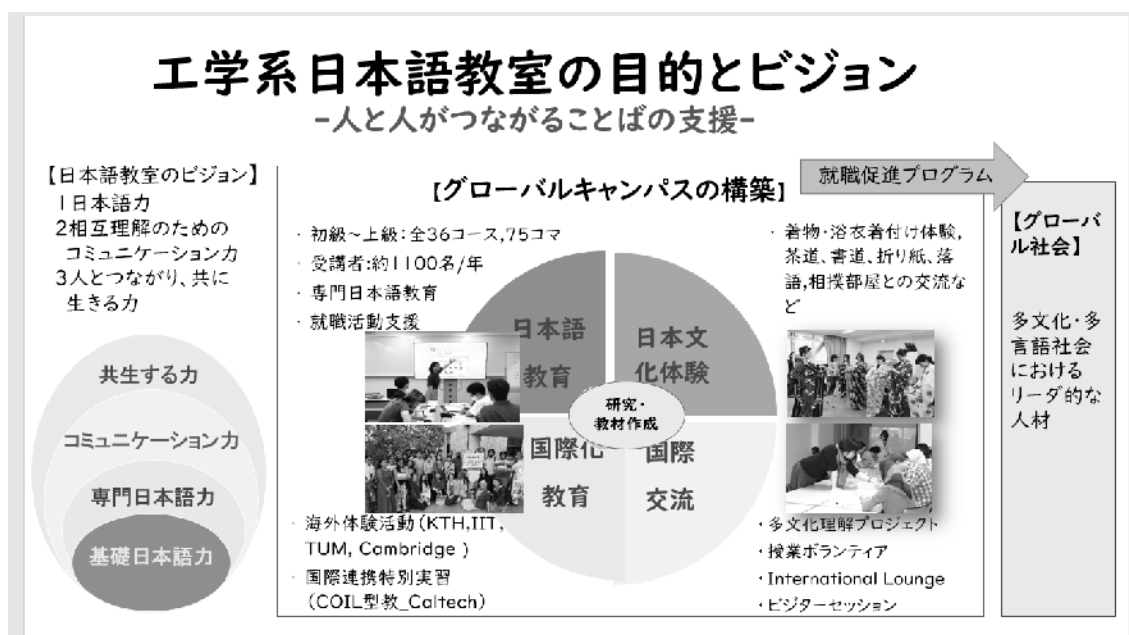


図1 工学系日本語教室の目的とビジョン

律的な学習を支援する。第二に、日本語の背景にある伝統文化（書道、茶道、着付け、折り紙、落語）を体験的に学び、新たな価値を創造する力を養うことが求められる。第三に、日本人学生と留学生の双方を学ぶ主体とし、多文化理解プロジェクトや International Lounge、授業ボランティアなどを通じて、多文化理解の相互学習を促進し、グローバルキャンパスの構築に寄与している。第四に、国際連携特別実習や海外体験活動では、海外協定校の留学生と日本人学生の相互学習の環境を開発し、整えている。このように、当教室では、古屋（前述）の分類における 2. 3. 4. の役割を担っている。

今後、学習者を取り巻く環境やニーズはますます多様化、複雑化することが予想される。そのため、日本語教師は、自身の役割を自覚し、学び、成長し続けていくことが求められる。

本報告書は 2023 年度の工学系研究科日本語教室の授業・諸活動を振り返り、今後の課題を明確にすることで、さらに充実した日本語教育の実施を目指して作成した。日本語教育の状況は常に変化するため、今後も日本語教育の動向を注視し、改善と発展に向けて努力し、社会に貢献する活動を展開していきたい。本報告書が工学系研究科の教職員や関係者、また日本語教育に関心のある方々にとって役立つことを願うと同時に、平素より工学系研究科日本語教室へのご理解、ご支援を頂いている皆様に深く感謝を申し上げる。

2024 年 3 月

工学系研究科 国際工学教育推進機構 国際教育部門 古市由美子

参考文献：

古屋憲章・古賀万紀子・孫雪嬌・小畑美奈恵(2018)「日本語教師の役割とあり方をめぐる言説の変遷 ―日本語教師の専門性を考えるための基礎資料として―」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』10、pp.63-71

目 次

はじめに

工学系日本語教室 2023 年度活動概要

第1章 日本語教室の概要	1
1.1 運営と目的	1
1.2 受講対象者および教職員	2
1.3 学内日本語教育関連組織との連携	3
1.4 年間スケジュール	4
第2章 日本語教育の実践と運営	6
2.1 概要	6
2.2 コースデザインの特徴	7
2.3 コースの履修プロセス	8
2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告	9
2.5 受講者と修了者	100
2.6 日本語教室のコース評価	111
2.7 言語使用実態調査	118
第3章 日本文化事情・文化体験	126
3.1 SIS2 日本文化体験	126
3.2 A1A2 日本文化体験	127
第4章 国際交流支援	130
4.1 学生授業ボランティア	130
4.2 多言語交流会 International Lounge	135
4.3 日本語ラーニングアドバイスセッション	137
第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携	140
5.1 戦略的サバティカル	140
5.2 米国世界展開強化事業	142
5.3 インド体験活動プログラム	150
5.4 さくらサイエンスプログラム	155
5.5 海外協定校との連携	158
第6章 研究活動・教材作成	159
6.1 当教室における日本語教育の実践研究の発表	159
6.2 各専門分野における研究成果	160
6.3 MOOC 教材の研究会と使用の広がり	162
第7章 今後の課題	163
7.1 日本語教育	163
7.2 日本文化事情・文化体験	164
7.3 留学生と日本人学生の国際交流支援	164
7.4 国際化教育	165
7.5 実践研究および教材開発	166
巻末資料	
2023 年度 SIS2/A1A2 工学系研究科日本語教室概要・時間割	167
受講者数・修了者数データ	175
Can Do Statements	183
言語背景調査シート・コース評価シート	184
ポスター	188

工学系日本語教室 2023 年度活動概要

(<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp>)

工学系日本語教室は 1981 年に開室され、2023 年度で 43 年目を迎える。また年次報告書の作成は、2010 年度から始まり¹、工学系日本語教室の活動記録、学内・学外への情報発信の役割も担っている。

2023 年度の年報は、「はじめに」「目次」「工学系日本語教室活動概要」（本稿）に続き、全 7 章（第 1 章～第 7 章）および巻末資料で構成されている。以下、各章の概要と巻末資料の概要を記す。

第 1 章「日本語教室の概要」は 4 節に分かれており、第 1 節では、当教室の運営方針と目的、第 2 節では、受講対象者の範囲や受講が優先される専攻、当教室の教職員の紹介、第 3 節では、学内日本語教室との関係・連携についての説明、第 4 節で、年間スケジュール一覧を掲載している。

第 2 章「日本語教室の実践と運営」は、全 7 節で構成されており、第 1 節では、入門から上級 2 レベルまでのコース一覧と使用教室、授業時間などについての説明、第 2 節では、学習者のニーズを踏まえたレベル別コースデザインの特徴を初級、中上級、専門日本語教育、多文化理解教育、就職支援の 5 項目に分けて記載している。第 3 節では、当教室の授業運営管理システムである STAR (Student Tools for Access and Review) を用いた履修登録の流れを紹介している他、文化体験や留学生および日本人学生を支援する活動にも触れている。第 4 節は 2023S1S2 に実施された全 33 コースのシラバスの紹介と授業実践報告であり、各コースの担当教員それぞれの授業実践や内省、教育的考察などが記されている。第 5 節は 2023 年度 S1S2 および A1A2 の受講者と修了者に関する報告で、2011 年度から 2023 年度までの年度別受講者の推移の他、受講者数に関しては、「研究科別・レベル別」「身分別」「専攻別」に、修了者数に関しては「研究科別・レベル別」「専攻日本語教室別」に分けて報告している。また、前年度同学期との比較なども行い、よりよい学習者支援のための考察の一助としている。第 6 節「日本語教室のコース評価」では、2023A1A2 におけるコース評価アンケートの結果をまとめている。2023 年度のアンケートは全 31 の質問からなり、学習者からの回答を今後の学生支援の立場から分析している。続く 7 節「言語使用実態調査」は、全 27 の質問からなるアンケートで、学習者の母語や日本での滞在予定、コース修了後の進路な

¹ 2011 年度は年報に代えて『日本語教室 30 年の歩み - 東京大学大学院工学系研究科- 1981 年 - 2011 年』(古市由美子、山崎佳子、西野章代 執筆)を作成した。

ども確認した上で、学習者がどのような場面で日本語を必要としているか、困難を感じているのはどのような場面かなどを調べている。調査の結果は今後のコース展開および授業内容の検討に活かされる。

第3章「日本文化事情・文化体験」は2節に分かれ、第1節では2023S1S21に、第2節では2023A1A2に行った文化体験やワークショップの報告がなされている。このような文化イベントの開催は当教室の大切なミッションの一つである。

第4章「国際交流支援」は3節に分かれている。第1節「学生授業ボランティア」は、2012A1A2から日本人学生の国際化教育の一環として始まった活動で、年報では、その募集方法から、参加学生の学期末アンケートの結果までを報告している。第2節「多言語交流会 International Lounge」では、2012S1S2から実施している留学生、日本人、教職員のキャンパス内国際交流活動、通称 IL の活動報告を行っている。IL は国際教育部門に属するグローバル教育と当日本語教室の共催で実施されており、活動の発展を目指し、様々な取り組みを行っている。第3節「日本語ラーニングアドバイスセッション」は、大学の長期休暇における留学生支援活動で、2022A1A2 から始まった。2023 年度年報では、2023S1S2（2 月、3 月）および 2023A1A2（7 月、8 月）の活動報告がなされている。アドバイザーは東京大学大学院の修士・博士課程の学生である。

第5章「海外協定校とのネットワークの構築と連携」は全5節で構成されている。第1節では、古市教室長が今後の工学系日本語教室の発展を視野に実施した「戦略的サバティカル」の報告が行われている。第2節「米国世界展開強化事業（COIL）」では、国際工学教育推進機構の科目である国際連携（特別）実習の報告をしており、交流先のカリフォルニア工科大学の学生との協働学習プログラムについて記載されている。第3節「インド体験活動プログラム」では、2023A1A2 にインド工科大学カンプール校およびバナラス・ヒンドゥー大学での活動が報告されている。こうした活動を通じて、優秀な工学系インド人学生が今後東京大学で学ぶ機会となることも期待されている。第4節「さくらサイエンスプログラム」は、「インドの工学・情報技術を担う高度人材のための最新技術体験と交流促進プログラム」であり、今年度は2023年12月20日から12月26日まで実施された。第4節ではこの活動について報告をしている。第5節「海外協定校との連携」では、2023 年度に海外の協定校から当教室に来室した協定校や現地事務所との交流について紹介しており、今年度はインド、イタリア、アメリカ、バングラデシュなどから来室があったほか、短期日本語授業も計3回行った。

第6章「研究活動・教材作成」は3節に分かれている。第1節では、日本語教育の実践・研究の発表を、第2節では各専門分野における研究成果について紹介している。また、第3節では、2022年に開発されたMOOCの現在の利用状況などについて紹介している。なお、2023年度末の登録者数は、Part1登録者数：16,852人、Part2：1,761人となっている。

第7章「今後の課題」第1節「日本語教育」、第2節「日本文化事情・文化体験」、第3節「留学生と日本人学生の国際交流支援」、第4節「国際化教育」、第5節「実践研究および教材開発」からなり、留学生に対するよりよい日本語教育、生活支援、日本人学生の国際化支援、教材開発など、当教室の課題と今後目指すべき方向性を示している。

巻末資料には、2023年度の使用教材、時間割、受講者数、修了者数（当教室および専攻日本語教室）、身分別、専攻別受講者数のほか、学期登録時に学生が自己評価を行う「Can Do Statements」、「言語背景調査」および「コース評価」の質問一覧を掲載している。また、留学生と日本人学生の交流活動や文化体験イベントに関するポスターも掲載している。

以上が2023年度年報の概要である。各章とも、よりよい授業実践、留学生と日本人学生への支援、学内外の充実した交流活動を目指して執筆されている。詳細については、各章、各節をお読みいただければと思う。

第1章 日本語教室の概要

1.1 運営と目的

工学系研究科日本語教室は1981年に設置され、2011年度からは工学系研究科国際工学教育推進機構国際事業推進センター下に配置された。その後、2020年4月の国際工学教育推進機構の組織変更に伴い、国際教育部門に所属することとなった。現在は、高鍋和弘部門長の下で日本語と日本文化の教育実践を行っている。

当教室の日本語科目は、2015年度に工学部・工学系研究科の教育問題検討会で審議、承認されて以来、単位付与の科目として実施されている。留学生・研究員を取り巻く環境づくりの一環として、円滑な研究生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目標としている。

また、近年、日本語教育の分野は、国際化教育の観点から留学生と日本人学生の双方を対象とした多文化理解教育、すなわち、国際感覚を鍛え、世界の多様な人々と共に生きるための力を育成する教育へと領域を拡大しつつある。このため、当教室でも、留学生が様々な背景を持つ他者と国籍、専攻を超えて関係を構築し、多文化理解を深めることを目標としている。当教室が日本語を学ぶ留学生の「居場所」となり、留学生が持つ文化を日本人学生などに発信する場となることも目指している。

以下の5項目が、当日本語教室が掲げる具体的な目標である。

- 1 留学生・研究員などに対する研究・生活支援としての日本語教育
- 2 留学生・研究員などに対する日本文化事情教育
- 3 留学生・日本人の交流および多言語・多文化支援
- 4 国際化推進の一環としての日本人学生の国際化教育
- 5 工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発

1. To provide Japanese language education to support academic life and life in Japan of international students and researchers.
2. To provide Japanese cultural education to international students and researchers.
3. To promote and develop friendship and understanding amongst multi-lingual and multi-cultural group of people.
4. To broaden Japanese students' knowledge and understanding of other cultures as a part of

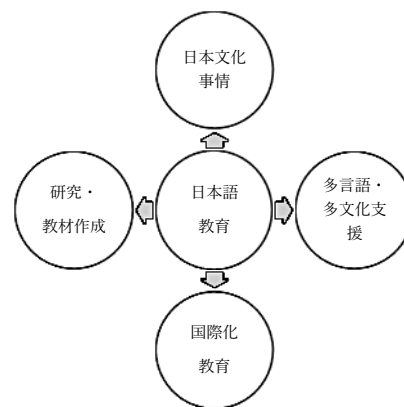


図1 日本語教室の目的

internationalization.

5. To conduct research on Japanese language education especially for science and engineering area, and to develop new learning materials.

1.2 受講対象者および教職員

当日本語教室の受講対象者は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の修士、博士、交換留学生（学部、大学院）、研究生、研究員、インターンシップ生とその配偶者である。これに加えて 2014 年度からは全学交換留学生（USTEP）の受け入れを開始するとともに、現在では他研究科の修士、博士、交換留学生、研究生も数多く受け入れている。日本語教室の教職員は、現在教授 1 名、特任准教授 1 名、特任講師 1 名、特任助教 2 名、非常勤講師 12 名、職員 2 名である。（各職位の氏名は下記の通り）。

教授：古市由美子

特任准教授：牛山和子

特任講師：猪狩美保

特任助教：金瑜眞、劉羅麟

非常勤講師：内田あゆみ・大西由美・片岡さゆり・米谷章子・佐藤瑞恵・鈴木恵理・

中村亜美・ハワード文江・東平福美・藤井明子・宮瀬真理・佐野理恵

職員：早坂美和子・山畑めぐみ

1.3 学内日本語教育関連組織との連携

1.3.1 東京大学内の日本語教育プログラム

東京大学では3つのキャンパスで多様な日本語教育プログラムが開講されている(図2参照)。

本郷キャンパスでは、グローバル教育センター日本語教育部門(日本語教育センター)、工学系研究科・工学部、人文社会系研究科・文学部、薬学系研究科・薬学部で日本語教育プログラムが開講されている。グローバル教育センター日本語教育部門(日本語教育センター)は、所属を問わず、全留学生、研究者、配偶者を対象に日本語教育をオンライン形式で行っている。工学系研究科・工学部、人文社会系研究科・文学部日本語教室は、所属留学生、研究者、配偶者を主な対象者とし、全留学生を定員の範囲内で受け入れている。薬学研究科・薬学部は所属の留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。

工学系研究科内には、当教室のほかに、4つの専攻日本語教室がある。当日本語教室は工学系研究科、情報工学系研究科、および新領域創成科学研究科の留学生、研究生、研究員、USTEP(全学交換留学生)、配偶者などを対象にしているのに対し、専攻日本語教室は専攻の留学生が主な対象である。専攻日本語教室は、設立年度順に社会基盤学日本語教室(1982年)、都市工学日本語教室(1987年)¹、システム創成系日本語教室(1989年)、IME大学院特別コース(2001年)の4つで、各々が独立し、日本語教育を行っている。

駒場Ⅰキャンパスでは、①PEAK(専門を主に英語で学ぶ正規課程プログラム)、②KOMSTEP(総合文化研究科・教養学部交換留学)とUSTEP(全学交換留学)、③前期課程日本語(専門を主に日本語で学ぶ正規課程生の基礎(外国語科目))、④補講(単位取得のできないコース)の日本語科目が提供されており、駒場Ⅱキャンパスでは、「駒場リサーチキャンパス日本語教室」で日本語コースを開講している。

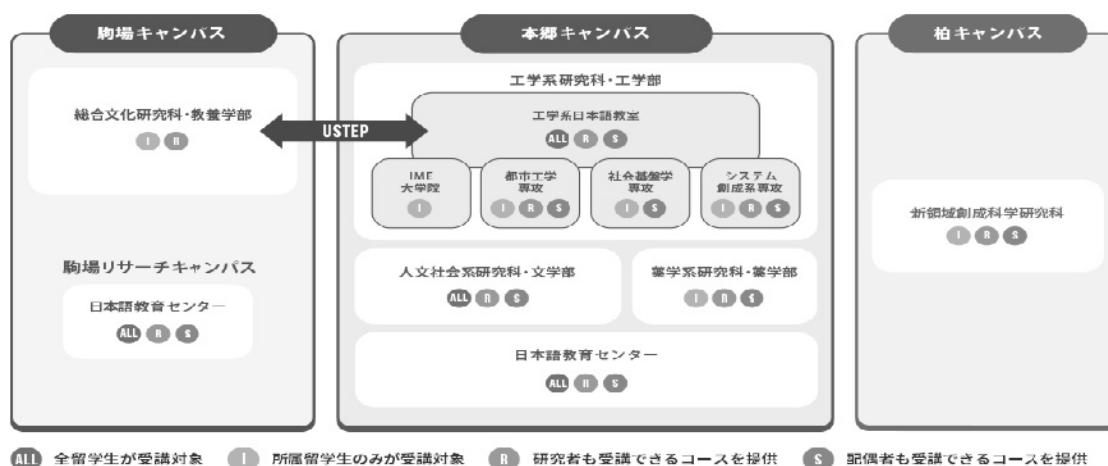


図2 東京大学の日本語教育の概要 (<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/jle/ja/index.html>)

柏キャンパスでは、新領域創成科学研究科国際交流室日本語教室で日本語プログラムが

提供されている。

1.3.2 工学系研究科内日本語教室との連携

2023 年度第 23 回工学系研究科日本語教室年次報告会は、2024 年 3 月 8 日にオンラインで行われた。当日は、各日本語教室顧問及び担当教員が出席し、当教室及び 4 つの専攻日本語教室からカリキュラム、活動内容、課題などについて報告が行われた。

今年度も当教室は「上級 日本組織事情 B」コースを除き、全コースで対面授業を行った。また、都市工学日本語教室も 4 年ぶりに対面授業を実施した。システム創成系日本語教室は、対面とオンラインを同時に行うハイブリッド形式の授業を、社会基盤学日本語教室は、言語指導はオンライン、定期試験、作文指導、文化活動は対面という形で授業を実施し、夜間に授業を行う IME 大学院特別コース日本語教室は、これまで同様、オンラインで授業を行った。なお、当教室は、2017 年度から都市工学日本語教室、システム創成系日本語教室と STAR (Student Tools for Access and Review) を共有しており、3 教室間の学習レベルが統一され、定員内であれば他専攻の学生も受け入れることができるようになっている。また、システム創成系日本語教室、社会基盤学日本語教室が当教室と初級テキストを同一にしていることで、教室間の学生移動もスムーズに行われている。

年次報告会では、顧問の先生方からコメントをいただくとともに、教室間の交流と連携を強化し、言語および文化の両面から留学生を支援すべく、活発な意見交換が行われた。

1.4 年間スケジュール

2023 年度の日本語教室のスケジュールは、以下の通りである。

[2023 年]

- 4 月 S1S2 学期授業開始 (4 月 5 日-7 月 26 日)
学生授業ボランティア受け入れ
- 6 月 S2 入門コース開始 (6 月 6 日)
書道ワークショップ、浴衣ワークショップ開催
- 7 月 七夕体験
S1S2 学期授業終了
- 8 月 工学系研究科日本語教室教師会
就職支援短期集中講座 (留学生就職促進プログラム)
- 9 月 2023 年度 A1A2 学期時間割・概要を HP に掲載、登録開始
- 10 月 A1A2 学期授業開始 (10 月 3 日-1 月 30 日)
体験活動にて学生授業ボランティア受け入れ
- 11 月 A2 入門コース開始 (11 月 30 日)
茶道体験、着物体験開催

- 12 月 さくらサイエンスプログラム IITK&IITH 受け入れ（7 日間、教員 1 名、学生 9 名）
折り紙ワークショップ、書道ワークショップ開催
冬休み（12 月 28 日-1 月 3 日）

[2024 年]

- 1 月 お汁粉体験開催
A1A2 学期授業終了
- 2 月 工学系研究科日本語教室教師会
インド体験活動（「インド人学生との学生交流およびインド文化体験活動
日本語教育のサポートと企業訪問をとおして」）実施
国際連携特別実習（カリフォルニア工科大学 COIL 型教育）の実施
就職支援短期集中講座・内定者・OB 講話会（留学生就職促進プログラム）
- 3 月 第 23 回工学系研究科日本語教育年次報告会
2024 年度 S1S2 時間割・概要を HP に掲載、登録開始

第2章 日本語教育の実践と運営

2.1 概要

日本語科目は、留学生を対象としており、2015年度に単位化されて以来、原則1コマ2単位が付与されている。レベルは、入門から上級2まで7レベルに分かれており、総合、会話、聴解、読解、文章とその他のコース（専門語彙・漢字、多文化理解プロジェクト、上級日本組織事情）がある。開講日程は、工学系研究科の学事日程に倣い、4月からS1S2（14週間）、10月からA1A2（14週間）としている。各学期の時間割、概要、シラバスは、当日本語教室のホームページに掲載されている（<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>）。授業は1コマ105分で、1限目8時30分～10時15分、2限目10時25分～12時10分、3限目13時～14時45分、4限目14時55分～16時40分である。日本語教室のオフィスは工学部8号館1階128B号室、非常勤講師室は2階88S号室である。当教室は、工学部8号館を中心に授業を行っている。

表1 工学系日本語教室 レベル別コース *（ ）内はコマ数、入門はS2/A2に開講

スキル レベル	総合		聴解	会話	読解	文章	その他
	レギュラー	インテンシブ					
初級I	初級1 (3)	インテンシブ初級 I (5)	*入門 (3)				
	初級2 (2)						
初級II	初級3 (2)	インテンシブ初級 II (4)					
	初級4 (2)						
中級1	総合(2)		聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	
中級2	総合(2)		聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	専門語彙・ 漢字(1)
中級3	総合(2)		聴解 (1)	会話 (1)	専門読 解(1)	文章 (1)	多文化理解 プロジェクト(1)
上級1	総合(2)		聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	日本組織事情 (1)
上級2	総合(1)			会話 (1)		文章 (1)	

2.2 コースデザインの特徴

当日本語教室では、レギュラーコースのほか、インテンシブコースやスキル別コースなど、多様なコースを提供している。また、工学系および情報理工学系の大学院生が主な対象者であることを踏まえ、中上級レベルでは、工学系に特化した日本語教育を実施している。さらに、専門分野の授業や実験と平行して出席できるよう、コース選択にバリエーションを持たせた時間割を設定している。以下に、日本語科目の特長をまとめた。

(1) バリエーション豊かな初級日本語コース

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は主に英語であるが、日本社会での生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級日本語コースを提供している。

- ・レギュラーコース：週 2 回 計 3 コマ（初級 1 は計 3 コマ）
- ・インテンシブ初級Ⅰコース：週 3 回 計 5 コマの集中コース
- ・インテンシブ初級Ⅱコース：週 2 回 計 4 コマの集中コース
- ・入門コース：S2/A2 から開始する週 2 回 計 3 コマ

レギュラーコースは、初級 1、2、3、4 に分かれており、修士・博士の学生が専門科目と両立させながら日本語を習得するコースである。インテンシブコースは、集中的かつ効率的に基礎的な日本語を習得するコースで、インテンシブ初級Ⅱはレギュラーコースの初級 1 と 2 の内容、インテンシブ初級Ⅲは、レギュラーコースの初級 3 と 4 の内容を S1S2 または、A1A2 で修了する。入門コースは S2 および A2 に開講され、基礎的な日本語の口頭表現に焦点を絞って習得するコースである。このように、学習時間数、開講日にバリエーションを持たせ、多様なニーズを持つ留学生が学習目的や学習状況によって日本語を学べるようなコース展開となっている。

(2) スキル別の中級・上級日本語コース

中級 1～3 および上級 1 レベルは、総合コースの他、聴解、会話、読解、文章のコースを設け、スキル別に日本語が学べるコースデザインにしている。スキル別にするにより、多忙な工学系留学生が実験や専門授業の合間に伸ばしたいスキルのコースを選択して受講することができるようになっている。上級 2 レベルについては、総合コースに加え、会話、文章のコースを開講しているが、2024S1S2 学期以降、聴解、読解コースに関しても開講を予定しており、すべてのレベルで多様なスキルを受講できることを目指している。

(3) 工学系に特化した専門日本語教育

当日本語教室は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の学生などを主な対象としていることから、生活で使われる日本語だけでなく、研究室でよく用いられる専門的な語彙や表現の指導も行っている。そのコースの一つである「中級1 専門読解」では、東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事に基づいた東京大学オリジナルのオンライン読解教材を大学総合教育研究センターと共同で開発した。この教材は東京大学の研究内容に関する文章の読解、語彙、文型、表現の習得を目指している。「中級2 専門語彙・漢字」では、当教室のコーパス研究チームで調査・研究した結果をもとに、専門語彙・漢字教育を行っている。「中級3 専門読解」では、中級1 専門読解と同様に、『Ttime!』の記事をもとに作成した工学系の研究内容に関する文章を読み、専門分野に関する語彙力、読解力の育成を目指している。このように、当日本語教室で工学系に特化したオリジナル教材を作成し、日本語教育を実施している。

2.3 コースの履修プロセス

コースの履修登録のプロセスは、次の通りである（図1参照）。開講1か月前に日本語教室のHPに時間割・概要・シラバスを掲載し、各専攻事務室に周知した後、STAR（Student Tools for Access and Review）システムを通したオンラインコース登録を開始する。

日本語教室で運営するコース履修を希望する学生は、レベル判定のためのプレイスメントテストを受ける。まず、「Can Do Statements（巻末資料参照）」に基づいて作成した日本語レベルを自己評価し、そのレベルに基づき、スキル別（文法、読解、聴解、作文）のテストを受ける。その判定結果に応じて表示される履修可能なコースから希望科目を選び、登録する。

このように、オンライン上で登録が可能のため、渡日前に日本語コースを決定することができる。

各コースの第1週目はオリエンテーション・ウィークである。教師はオリエンテーションガイドに沿ってコースのレベルや内容、スケジュールの説明を行う。また、履修登録をした留学生がそのコースのレベルに合っているかどうかを確認

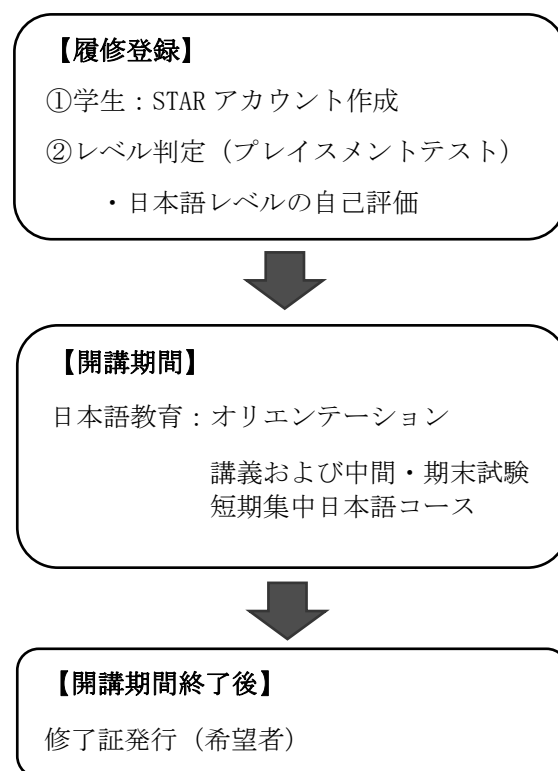


図1 コース履修のプロセス

認し、レベル変更を希望する留学生に対応する。

開講期間中には、日本語の講義の実施以外に、文化体験として茶道体験や着物体験、浴衣や書道のワークショップなど、様々な文化的なイベントを企画し開催している。他にも、シニアボランティアとの自由会話を行うビジターセッション、日本人学生や他の留学生と交流する International Lounge (IL) の開催、日本人学生の授業ボランティアとしてのクラス参加など、日本人と留学生との活発な交流支援を行う。

開講期間終了後、規定の要件を満たした学生には、希望に応じて修了証を発行する。

2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告

本節では、2023 年度に実施した各コースのシラバスと授業実践報告および冬季日本語特別集中科目 1、チュートリアルセッション、ビジターセッション&日本事情についての活動報告を行う。シラバスならびに授業実践報告は、「冬季日本語特別集中科目 1」を除き、2023S1S2 における報告であるが、2023A1A2 も、すべてのコースで授業を実施した²。

² S1S2、A1A2 とも、授業はすべて対面で実施したが、就職支援、キャリアサポートの観点から、「上級日本組織事情 B」コースのみ、オンラインで実施した。

入門

2023年度S1S2

レベル	: 入門
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 06/ 06 - 2023/ 07/ 26
時間	: 13:00 - 14:45 火曜日 14:55 - 16:40 火曜日 13:00 - 14:45 木曜日
場所	: 工学部8号館 88L教室
学習目標	: 初級前半の文型を習得し、日常生活での基本的なコミュニケーションができる。 カタカナ、ひらがなの認識ができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人。短期滞在者対象。
テキスト	: 『Basic Japanese for Students はかせ1』 (スリーエーネットワーク) まるごと プラス Learning Japanese https://a1.marugotoweb.jp/en/index.php
評価	: 教室活動5%、課題15%、かなクイズ10%、語彙クイズ10%、中間試験20%、学期末試験25%、学期末口頭発表15% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位3認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-901-1, 学部FEN-JL4m01L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	6/ 6	火	オリエンテーション, 語彙クイズL1, L1, カタカナ (ア～サ行)
2	6/ 6	火	L1
3	6/ 8	木	L2, 語彙クイズL2締め切り, カタカナ (タ～ハ行)
4	6/ 13	火	L3, 語彙クイズL3 締め切り カタカナ (マ～ワ行)
5	6/ 13	火	L4(p.45まで)
6	6/ 15	木	L4(p.46から), 語彙クイズ L4 締め切り, カタカナ (特殊音), 課題1配布
7	6/ 20	火	L5, 語彙クイズL5 締め切り, カタカナ復習, 課題1締切、課題2配布
8	6/ 20	火	L1-L5 復習
9	6/ 22	木	中間試験, カタカナクイズ, 課題2締切
10	6/ 27	火	L6, 語彙クイズ L6&L7 締め切り, ひらがな (あ～さ行), 課題3配布
11	6/ 27	火	L7
12	6/ 29	木	L8, 語彙クイズ L8 締め切り, ひらがな (た～は行), 課題3締切
13	7/ 4	火	L9, 語彙クイズ L9&L11締め切り, ひらがな (ま～わ行), 課題4配布、中間試験FB
14	7/ 4	火	L11(p.113まで)

15	7/ 6	木	L12, 語彙クイズL12 締め切り, ひらがな（特殊音）, 課題4締め切り,課題5配布,Final presentation preparation1: Introduction
16	7/ 11	火	L13, 語彙クイズL13 締め切り, ひらがな（復習）, 課題5締切,Final presentation preparation2: 1st draft due(Submit in GCR)
17	7/ 11	火	L13
18	7/ 13	木	L14, 語彙クイズ L14 締め切り, ひらがなクイズ, Final presentation preparation3: First draft Feedback return&revising(re-write)
19	7/ 18	火	【休講】補講日
20	7/ 18	火	【休講】補講日
21	7/ 20	木	期末試験
22	7/ 25	火	Final presentation preparation4: Final draft due, Rehearsal, Check the slides, pronunciation practice
23	7/ 25	火	Final presentation

入門

報告者：金 瑜眞・中村 亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

入門コースは、日本語学習において、ゼロ初級の学習者を対象とする。特に、新学期開始以降に来日した学習者や、スケジュールや日本語レベル、進度の関係などで初級1コースの履修が難しい学習者を対象に、日常生活において必要な表現・語彙を習得することを目的としている。S2 学期に開講し、週3コマ、7週間の授業を行った。教科書は『はかせ1』（スリーエーネットワーク）を用い、授業は主に1) 新出語彙の導入、2) 文型の導入、3) 会話練習などによる応用練習の流れで行った。

【授業の内容】

7週間という短い授業期間のため、『はかせ1』のL1～9及びL11～14を扱った。教科書のトピックに沿って授業を進め、挨拶、数字、時刻、動詞、形容詞などを学び、その定着を図った。教科書はローマ字が併記されているものであったが、文字学習の時間を設け、カタカナとひらがなの導入を行い、基本的な文字習得ができるように指導した。導入が終わった時点で、カタカナとひらがなのクイズをそれぞれ実施し、文字の定着を図った。

2. その他

本コースでは、上記のカタカナ・ひらがなクイズに加え、中間試験、期末試験、語彙クイズ、課題、期末口頭発表も評価に入れた。語彙クイズは予習型にし、各課の導入前に学生が語彙を勉強し、オンライン上のリンクにアクセスしてクイズを受けることにした。課題は学期を通して5回に渡り、宿題として配布し、学習者が文字に親しみを持てるよう、レストランのメニューなどからカタカナのことばをさがす「カタカナハンティング」や習った表現を使用し作文を書く「日記」などの練習を行った。

3. まとめ・今後の課題

今年度は、対面授業で授業を行い、昨年度より多い6名の学生が修了した。受講生は毎回の授業内の活動だけでなく、授業外の課題にも意欲的に取り組み、初級初期における基礎的な日本語能力を十分に身につけることができ、全員優秀な成績で修了した。

インテンシブ初級Ⅰ

2023年度S1S2

レベル	: 初級Ⅰ レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 10:25 - 12:10 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日 10:25 - 12:10 水曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 123教室
学習目標	: 入門レベルから初級前半(L1-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を110字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『にほんごチャレンジ かんじN4-5』(アスク) *勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、かなクイズ3%、文法クイズ10%、作文課題・中間発表14%、聴解課題5%、録音課題3% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位10認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-910-1、学部 FEN-JL4m12L1。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者のみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。
担当	: 大西 由美 ONISHI Yumi, 鈴木 恵理 SUZUKI Eri, 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin nihongo@jlscse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション, はじめましょう
2	4/ 5	水	L1, 語彙クイズL1
3	4/ 7	金	応用練習 (L1), Japanese Writing System, ひらがな1 (あ・か・が・さ・ざ)
4	4/ 10	月	L2, 語彙クイズL2, ひらがな2 (た・だ・な・は・ば・ぱ)
5	4/ 10	月	L2
6	4/ 12	水	【休講】入学式
7	4/ 12	水	【休講】入学式
8	4/ 14	金	応用練習 (L2), ひらがな3 (ま・や・ら・わ)
9	4/ 17	月	L3, 語彙クイズL3, ひらがな4 (拗音、長音、撥音、促音、助詞「は」「を」)
10	4/ 17	月	L3
11	4/ 19	水	L4, 語彙クイズL4, ひらがなクイズ, 聴解課題①配布

12	4/ 19	水	L4
13	4/ 21	金	応用練習(L3&L4), カタカナ1 (ア・カ・サ・ガ・ザ)
14	4/ 24	月	L5, 語彙クイズL5, カタカナ2 (タ・ダ・ナ・ハ・パ・バ行), 聴解課題①締切
15	4/ 24	月	L5
16	4/ 26	水	L6, 語彙クイズL6, カタカナ3 (マ・ヤ・ラ・ワ), 聴解課題②配布
17	4/ 26	水	L6
18	4/ 28	金	応用練習 (L5&L6), カタカナ4 (拗音・長音・撥音・促音)
19	5/ 1	月	L7, 語彙クイズL7,カタカナクイズ,聴解課題②締切,作文課題①配布
20	5/ 1	月	L7
21	5/ 3	水	祝日
22	5/ 3	水	祝日
23	5/ 5	金	祝日
24	5/ 8	月	L8, L8語彙クイズ, Kanji(Intro& 1-5),作文課題①締切
25	5/ 8	月	L8
26	5/ 10	水	L9, L9語彙クイズ, 漢字 (6-10), 作文課題②配布、聴解課題③配布
27	5/ 10	水	L9
28	5/ 12	金	応用練習 (L7&L8&L9) , まとめ1, 漢字クイズ(1-10)、作文課題②締切、聴解課題③締切
29	5/ 15	月	L10, L10語彙クイズ, 漢字 (11-15),録音課題① 配付
30	5/ 15	月	L10
31	5/ 17	水	L11, L11語彙クイズ, 漢字 (16-20)
32	5/ 17	水	L11
33	5/ 19	金	応用練習 (L10&L11) , 漢字クイズ (11-20)
34	5/ 22	月	L12, L12語彙クイズ, 漢字 (21-25) ,作文課題③配布,録音課題① 締切
35	5/ 22	月	L12
36	5/ 24	水	Matome2, 復習 (L1-L12), 漢字(26-30) ,作文課題③締切
37	5/ 24	水	中間発表導入&準備
38	5/ 26	金	中間試験(L1-L12), 漢字クイズ (21-30)
39	5/ 29	月	【休講】補講日
40	5/ 29	月	【休講】補講日
41	5/ 31	水	中間発表導入、準備
42	5/ 31	水	中間発表
43	6/ 2	金	【休講】中休み、漢字クイズ (31-40)
44	6/ 5	月	L13, L13語彙クイズ, 漢字 (41-45) ,聴解課題④ 配布
45	6/ 5	月	L13
46	6/ 7	水	L14, L14語彙クイズ, 漢字 (46-50) ,作文課題④配布、中間試験Feedback
47	6/ 7	水	L14
48	6/ 9	金	応用練習 (L13&14) , 中間試験Feedback、漢字クイズ (41-50) 聴解課題④ 締切
49	6/ 12	月	L15, L15語彙クイズ, 辞書形クイズ, 漢字 (51-55) ,作文課題④締切
50	6/ 12	月	L15
51	6/ 14	水	L16, L16語彙クイズ, て形クイズ, 作文課題⑤配布,漢字(56-60)
52	6/ 14	水	L16
53	6/ 16	金	応用練習(L15&L16),漢字クイズ (51-60)
54	6/ 19	月	L17, L17語彙クイズ,漢字 (61-65) ,聴解課題⑤配布
55	6/ 19	月	L17
56	6/ 21	水	L18, L18語彙クイズ, ない形クイズ, 漢字 (66-70) , 録音課題② 配付

57	6/ 21	水	L18
58	6/ 23	金	応用練習(L17&L18), 漢字クイズ(61-70),作文課題⑤締切,聴解課題⑤締切
59	6/ 26	月	た形クイズ, 復習(L13-L18), 漢字 (71-75)
60	6/ 26	月	まとめ3
61	6/ 28	水	L19, L19語彙クイズ,漢字(76-80) ,録音課題② 締切,作文課題⑥配布
62	6/ 28	水	L19
63	6/ 30	金	応用練習 (L19) , 漢字クイズ (71-80)
64	7/ 3	月	L20, 語彙クイズL20, 普通形クイズ, 漢字 (81-85) , 作文課題⑥締切, 期末口頭発表準備1:Introduction
65	7/ 3	月	L20
66	7/ 5	水	L21, L21語彙クイズ, 漢字 (86-90) , 聴解課題⑥配布, 期末発表準備2:タイトル締切
67	7/ 5	水	L21
68	7/ 7	金	応用練習 (L20&L21) , 漢字クイズ (81-90)
69	7/ 10	月	L22, L22語彙クイズ, 漢字 (91-95),期末発表準備3:1st draft 締め切り
70	7/ 10	月	L22
71	7/ 12	水	応用練習 (L21&L22) , 漢字(96-100),聴解課題⑥締切
72	7/ 12	水	まとめ4
73	7/ 14	金	期末発表準備 4:1st draft Feedback return & 1st draft revision (re-write), 漢字クイズ (91-100)
74	7/ 17	月	祝日
75	7/ 17	月	祝日
76	7/ 19	水	【休講】補講日
77	7/ 19	水	【休講】補講日
78	7/ 21	金	期末試験のための復習(L13-L22) (復習シート) , 漢字 (101-105)
79	7/ 24	月	期末試験(L1-L22)
80	7/ 24	月	期末発表準備5:Final draft提出・PPT確認、漢字 (106-110)
81	7/ 26	水	期末発表準備6:リハーサル、Q&A練習、漢字クイズ (101-110)
82	7/ 26	水	期末発表、final draft提出

インテンシブ初級 I

報告者：大西 由美・鈴木 恵理・金 瑜眞

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、はじめて日本語を学ぶ学習者を対象とした初級のインテンシブコースである。授業は週 3 回行われ、週 5 コマである。主教材として、スリーエーネットワーク社の『日本語初級 1 大地』を使用した。学習目標として、初級前半 (L1-22) の文型および語彙を学習することで、総合的な日本語の運用力を身につけることを挙げた。文字については、ひらがな・カタカナを含め、日本語能力試験 N5 相当の漢字を 110 字習得することを目標として、アスク出版の『にほんごチャレンジかんじ N4-5』を使用して指導を行った。

【授業の内容】

本コースにおける内容および進度は、概ね次の通りである。月曜日と水曜日の授業において、それぞれ一つの課を終わらせるように進め、金曜日はその週に学習した課の応用練習を行った。学生が各自語彙リストを参照し語彙を学習した後、オンラインの語彙クイズのリンクにアクセスし、クイズを受けてもらった。授業では、文型の導入、パターンプラクティス、教科書の問題や会話練習などを行った。なお、各課の終了後は、文法クイズと聴解練習等を行い、学習した内容について確認を行った。その他、授業外で作文課題・聴解課題・録音課題を与え、文法・語彙・表現などの添削指導、日本語の会話を聞き正しく理解するための練習、日本語の自然な発音と抑揚を身につけるための練習などを行った。

2. その他

学期の中間と学期末において、口頭発表を実施した。口頭発表の目的は、これまで学習した文型を使い口頭表現の練習を行うことと、インプットが多い授業の中でアウトプットの練習を行うことで、学習者が自分の能力をモニターする機会を提供することである。口頭発表では、2～3 分のプレゼンテーションの後、1 分間の質疑応答を行った。学習者には、発表の前にスクリプトを作成・提出させ、担当教員が文法や構成等についてチェックするとともに、発表の際のパフォーマンスや発音等についてフィードバックを行った。

3. まとめ・今後の課題

今学期の受講生は総じて真面目であり、授業や課題などに誠実に取り組み、授業内で積極的に質問などもしていた。一方で、入試の準備などで多忙な学生も多く、授業を休んでしまい、修了に至らなかったケースもあった。対面授業の再開に伴い、登録者が大きく増えたことも踏まえ、今後も、登録だけにとどまらず、コースを最後まで履修できるよう教師側がさらに動機付ける必要性が窺えた。

初級1

2023年度S1S2

レベル	: 初級 I レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 10:25 - 12:10 水曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 88L(月) 324B(水) 324C(金)
学習目標	: 入門レベルから初級前半(L1-12)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を50字習得する。基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, *勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験25%、中間口頭発表10%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、かなクイズ5%、文法クイズ5%、課題(聴解・録音) 10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 (その場合は評価の80%が成績に反映される) ・クイズの追試は行わない
その他	: 1. 単位6認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-904-1 学部FEN-JL4m20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri, ハワード 文江 HOWARD Fumie, 鈴木 恵理 SUZUKI Eri, 藤井 明子 FUJII Akiko, 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション, L0(はじめましょう), 教室内で使う日本語, オンラインサイトの紹介
2	4/ 7	金	L1(1,2,3), ひらがな(1) あ, か, が-行
3	4/ 10	月	L1 (4,5), ひらがな(2) さ, ざ, た, だ-行
4	4/ 12	水	【休講】入学式
5	4/ 14	金	L1 復習, L2-1, 語彙クイズL1, ひらがな(3) な, は, ば, ぱ-行
6	4/ 17	月	L2(2,3,4), 語彙クイズL2 (due) , ひらがな(4) ま, や, ら, わ-行
7	4/ 19	水	L2(5,6,7)
8	4/ 21	金	L3(1,2), 語彙クイズL3 (due) , ひらがな(5) 特殊音
9	4/ 24	月	L3(3,4), ひらがな復習
10	4/ 26	水	L4(1,2), 語彙クイズL4 (due) , ひらがな復習
11	4/ 28	金	L4(3,4), ひらがなクイズ, 聴解課題①配布
12	5/ 1	月	L2&L3&L4(応用練習), L5 1-1, 1-2, カタカナ(1) ア, カ, ガ, 長音, 聴解課題①締切
13	5/ 3	水	祝日

14	5/ 5	金	祝日
15	5/ 8	月	L5(1-3,2,3), 語彙クイズL5 (due) , カタカナ(2)サ, タ, ザ, ダ-行
16	5/ 10	水	L5(4,5),カタカナ(3) ナ, ハ, バ, パ-行,録音課題①配布
17	5/ 12	金	L6(1,2,3), 語彙クイズL6 (due) , カタカナ(4) マ, ヤ, ラ, ワ-行
18	5/ 15	月	L6(4,5), カタカナ(5) カタカナ特殊音, 聴解課題②配布
19	5/ 17	水	文法クイズ(動詞の活用),L5&L6 (応用練習), カタカナ復習, まとめ1(L1-L6),聴解課題②締切
20	5/ 19	金	中間試験のための復習(L1-L6) (復習シート) , 漢字L1#1-5, カタカナクイズ,録音課題 ①締切
21	5/ 22	月	中間試験 (L1-L6)
22	5/ 24	水	L7(1,2-1,2-2)、語彙クイズL7 (due) , 漢字L1#6-10
23	5/ 26	金	L7(2-3,3),漢字クイズL1 (#1-10)
24	5/ 29	月	【休講】 補講日
25	5/ 31	水	L7(4), Kanji L2#11-15, 中間発表準備 (intro), 中間試験Feedback
26	6/ 2	金	【休講】 中休み
27	6/ 5	月	L8(1,2),語彙クイズL8 (due), 漢字L2#16-20
28	6/ 7	水	L8(3,4), 漢字クイズL2 (#11-20)
29	6/ 9	金	L8(5), 中間発表
30	6/ 12	月	L7,L8(応用演習), 漢字L3#21-25
31	6/ 14	水	L9(1,2), 語彙クイズL9 (due), 漢字L3#26-30
32	6/ 16	金	L9(3,4),漢字クイズL3 (#21-30) ,聴解課題③配布
33	6/ 19	月	L10(1,2), 語彙クイズL10 (due), 漢字L4#31-35 ,聴解課題③締切
34	6/ 21	水	L10(3,4), 漢字L4#36-40,録音課題②配布
35	6/ 23	金	L9&L10(応用練習), 漢字クイズL4 (#31-40)
36	6/ 26	月	L11(1,2), VocabQuizL11 (due), 漢字L5#41-45
37	6/ 28	水	L11(3,4), 漢字L5#46-50 , Final Presentation preparation 1(Intro of Final Presentation), 録音課題② due, 聴解課題④配布
38	6/ 30	金	L11(5), L11(応用練習),漢字クイズL5 (#41-50),聴解課題④締切
39	7/ 3	月	L12(1), 漢字復習, 語彙クイズL12 (due), Final Presentation preparation 2(Title due)
40	7/ 5	水	L12(2), Final Presentation preparation 3(1st draft due)
41	7/ 7	金	L12(3), L12(応用練習), 漢字まとめクイズL1-5(#1-50)
42	7/ 10	月	Final Presentation preparation 4(1st draft feedback 返却 & Draft修正)
43	7/ 12	水	文法クイズ(Adj Conjugation),まとめ2(L7-L12),Final Presentation preparation 5 (2nd draft 締切)
44	7/ 14	金	期末試験のための復習 (復習シート)
45	7/ 17	月	祝日
46	7/ 19	水	【休講】 補講日
47	7/ 21	金	Final Presentation preparation 6(期末発表リハーサル、発音練習、PPT準備&締切)
48	7/ 24	月	期末試験(L1-12)
49	7/ 26	水	期末口頭発表

初級 1

A クラス：金 瑜眞・片岡 さゆり・ハワード 文江

B クラス：鈴木 恵理・藤井 明子・宮瀬 真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大地 1』（スリーエーネットワーク）の前半（L1～L12）を扱い、初級前半の文法項目の定着ならびに「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能をバランスよく伸ばすことを目指した。授業は、月・水・金の週 3 回（1 回 105 分）で行った。文字については、ひらがなとカタカナを導入した後、『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）の L5 までの 50 字を、漢字シートを配布して指導した。

【授業の内容】

まず、新しい課に入る授業の前に、語彙クイズを満点が取れるまで受けるように学生に指示し、語彙の定着を図った。授業では、文型の導入、基本練習、応用練習を実施し、口頭練習を心掛けた。授業後には、「扉の会話」を元に作成した聴解課題の他、録音課題や漢字クイズを課し、聴解能力および発音・文字認知能力の向上を目指した。定期試験の前には、復習プリントを使用した復習や副教材のリスニング問題集を使った練習などを実施した。学期半ばには、課題の一環として、クラスや研究室など身近な友人へのインタビューを課し、タスクシートにまとめた結果をクラスで発表させた。学期末には総復習として出身国の紹介や旅行、趣味などに関する期末口頭発表を実施した。

2. その他

2022A1A2 からの対面授業再開に伴い、2023S1S2 も対面で授業を実施したことで、各学生における学習の進捗や様子が把握しやすくなり、ゼロ初級において重要な仮名や基礎的な漢字の書き方、学生の発音指導なども、問題なく行うことができたと考えられる。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：学期開始時には 21 名が登録し、最終的に 10 名が修了した。修了した学生は、いずれもクイズや課題、定期試験を真面目にこなしていた。期末試験を受けたが、出席率が基準に満たず、修了できなかった学生や成績が修了レベルに至らなかった学生がいたことから、出席率の管理や復習について引き続き注意していきたい。

B クラス：学期開始時には 20 名が登録し、最終的に 12 名が修了した。学期開始前から呼びかけた「かなカナの予習」をしてきた学生と、してこなかった学生の間で少しずつ理解の差が開いた印象があったので、来学期は文字学習の徹底と各授業の復習を強く促していきたい。

初級2

2023年度S1S2

レベル	: 初級 I
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部8号館 88L(月) 88M(水)
学習目標	: 初級前半(L13-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N5相当の漢字を60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, *勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、文法クイズ15%、作文課題・中間発表15%、聴解課題5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-905-1、学部FEN-JL4m30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者 にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席 とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコース の第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」 を受けてください。
担当	: 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 中村 亜美 NAKAMURA Ami, 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション, レベルチェッククイズ
2	4/ 10	月	L13(1-2)
3	4/ 12	水	【休講】入学式
4	4/ 17	月	語彙クイズ(L13)、L13(3-4)、Listening&Dialogue、Reading&Writing、聴解課題1【配布】
5	4/ 19	水	語彙クイズ(L14)、L14(1-2)、漢字#51-55、聴解課題1【締切】
6	4/ 24	月	L14(3-4)、漢字#56-60
7	4/ 26	水	漢字クイズ (51-60) , L14(5)、L&D、R&W、作文課題1【配付】
8	5/ 1	月	文法クイズ (辞書形) 、語彙クイズ(L15)、L15(1-3)
9	5/ 3	水	祝日
10	5/ 8	月	L15(4-5)、L&D、R&W、漢字#61-65、作文課題1【締切】
11	5/ 10	水	文法クイズ (て形) 、語彙クイズ(L16)、L16(1-2)、漢字#66-70
12	5/ 15	月	漢字クイズ(#61-70)、L16(3-4)、L&D、R&W、作文課題2【配付】
13	5/ 17	水	語彙クイズ(L17)、L17(1-3)、漢字#71-75

14	5/ 22	月	文法クイズ(ない形)、L17 (4) 、L&D、 R&W、 漢字76-80, 聴解課題2【配布】、作文課題2【締切】
15	5/ 24	水	漢字クイズ (#71-80) 、復習(L13-17)、中間発表 (作文課題) の説明,聴解課題2【締切】
16	5/ 29	月	【休講】 補講日
17	5/ 31	水	中間試験(L13-17)
18	6/ 5	月	語彙クイズ(L18)、L18(1-3)、作文課題3【配付】
19	6/ 7	水	文法クイズ (た形) 、L18 (4) 、L&D、 漢字#81-85、中間発表 (作文課題)
20	6/ 12	月	語彙クイズ(L19)、L19 (1、2-1、2-2) 、漢字#86-90、まとめ3, 作文課題3【締切】
21	6/ 14	水	漢字クイズ (#81-90) 、L19 (2-3, 2-4, 3) 、L&D、 R&W
22	6/ 19	月	語彙クイズ(L20)、L20(1,2-1,2-2,2-3)、作文課題4【配付】
23	6/ 21	水	文法クイズ (普通形) 、L20(2-4,2-5)、L&D、 R&W、 漢字#91-95
24	6/ 26	月	語彙クイズ(L21)、L21(1,2)、漢字#96-100、作文課題4【締切】、学期末口頭発表準備1 (導入)
25	6/ 28	水	漢字クイズ(#91-100)、L21(3)、L&D、 R&W、聴解課題3【配布】、学期末口頭発表準備2 (タイトル【締切】)
26	7/ 3	月	語彙クイズ(L22)、L22(1-2)、漢字#101-105、聴解課題3【締切】
27	7/ 5	水	L22 (3-4) 、漢字106-110、学期末口頭発表準備3期末発表1st draft 締切
28	7/ 10	月	漢字クイズ (#101-110)、L22 L&D、 R&W、まとめ4、学期末口頭発表準備4(First Draft返却&リライト) , 聴解課題 4【配布】
29	7/ 12	水	漢字まとめクイズ(#51-110)、復習、学期末口頭発表準備5(Final draft締切),聴解課題 4【締切】
30	7/ 17	月	祝日
31	7/ 19	水	【休講】 補講日
32	7/ 24	月	学期末試験(L13-22)
33	7/ 26	水	期末発表

初級 2

報告者：A クラス 金 瑜眞・中村 亜美

B クラス 東平 福美・金 瑜眞

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは週 2 回（1 コマ 105 分）の授業において『大地 1』（スリーエーネットワーク）の後半（L13～L22）を 1 課 2 コマのペースで扱い、既習文法を確認しつつ、新しい文法項目の定着ならびに運用力の向上を目指した。並行して、漢字学習として N5 レベルの漢字（後半）60 字を導入した。

【授業の内容】

各課の初めに語彙クイズをオンラインで実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習、確認を行った。また、動詞の活用等については、文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、聴解、読解、作文についても課題を出し、学習を促した。並行して、漢字の導入、練習を授業内で行い、クイズを宿題として受けさせた。学期半ばには、作文の課題をもとに口頭発表会を行った。学期末には、当該コースで学んだ文型を盛り込み、それぞれのテーマで準備したスクリプトをもとに、PPT を使用した期末口頭発表を実施した。

2. その他

2022A1A2 からの対面授業再開に伴い、2023S1S2 も対面で授業を実施したことで、各学生における学習の進捗や様子が把握しやすくなり、基礎漢字の書き方や学生の発音指導なども、問題なく行うことができたと考えられる。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：学期開始時には 16 名が登録し、最終的に 12 名が修了した。全体的に大人しい学生が多く、授業内での発言などは少なかったが、授業内容をよく復習し、定期試験ではいい点数を獲得した学生が多かった。引き続き、文法項目の定着を目指しながら、学生が積極的に発言できる参加型の授業運営のために、工夫を進めたい。

B クラス：学期開始時には 19 名が登録し、最終的に 14 名が修了した。非常にクラスの雰囲気がよく、積極的に参加したため、教師側も学生の発話を増やすよう努めた。しかし、文法の細かいミスなどが残る学生も一定数いたので、引き続き、基礎となる文法や語彙について可能な限り復習を入れながら授業を進めたい。

インテンシブ初級Ⅱ

2023年度S1S2

レベル	: 初級Ⅱ レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 火曜日 08:30 - 10:15 木曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部5号館 55講義室（火）、工学部8号館 123教室（木）
学習目標	: 初級後半(L23-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を200字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） 『にほんごチャレンジ かんじN4-5』（アスク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、口頭発表15%（中間口頭発表5%、期末口頭発表10%）、語彙クイズ5%、文法クイズ10%、漢字課題5%、作文課題10% 聴解課題10% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位8認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-911-1、学部 FEN-JL4n03L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 授業のスピードが速いため、十分な予習と復習が必要である。 ＊【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho, 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション レベルチェック 復習 L23(1)
2	4/ 6	木	L23(1) 漢字L1(111-120)
3	4/ 11	火	L23(2,3) 語彙クイズL23
4	4/ 11	火	L23(2,3) 漢字L2(121-130)
5	4/ 13	木	L24 語彙クイズL24
6	4/ 13	木	L24 漢字L3(131-140) 作文課題①
7	4/ 18	火	L25 語彙クイズL25 可能形クイズ 作文課題①提出
8	4/ 18	火	L25 漢字L4(141-150) 聴解課題①
9	4/ 20	木	L26 語彙クイズL26 聴解課題①提出
10	4/ 20	木	L26 漢字L5(151-160)
11	4/ 25	火	L27 語彙クイズL27
12	4/ 25	火	L27 まとめ5 漢字復習L1-L5 漢字課題①(L1-L5)

13	4/ 27	木	L28 語彙クイズL28 漢字課題①(L1-L5)提出
14	4/ 27	木	L28 漢字L6(161-170)
15	5/ 2	火	L29 語彙クイズL29
16	5/ 2	火	L29 漢字L7(171-180) 作文課題② 聴解課題②
17	5/ 4	木	祝日
18	5/ 4	木	祝日
19	5/ 9	火	L30 語彙クイズL30 作文課題② & 聴解課題②提出
20	5/ 9	火	L30 漢字L8(181-190)
21	5/ 11	木	L31 語彙クイズL31 意向形クイズ
22	5/ 11	木	L31 漢字L9(191-200) 中間口頭発表導入
23	5/ 16	火	L32 語彙クイズL32
24	5/ 16	火	L32 漢字L10(201-210) 漢字課題②(L6-L10)
25	5/ 18	木	まとめ6 漢字課題②(L6-L10)提出
26	5/ 18	木	復習 (L23-L32)
27	5/ 23	火	中間試験 (L23-L32)
28	5/ 23	火	中間口頭発表
29	5/ 25	木	L33 語彙クイズL33
30	5/ 25	木	L33 漢字L11(211-220)
31	5/ 30	火	休講 (補講期間のため)
32	5/ 30	火	休講 (補講期間のため)
33	6/ 1	木	中休み
34	6/ 1	木	中休み
35	6/ 6	火	L34 語彙クイズL34 条件形クイズ 中間試験フィードバック
36	6/ 6	火	L34 漢字L12(221-230)
37	6/ 8	木	L35 語彙クイズL35
38	6/ 8	木	L35 漢字L13(231-240)
39	6/ 13	火	L36 語彙クイズL36
40	6/ 13	火	L36 漢字L14(241-250) 作文課題③
41	6/ 15	木	L37 語彙クイズL37 受身形クイズ 作文課題③提出
42	6/ 15	木	L37 漢字L15(251-260) 漢字課題③(L11-L15) 聴解課題③
43	6/ 20	火	まとめ7 漢字課題③(L11-L15)提出 聴解課題③提出
44	6/ 20	火	復習 漢字L16(261-270)
45	6/ 22	木	L38 語彙クイズL38
46	6/ 22	木	L38 漢字L17(271-280)
47	6/ 27	火	L39 語彙クイズL39 命令形・禁止形クイズ
48	6/ 27	火	L39 漢字L18(281-290) 聴解課題④
49	6/ 29	木	L40 語彙クイズL40 聴解課題④提出
50	6/ 29	木	L40 漢字L19(291-300) 学期末口頭発表導入 作文課題④
51	7/ 4	火	L41(1-4) 語彙クイズL41 使役形クイズ 作文課題④提出
52	7/ 4	火	L41(1-4) 漢字L20(301-310) 漢字課題④(L16-L20)
53	7/ 6	木	L41(5, 6) 学期末口頭発表準備 発表原稿の書き直し 漢字課題④(L16-L20)提出
54	7/ 6	木	L41(5, 6)
55	7/ 11	火	L42 語彙クイズL42 尊敬語クイズ
56	7/ 11	火	L42
57	7/ 13	木	まとめ8 復習 謙譲語クイズ
58	7/ 13	木	学期末口頭発表準備 第二稿提出

59	7/ 18	火	休講（補講期間のため）
60	7/ 18	火	休講（補講期間のため）
61	7/ 20	木	期末試験
62	7/ 20	木	学期末口頭発表リハーサル PPT提出
63	7/ 25	火	学期末口頭発表
64	7/ 25	火	学期末試験フィードバック

インテンシブ初級Ⅱ

報告者：猪狩美保・米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『大地2 メインテキスト』、『大地2 文型説明と翻訳』を使用し、基本的に2コマで1課を扱う形で進行した。漢字学習には『にほんごチャレンジ かんじ』を使用し、日本語能力検定試験N4レベルの漢字を学習した。

【授業の内容】

授業では、各課のはじめに語彙クイズを行った後、文型導入、基本練習、補助教材を使用して応用練習、会話の練習などを行い、文型の定着を図った。また、各課の会話を用いた聴解および会話練習を通して、学習事項の応用を目指した。課題として、「日本へ来てできるようになったこと、できなくなったこと」、「私の国にある有名なもの」など4つのテーマについて作文練習を行った。漢字は意味と読み方に重点を置き、漢字学習を行った。さらに、文型や「つかいましょう」から発展させ、話し合いやインタビュー活動、ディベートなど、発展的な活動も適宜取り入れ実施した。

2. その他

毎回、語彙クイズを行った。クイズは予習型で1課につき1回実施した。文法の活用クイズは、各項目を導入・練習後、その次の回の授業で計8回行った。また、聴解課題、漢字課題を定期的に課し、授業で不足しがちな聴解、漢字に関する活動を補った。また、期末口頭発表への準備として、中間口頭発表を行った。学期末には、「3歳の子供に英語を習わせること」、「高校生にアルバイトをさせること」など、各自が選んだテーマについて意見を述べる口頭発表を行った。発表で使用する表現、構成などを学んだ後、各自学習した文型・語彙を使用しスクリプトを書き、スライドを作成した。教師は授業内で原稿やりハーサルのチェックを行った。実際の発表では、準備した内容に基づいて順に発表し、質疑応答を通して意見を述べ合い、話し合うことができた。

3. まとめ・今後の課題

基本的に1回2コマの授業で1課進み、週2回というスピードの速いコースではあるが、どの学生も熱心に参加し、課題や発表などのクラス活動についても真摯に取り組んでいた。ペアやグループでの活動においても、互いに学び合う雰囲気があり、最終的には13名の学生が修了した。今後の課題としては、学生のニーズを的確に把握しつつ、毎回の授業において、会話やディスカッション等の口頭練習をより多く取り入れるなど、さらにクラス活動の工夫を進めていきたい。

初級3

2023年度S1S2

レベル	: 初級Ⅱ
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 324B
学習目標	: 初級後半(L23-32)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、期末試験20%、期末口頭発表15%、語彙クイズ5%、漢字課題10%、文法クイズ5%、聴解課題5%、作文課題15%・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-908-1)、学部(FEN-JL4n10L1)、 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 佐藤 瑞恵 SATO Mizue, 猪狩 美保 IGARI Miho, 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi, 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション, レベルチェッククイズ
2	4/ 11	火	復習(Dictionary-form, Te-form & Nai-Form), L23Vocab.
3	4/ 14	金	L23.1, 漢字(#111-115), Vocab.Quiz イン트로
4	4/ 18	火	L23.2-3, Listening&Dialogue, Reading&Writing, 漢字(#116-120), 作文課題①(L23)
5	4/ 21	金	L24 Vocab.Quiz Due, L24.1-2, 漢字(#121-125), 作文課題①(L23)提出
6	4/ 25	火	L24.3-4, L&D, R&W, 漢字(#126-130)
7	4/ 28	金	L25 Vocab.Quiz Due, 文法クイズ(可能形), L25.1-2
8	5/ 2	火	L25.3-4, L&D, R&W, 漢字(#131-135), 聴解課題①
9	5/ 5	金	祝日
10	5/ 9	火	L26 Vocab.Quiz Due, L26.1-2, 漢字(#136-140), 聴解課題①締切
11	5/ 12	金	L26.3, L&D, R&W, 漢字(#141-145), 作文課題②(L25&26)
12	5/ 16	火	L27 Vocab.Quiz Due, L27.1, 漢字(#146-150), 作文課題②(L25&26)提出
13	5/ 19	金	L27.2-3, L&D, R&W, 漢字(#151-155), 作文課題③(L27)
14	5/ 23	火	まとめ5, 復習, 漢字(#156-160), 漢字課題①, 作文課題③(L27)提出
15	5/ 26	金	中間試験(L23-27)

16	5/ 30	火	休講（補講期間のため）
17	6/ 2	金	中休み
18	6/ 6	火	L28 Vocab.Quiz Due, L28.1,4, 漢字(#161-165), 漢字課題①提出
19	6/ 9	金	L28.2-3, L&D, R&W, 漢字(#166-170), 中間試験フィードバック
20	6/ 13	火	L29 Vocab.Quiz Due, L29.1-2, 漢字(#171-175)
21	6/ 16	金	L29.3-4, L&D, R&W, 漢字(#176-180), 聴解課題②
22	6/ 20	火	L30 Vocab. Quiz Due, L30.1-2, 漢字(#181-185), 聴解課題②締切
23	6/ 23	金	L30.3, L&D, R&W, 作文課題④(L30)
24	6/ 27	火	L31 Vocab.Quiz Due, 文法クイズ(意向形), L31.1-3, 漢字(#186-190), 作文課題④(L30) 提出
25	6/ 30	金	L31.4-5, L&D, R&W, 漢字(#191-195), 期末口頭発表イントロ
26	7/ 4	火	L32 Vocab.Quiz Due, L32.1-2, 漢字(#196-200), 期末口頭発表タイトル提出
27	7/ 7	金	L32.3, L&D, R&W, 漢字(#201-205), 期末口頭発表 1st draft 提出
28	7/ 11	火	まとめ6, 復習, 漢字(#206-210), 漢字課題②, 期末口頭発表 draft修正(2nd draft)
29	7/ 14	金	期末口頭発表練習, PPT締切, 漢字課題②提出
30	7/ 18	火	休講（補講期間のため）
31	7/ 21	金	期末試験(L23-32)
32	7/ 25	火	期末口頭発表、期末試験フィードバック

初級 3

報告者：A クラス 佐藤瑞恵・猪狩美保

B クラス 東平福美・米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、週 2 回（1 コマ 105 分）展開のコースで『大地 2 メインテキスト』、『大地 2 文型説明と翻訳』を使用し、前半の L23～32 を扱った。漢字は、N4 レベルの単漢字 100 字と漢字語彙を学習した。テキストの新出語彙は予習型とし、語彙クイズは各課の授業開始までが提出期限とした。授業ではペア・グループワークを取り入れて学生の積極的な参加を促した。また、学習の進捗状況に合わせた作文課題の提出、および文法クイズ、聴解課題、漢字課題を行って学習事項の定着を図った。

【授業の内容】

授業では、テキストの文型・表現を習得し、運用できるようになることを重視した。必要に応じて、活用など既習の文法事項を復習しながら授業を進めた。学期末には、学習のまとめとして口頭発表を行った。「日本に留学した理由」「日本で経験したこと」など各自がテーマを選び、原稿作成・修正、PPT 作成、発表リハーサルなど段階的に準備を進めた。どの学生も熱心に取り組んでいた。

2. その他

A・B クラスの 2 クラス編成で授業を実施したが、クラスのレベルや授業の進度・内容は同じである。授業内では時間が限られる書く練習については、作文課題および漢字課題において、手書きによる課題作成を取り入れることによって補った。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス> 多様なバックグラウンドを持つ学生が集まり、クラス活動にも積極的に取り組んでいた。修了者 10 名のうち 1 名を除いて非漢字圏の学生だったが、漢字を含む日本語の表記や文法に対しても大きな関心を持って、熱心に日本語学習に取り組む姿が見られた。今後は、クラス活動や課題を通して、さらに学習事項を定着・応用させていけるよう考慮しつつ進めていきたい。

<B クラス> 今学期の受講者は皆とても仲が良く、いつも楽しそうに積極的に授業に参加していた。わからないことは解消できるまで教師に質問し、日本語が上手になりたいという姿勢も強く感じられた。一方で、研究が忙しいなどの理由から途中から参加しなくなった学生もいたので、今後は学生一人ひとりの継続学習や自律学習を促す授業作りが必要だと考える。

初級4

2023年度S1S2

レベル	: 初級II レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 324B
学習目標	: 初級後半(L33-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 初級3の修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、期末試験20%、期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、文法クイズ12%、作文課題13%、聴解課題10% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-909-1、学部FEN-JL4n20L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 * 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 佐藤 瑞恵 SATO Mizue, 猪狩 美保 IGARI Miho, 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi, ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	Orientation, Level check Quiz
2	4/ 11	火	Review, L33 Vocabulary introduction
3	4/ 14	金	L33.1(1-1~1-7), L33 Vocab.quiz(trial)
4	4/ 18	火	L33.1(1-8)&2, Listening & Dialogue, 漢字(211-215)
5	4/ 21	金	L34.1&2, L34 Vocab.quiz, 文法クイズ1(条件形), 漢字(216-220)
6	4/ 25	火	L34.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(211-220), 漢字(221-225)
7	4/ 28	金	L35.1&2, L35 Vocab.quiz, 漢字(226-230)
8	5/ 2	火	L35.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(221-230), 漢字(231-235), 作文課題①
9	5/ 5	金	祝日
10	5/ 9	火	L36.1&2, L36 Vocab.quiz, 漢字(236-240), 作文課題①提出
11	5/ 12	金	L36.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(231-240), 漢字(241-245), 作文課題②
12	5/ 16	火	L37.1&2, L37 Vocab.quiz, 文法クイズ2(受身形), 漢字(246-250), 作文課題②提出, 聴解課題①(L37)

13	5/ 19	金	L37.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(241-250), 漢字(251-255)
14	5/ 23	火	まとめ7, Review, 漢字(256-260), 聴解課題①(L37)締切
15	5/ 26	金	中間試験(L33-37)
16	5/ 30	火	休講 (補講期間のため)
17	6/ 2	金	中休み
18	6/ 6	火	L38.1&2, L38 Vocab.quiz, 漢字クイズ(251-260)
19	6/ 9	金	L38.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(261-265), 作文課題③
20	6/ 13	火	L39.1&2, L39 Vocab.quiz, 文法クイズ3(命令形・禁止形), 漢字(266-270), 作文課題③提出, 聴解課題②(L39)
21	6/ 16	金	L39.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(261-270), 漢字(271-275)
22	6/ 20	火	L40.1&2, L40 Vocab.quiz, 漢字(276-280), 聴解課題②(L39)締切
23	6/ 23	金	L40.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(271-280), 漢字(281-285)
24	6/ 27	火	L41.1&2&3, L41 Vocab.quiz, 文法クイズ4(使役形), 漢字(286-290), Final Presentation introduction
25	6/ 30	金	L41.4&5&6, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(281-290), 漢字(291-295), 作文課題④, Final Presentation Title & Outline Deadline
26	7/ 4	火	L42.1&2, L42 Vocab.quiz, 文法クイズ5(尊敬動詞), 漢字(296-300), 作文課題④提出, Final Presentation Outline Return, 聴解課題③(L42)
27	7/ 7	金	L42.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(291-300), 漢字(301-305), Final Presentation 1st Draft Deadline
28	7/ 11	火	まとめ8, 文法クイズ6(謙譲動詞), 復習1, 漢字(306-310), Final Presentation 1st Draft Return & Rewrite 2nd Draft, 聴解課題③(L42)締切
29	7/ 14	金	復習2, 漢字クイズ(301-310), Final Presentation 2nd Draft Deadline, Presentation Practice(Rehearsal), PPTcheck
30	7/ 18	火	休講 (補講期間のため)
31	7/ 21	金	期末試験(L33-42)
32	7/ 25	火	期末発表

初級 4

報告者：A クラス 佐藤瑞恵・猪狩美保

B クラス 東平福美・ハワード文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『大地 2 メインテキスト』を主教材として使用し、L33～42 の初級後半部分を授業範囲とした。文法項目と様々な言語表現やその背景知識を習得しながら、会話・作文練習などの教室活動を通し、総合的な日本語能力の向上を目指した。また、N4 相当の単漢字 100 字と対象漢字を含む語彙学習を行った。授業は、1) 文型の導入・練習、2) 応用練習・会話練習、3) 漢字導入・練習を中心に実施し、必要に応じて主教材の扉会話を使った聴解練習や文型を応用した短作文の練習などを行った。

【授業の内容】

各課の初めに学生が各自語彙を学習し、授業前の予習課題としてオンライン形式の語彙クイズに取り組んだ。授業では、文型導入、基本・応用練習を行い、動詞の活用等については、受身形、使役形、尊敬動詞、謙譲動詞等の文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、ペアワーク・グループ活動を積極的に取り入れた。また、授業外において作文課題、聴解課題を課し、日本語の総合的な運用能力の向上を目指した。並行して漢字の導入と練習、確認クイズを実施した。

2. その他

学期末口頭発表は、学期を通しての学習内容を踏まえ、本コースで学習した文型を盛り込み、意見文のスクリプトを作成し、PPT を使用したプレゼンテーションを実施した。授業内でも段階的に準備を進め、発表時には活発な意見交換が見られた。初級 4 レベルは A、B の 2 クラス編成で授業を行ったが、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞今学期の最終的な修了者は 5 名で、研究活動に忙しいなどの理由からコース途中で出席が難しくなり、未修了となった学生も多かったが、授業に参加した学生はクラス活動や課題に熱心に取り組んでいた。今後は多忙な学生への支援や、クラス内のコミュニケーションをさらに活性化させるための工夫に取り組んでいきたい。

＜B クラス＞今学期の最終的な修了者は 7 名で、皆とても真面目に学習に取り組んでいた。一方、A クラスと同じような理由で未修了となった学生も多かった。本コースは中級レベルへ進むための最後の初級コースとあって、学習意欲が高い真面目な履修者がほとんどなので、できるだけ日本語学習を負担なく続けられるようにサポートしていきたい。

中級1 総合

2023年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部5号館 54講義室（火）、工学部8号館88M（木）
学習目標	: 日常生活における場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、身近な話題を取り上げ、初中級レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級IIコースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	: 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動10%、課題20%、作文10%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表20% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTAS コード：大学院3799-921-1、学部 FEN-JL4o01L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 ※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, ハワード 文江 HOWARD Fumie, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 11	火	第2課-1
3	4/ 13	木	第2課-2
4	4/ 18	火	第2課-3
5	4/ 20	木	第3課-1
6	4/ 25	火	第3課-2、作文1(L3)アナウンス
7	4/ 27	木	第3課-3
8	5/ 2	火	第4課-1、作文1(L3)提出
9	5/ 4	木	祝日
10	5/ 9	火	第4課-2
11	5/ 11	木	第4課-3
12	5/ 16	火	第5課-1、作文1リライト提出
13	5/ 18	木	第5課-2
14	5/ 23	火	第5課-3、復習（L2,3,4）、作文発表会

15	5/ 25	木	中間試験 (L2-L5)
16	5/ 30	火	補講日
17	6/ 1	木	中休み
18	6/ 6	火	第6課-1
19	6/ 8	木	第6課-2、学期末口頭発表準備①
20	6/ 13	火	第6課-3、作文2(L6) アナウンス
21	6/ 15	木	第7課-1
22	6/ 20	火	第7課-2、作文2(L6)提出、学期末口頭発表準備②
23	6/ 22	木	第7課-3
24	6/ 27	火	第8課-1
25	6/ 29	木	第8課-2、学期末口頭発表準備③
26	7/ 4	火	第8課-3、学期末口頭発表準備④
27	7/ 6	木	第9課-1
28	7/ 11	火	第9課-2
29	7/ 13	木	第9課-3、学期末口頭発表準備⑤
30	7/ 18	火	補講日
31	7/ 20	木	学期末口頭発表
32	7/ 25	火	学期末試験 (L6-9)

中級 1 総合

報告者：A クラス 牛山和子・ハワード文江

B クラス 内田あゆみ・中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55』（スリーエーネットワーク、第 2 版）を使用し、全 10 課中 2 課から 9 課までを 1 課 3 コマ（1 コマ 105 分）で終える形で授業を進めた。A・B クラス共 Google Classroom を使用し、授業と並行して自習用シート、クイズ、課題作文、期末口頭発表関連の課題シート、アンケート回答用の共有シートなどを配信した。各課共通の配信物は、1)「漢字自習シート」、2)「語彙クイズ」、3)「(本文) 内容理解」クイズ、4)「漢字とことばの練習」クイズの 4 つである。1)は自習用のため評価には入れず、各学生が自分のペースで学習を進められるシートとなっている。2)および 3)は予習型、4)は復習型の課題で、いずれも締切日までは何度でも受けられる形にした。

【授業の内容】

各課の 1 回目の授業では、教科書の「扉のページ」などを使って、その課のトピックについて話し合い、次いで新しい文型・表現の前半を導入した。2 回目の授業は、その課の後半の文型・表現の導入と練習を中心に進めたが、答え合わせなどではピアフィードバックなども取り入れ、クラスで学習する利点を生かせるよう、心掛けた。3 回目の授業では本文読解の他、教科書にある文法や聴解のチェックシートなどを用い、その課の総まとめ的な活動を行った。各授業では教科書の練習問題以外に、学習した表現を用いて短文を書くなど、アウトプット型の活動も取り入れ、授業を構成した。また、期末口頭発表は、アンケート作成・実施、結果のまとめ、スライドの作成、クラスでの発表および質疑応答という流れで行い、プロジェクト達成型の課題とした。

2. その他

漢字学習の成果などを確認してもらうため、第 3 回目の授業では本文をルビなしで読む練習も行った。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞

熱心に授業に取り組む学生が多く、期末口頭発表もよく準備していた。コース修了者は 18 名中 10 名であったが、期末試験を受けたものの出席率の不足で未修了となった学生も 2 名いた。来学期も 4 技能のバランスの取れた活動を心掛け、学生の学びを支援したい。

＜B クラス＞

授業内の活動に積極的に参加し、クラスメートとのディスカッションなども活発だった。コース修了者は 16 名中 11 名であった。教科書の練習問題などがやさしいという意見もあったので、応用練習やインタラクティブな活動をさらに増やしていきたいと考えている。

中級1 聴解

2023年度S1S2

- レベル : 中級1 レベル
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
- 時間 : 08:30 - 10:15 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L
- 学習目標 : 初級文法を復習しながら、聴解・会話能力の向上を目指す。授業では、聴解問題、グループ活動、ディスカッションを行う。
- 対象 : 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A 2.2相当。
- テキスト : 『5分のできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)、『<テーマ別> 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社)
- 評価 : 教室活動10%、課題40%、クイズ10%、中間試験20%、期末試験20%
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : ① 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-922-1、学部FEN-JL4o10L1.
 ② 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 ③ コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 ④ 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
 ⑤ 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 ⑥ 授業内容と教室は変わる可能性がある。
 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	レベルチェックテスト、オリエンテーション 「音の聞きわけ」はじめるまえに
2	4/ 13	木	「音の聞きわけ」 1,2,3 「ブリッジ」 L2
3	4/ 20	木	「音の聞きわけ」 4,5,まとめ1 「ブリッジ」 L3
4	4/ 27	木	「音の聞きわけ」 クイズ① 「音」 6,7 「ブリッジ」 L4
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	「音の聞きわけ」 8,9,まとめ2 「ブリッジ」 L5
7	5/ 18	木	「音の聞きわけ」 クイズ② 「ブリッジ」 L6
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	「音の聞きわけ」 10,11 「ブリッジ」 L7
11	6/ 15	木	「音の聞きわけ」 12,13 「ブリッジ」 L8
12	6/ 22	木	「音の聞きわけ」 14,まとめ3 「ブリッジ」 L9
13	6/ 29	木	「音の聞きわけ」 クイズ③ 「音」 15,16 「ブリッジ」 L10
14	7/ 6	木	「音の聞きわけ」 まとめ4 「ブリッジ」 L11
15	7/ 13	木	「音の聞きわけ」 クイズ④ 「ブリッジ」 L12
16	7/ 20	木	期末試験

中級 1 聴解

報告者：内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『＜テーマ別＞ 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』（研究社）を主教材として使用し、1 課 1 コマのペースで進めた。主教材のテーマは主に「ゴミ問題」「水資源」などの社会問題や「家族」「国際化」などの留学生にとって身近なもので、本コースでは本文の重要な部分を聞き取れるようになることに重きを置いた。また、『5 分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）を副教材として使用し、毎週 2～3 課進めることを自習とした。副教材では、日本語特有の細かい音の聞き分けに慣れる練習をした。課題は週 5 日 10 分ずつ、主教材の本文音声を聞くこと、副教材の練習問題をすること、NHK NEWS WEB EASY を聞くことのいずれかをし、リスニング記録をつけることであった。リスニング記録をつけながら、本文の大意を聞き取る問題、本文で使われている語彙の事前学習、初級文法の復習問題にも取り組んでもらった。

【授業の内容】

授業では、自習としていた副教材の問題から聞き取りにくい問題をいくつか取り上げ全体で確認をした。次に、事前学習として課題で取り組んだ主教材の語彙と文法の問題のフィードバックと本文の内容確認を行い、より細部の理解を深めるために追加の内容質問や穴埋め問題、本文とは別の初めて聞く聴解問題などに取り組んだ。主教材の本文と聴解問題は難易度が高いため、聞く前には本文のテーマについての背景知識を活性化させ、聞き取りの目的を意識させ、問題の内容は学生のレベルに合わせて適宜調整した。また、学生同士で答え合わせをしたり、分からなかった箇所を聞きあったり、聞いた内容に関連して学生が持っている知識や情報を発表する時間を積極的に設けた。

2. その他

副教材の内容から復習型でクイズを実施した。5 課毎に行い、学生の習得状況を確認した。

3. まとめ・今後の課題

コース修了者は 18 名中 13 名だった。意見交換やディスカッションを多く設けたため学生の相互理解が深まり、明るく和気あいあいとした雰囲気であった。自習や課題が多いコースではあったと思うが、学生は積極的に学習に取り組んでいた。学期開始直後、初級よりも格段に長くなり、スピードも速くなった聴解問題に圧倒されていた学生が多かったが、継続的に聴解問題に取り組み、細かい音の聞き分けのトレーニングを重ね、ストラテジーも学んだことで、初級から中級への移行ができたのではないかと思う。

中級1 会話

2023年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日
場所	: 工学部8号館 88M
学習目標	: 初級文法を復習しながら、日常生活場面での会話運用能力を向上させる。授業内外で積極的に会話実践を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	: 『会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動10%、語彙事前課題10%、中間試験25%、期末試験25%、スクリプト録音課題20%、スピーチ10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。
その他	: ① 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-923-1、学部FEN-JL4o20L1 ② 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 ③ コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 ④ 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 ⑤ 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 ⑥ 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	オリエンテーション, 自己紹介, レベルチェックテスト
2	4/ 18	火	L3, 課題① 配布
3	4/ 25	火	L4, 課題① スクリプト提出
4	5/ 2	火	L8, 課題① ビデオ提出
5	5/ 9	火	L11, 課題② 配布
6	5/ 16	火	L12, 課題② スクリプト提出
7	5/ 23	火	中間試験, 課題② ビデオ提出
8	5/ 30	火	【休講】補講期間のため
9	6/ 6	火	L13, 課題③ 配布
10	6/ 13	火	L15, 課題③ スクリプト提出
11	6/ 20	火	L17, 課題③ ビデオ提出
12	6/ 27	火	L20, 課題④ 配布
13	7/ 4	火	L21, 課題④ スクリプト提出
14	7/ 11	火	復習、期末試験の準備、課題④ ビデオ提出
15	7/ 18	火	【休講】補講期間のため
16	7/ 25	火	期末試験

中級 1 会話

報告者：金瑜眞・内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 1 回の会話コースで、『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）を教科書として使用した。主にロールプレイによる会話練習を中心として授業を行い、初級レベルで学習した文型・表現の口頭練習や日常生活場面における日本語を使った会話運用動力の向上を目指し、実践的な会話練習を行った。

【授業の内容】

教科書から「日にち変更の許可を求める」「医者に状況を説明する」「ゴミの出し方を注意されて謝る」などの 10 課を選択し、授業で取り上げた。各授業の前に、新出語彙の意味と読み方を学生が事前に調べる課題を課した。また、学期中 4 回、勉強した表現をもとに、オリジナルの脚本とその会話の録画ビデオも提出してもらい、会話の内容はもちろん、実際の発話場面における発音、ジェスチャー、リアクションなども総合的にフィードバックした。会話表現の指導においては、発話場面や相手と話者間の上下・親疎関係等による表現の使い分け、日本社会の中で慣習的に好まれる相槌や非言語行動、発話意図に応じたイントネーションの区別等について練習を行った。また、各授業で 1～2 名の学生に「私の好きなもの、好きなこと」というテーマで 3 分程度のショートスピーチをしてもらい、発表と質疑応答を行った。

2. その他

中間・期末試験は、学生同士で会話のペアを組み、ロールプレイの形式で会話試験を実施した。授業で取り上げたロールカードの内容を一部改変したものを用意し、2 つのタスクを演じてもらった。評価時には、流暢さ、適切さ（各課で取り上げた重要表現を適切に使用できているか）、正確さ（文法や言葉のミス）、敬語と普通形の使い分け、単音の発音とイントネーション、相手の発話に対する理解や反応等について評価し、フィードバックした。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：登録者 18 名中、12 名が修了することができた。中には研究活動等で多忙になり修了できなかった学生もいたが、修了者はいずれも非常に熱心に授業に参加していた。毎回会話のパートナーを変えたことで、クラスメート全員が交流する機会も提供できた。

B クラス：登録者 14 名中、9 名が修了することができた。学期後半は人数が減ったため、発話機会が増え、適宜個別にフィードバックもすることができた。ショートスピーチも多岐にわたる内容で、お互いのことをより知ることができ、学生から好評であった。

中級1 専門読解

2023年度S1S2

- レベル : 中級 I
- スキル : 読解
- 開講期間 : 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L
- 学習目標 : 科学技術分野の日本語の読解力向上と、専門的な語彙の習得を目指す。
授業では、東京大学で研究している科学技術についての文章を読み、重要な文型・表現を勉強しながら、読む力を中心に、聴く力、書く力を伸ばすことが目的である。理工系の専門的な勉強や研究に進む前に、基礎的な科学技術の日本語を学習することができる。
- 対象 : 初級4、インテンシブ初級2コースの修了者、または JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当
- テキスト : オリジナル教材
- 評価 : 教室活動 15%、中間試験 20%、期末試験 20%、漢字・語彙クイズ 15%、課題（クイズ）15%、課題（短作文・要旨）15%
- ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1)出席率70%以上 2)学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-924-1、学部FEN-JL4o30L1
2. 修了証は成績が C 以上の学生で、希望する者に発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30 分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3 回の遅刻または早退は 1 回の欠席とみなす。
5. 第 1 週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 猪狩 美保 IGARI Miho
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション、レベルチェック
2	4/ 12	水	休講
3	4/ 19	水	人型ロボット
4	4/ 26	水	道路の渋滞予測 語彙・漢字クイズ
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	スマートグラスで道案内 語彙・漢字クイズ
7	5/ 17	水	味と食感を決める酵素 語彙・漢字クイズ
8	5/ 24	水	料理を作りながらスマートフォンの充電ができる？ 語彙・漢字クイズ
9	5/ 31	水	中間試験
10	6/ 7	水	都市インフラとしての浄水処理 語彙・漢字クイズ
11	6/ 14	水	航空機の事故を減らすために 語彙・漢字クイズ
12	6/ 21	水	自動車材料の軽量化とマルチマテリアル化 語彙・漢字クイズ
13	6/ 28	水	超伝導とリニアモーターカー 語彙・漢字クイズ

14	7/ 5	水	食品の産地を確かめる方法 語彙・漢字クイズ
15	7/ 12	水	3Dメガネ 語彙・漢字クイズ
16	7/ 19	水	休講（補講日のため）
17	7/ 26	水	期末試験

中級 1 専門読解

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本授業は、科学技術文の読解力を養成すること、その基礎的な専門語彙や表現、文型の使い方を養成することを目的としている。授業までに、「イラスト動画」と「インタビュー動画」を視聴し、内容クイズを受けること、本文の語彙を確認することを事前課題とし、授業で習った文型を使って短作文を行うことを事後課題とした。授業では、提出された短作文のフィードバックを行い、語彙クイズ、本文のテーマに関するディスカッション、文型・表現練習、本文精読の順で行った。このように、反転授業を実施し、授業は読解内容およびテーマに関するディスカッションを中心としたアクティブラーニングを行った。

【授業の内容】

テキストは工学部広報誌（『Ttime!』）の記事に基づいた「人型ロボット：スムーズに動かすためには？」「道路の渋滞予測：目的地へより早く！」（シラバス参照）など、理工学分野のテーマの科学技術文を日本語教員がリライトしたものである。「イラスト動画」は、テキスト本文を分かりやすくイラストとして示し、音声付きで、内容スキーマを活性化する目的で作成した。一方、「インタビュー動画」は、東京大学の専門家が研究内容やテーマをわかりやすく解説したもので、テーマの理解を深めるために利用した。本授業は、受講者自身の専門的な先行知識を利用し、予測しながら読み解く方法〈トップ・ダウン〉と、その後、語彙や表現を正確に理解し、文、段落、テキスト全体へと理解を積み上げる（ボトム・アップ）方法の2つの方法を使用し、読解力を養成した。

2. その他

本文と動画は、東京大学における工学系全般の研究内容が網羅された当教室オリジナルの教材で、中級1レベルから科学技術に関する読解文を読むことによって、学生の専門的な読解スキルを養うと同時に、日本における研究生活支援のために作成したものである。

3. まとめ・今後の課題

受講した学生は事前課題と事後課題に熱心に取り組み、内容にも関心を持って読解授業に参加していた。内容クイズや短作文の課題についても、根気よく丁寧に学習を進めている様子が見られた。トピックによっては学生の専門外であったり、知ってはいるものの詳しい情報までは未知である場合もあり、その場合にはクラス内でインターネットから情報を集めたり、クラスで情報交換し合うなど、クラス全体で理解を深められるよう試みた。来学期以降も、理解の助けとなるような情報収集とアップデートに努め、学生がスムーズに読解活動を進められるよう支援していきたい。

中級1 文章

2023年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日
場所	: 工学部8号館 722
学習目標	: 正しい日本語作文のルールを学ぶ活動を通し、中級前半レベルの語彙・表現・文法・文型を習得する。また、適切な書き言葉と文体を使用し、身近なトピックについて読み手に伝わる約450字の文章が書ける能力を養成する。
対象	: 初級4、インテンシブ初級IIコースの修了者、またはJLPTN4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	: 「おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文」(凡人社)
評価	: 作文活動10%、課題作文50%、中間試験20%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院(3799-925-2)、学部(FEN-JL4o45L1). 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者により発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。 ★UtokyoアカウントとG Suite for Education (Google)を1回目の授業のまえに取得してください。 (https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/)
担当	: 佐藤 瑞恵 SATO Mizue nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	月	レベルチェックテスト、オリエンテーション、
2	4/ 17	月	L1①、メールの書き方、作文課題①
3	4/ 24	月	L1②
4	5/ 1	月	L2①、作文課題②
5	5/ 8	月	L2②、L3①、作文課題③
6	5/ 15	月	L3②
7	5/ 22	月	中間試験(L1～3)
8	5/ 29	月	中間試験フィードバック、L4①
9	6/ 5	月	休講 補講のため
10	6/ 12	月	L4②、L5①、作文課題④
11	6/ 19	月	L5②、L6①、作文課題⑤
12	6/ 26	月	L6②、作文課題⑥
13	7/ 3	月	L7①
14	7/ 10	月	L8(復習)

15	7/ 17	月	祝日
16	7/ 24	月	期末試験(L4～6)

中級 1 文章

報告者：佐藤瑞恵

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは教科書『おしゃべりしながら 書くことを楽しむ中級作文』（凡人社）を使い、約 2 コマで 1 課を扱うコースである。中級レベルの文章を書く際に必要な知識、構成、表現を学習するだけでなく、作文を書き始める前のウォーミングアップとして、クラスメートとおしゃべりを楽しみ、そこから作文を書くという流れで授業を展開した。

【授業の内容】

授業の流れは以下である。まず、各課のテーマ(私を表す漢字、私のおすすめ、朝型か・夜型か 等)について、ペアやグループになり、クラスメートとおしゃべりをしながら、様々なアイデアを考える。その後、アウトラインやモデル作文の確認を行い、書き言葉の表現、文法、構成上のポイントを学習する。授業内でアイデアや必要な知識を深めた後、作文課題（学期前半は 350 字程度、後半には 450 字以内）を出し、次回の授業に持参し、ピアリーディング活動を実施する。

ピアリーディング活動では自身が書いた作文を声に出してクラスメートに読んで聞かせ、それに対し、質問やコメントを受ける。作文を読む際に読めない言葉がないよう、あらかじめ読み方を調べてくるという指示も出している。作文課題は学期中 6 回で、ピアリーディング活動後、教師が各人に対し作文のフィードバックを行った。

2. その他

従来、作文は「黙々と一人で書き、教師に間違いを直してもらうもの」という概念があったのではないと思われる。それに対し、本クラスは、クラスメートとともに取り組む時間を多く設け、履修者同士が話し合いを重ねながら作文を書き上げるスタイルをとっている。これらの活動を通し、他を尊重しながら様々な考えを包括できる姿勢を培いたいと考えているが、履修者は非常に積極的に話し合いに参加し、非常に充実した様子が見受けられた。作文の文量については、最初はおぼつかなかった履修者でも、学期の後半になると相当量が書けるようになっており、作文力の向上が目に見える形となった。

3. まとめ・今後の課題

秋学期については学生ボランティアが 2 名参加し、履修者同士だけでなく、日本人の意見も聞きながら作文について深めることができ、有意義な時間を与えることができた。春学期についてはボランティアがいなかったため、留学生同士のみでのやりとりになったのが残念であるが、それでも自身の作文を通し自己表現ができることは非常に有用な体験であろう。

中級2 総合

2023年度S1S2

- レベル : 中級2 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部5号館 54講義室 (火) 、工学部8号館 722(金)
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、一般的な事柄を取り上げ、中級前半レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
- 対象 : 中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
- テキスト : 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』
(スリーエーネットワーク)
※テキストは緑色の表紙です。
- 評価 : 教室活動10% 語彙クイズ10% 漢字課題5% リスニング課題5% 作文課題30% 中間試験20% 期末試験20%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位4 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可 UTAS コード: 大学院 3799-937-1、学部FEN-JL4p02L1
2. 修了証は成績が C 以上の学生で、希望する者に発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容は変わる可能性がある。
- 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, 宮瀬 真理 MIYASE Mari, 大西 由美 ONISHI Yumi, 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション レベルチェッククイズ
2	4/ 11	火	第1課-1
3	4/ 14	金	第1課-2 クイズ(DUE): 語彙 L1
4	4/ 18	火	第1課-3
5	4/ 21	金	第2課-1 クイズ(DUE): 語彙 L2 クイズ(DUE): 漢字 L1、聴解 L1
6	4/ 25	火	第2課-2
7	4/ 28	金	第1課 & 第2課 復習 クイズ(DUE): 漢字 L2、聴解 L2
8	5/ 2	火	第3課-1 クイズ(DUE): 語彙 L3 課題-1(作文 1st Draft DUE)
9	5/ 5	金	祝日

10	5/ 9	火	第3課-2
11	5/ 12	金	第3課-3
12	5/ 16	火	第4課-1 クイズ(DUE): 語彙 L4 クイズ(DUE): 漢字 L3、聴解 L3 ・課題-1(作文 Final Draft DUE)
13	5/ 19	金	第4課-2
14	5/ 23	火	復習 (L1, L2, L3, L4) クイズ(DUE): 漢字 L4、Listening L4
15	5/ 26	金	中間試験 (L1, L2, L3, L4)
16	5/ 30	火	補講日
17	6/ 2	金	中休み
18	6/ 6	火	第5課-1 クイズ(DUE): 語彙 L5
19	6/ 9	金	第5課-2
20	6/ 13	火	第6課-1 クイズ(DUE): 語彙 L6、漢字 L5、聴解 L5
21	6/ 16	金	第6課-2 ・課題—2 (作文 1st Draft DUE)
22	6/ 20	火	第6課-3
23	6/ 23	金	第8課-1 クイズ(DUE): 語彙 L8、漢字 L6、Listening L6
24	6/ 27	火	第8課-2 ・課題-2 (作文 音声つきスライド DUE)
25	6/ 30	金	作文2 発表 クイズ(DUE): 漢字 L8、聴解 L8
26	7/ 4	火	ディスカッション
27	7/ 7	金	第7課-1 クイズ(DUE): 語彙 L7
28	7/ 11	火	第7課-2
29	7/ 14	金	第7課-3
30	7/ 18	火	補講日
31	7/ 21	金	総復習 クイズ(DUE): 漢字 L7、聴解 L7
32	7/ 25	火	期末試験 (L5, L6, L7, L8)

中級 2 総合

報告者：A クラス 牛山和子・宮瀬真理

B クラス 大西由美・片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースではスリーエーネットワークの『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期（第 2 版）』を使用し、1 課を 2 回または 3 回(105 分×2)で扱う形で授業を進めた。A・B クラス共 Google Classroom を使用し、予習型の課題として語彙クイズ、復習型の課題として、漢字クイズとリスニングクイズを配信した。いずれも課題達成型のクイズとし、締め切り日までは何度でも繰り返し学習できる形で実施した。

【授業の内容】

各課の第 1 回目の授業では、その課のトピックについて日本語で話すことを目標に、教科書の「扉のページ」などを用いてクラス全体やグループで自由に話し合ったり、意見交換などを行ったりした。また本文の大意把握（内容理解）を初回の授業で行い、その課の新出文型・表現の前半または 1/3 を学び、短文作成などを通してアウトプット活動も行った。2 回目以降の授業では、残りの学習項目を扱い、練習問題や短文作成などの産出活動を引き続き行ったほか、時間が許す限り教科書にある「読もう」「聞こう」「書こう」「チェックシート」なども扱った。また、作文、発表を通しての表現力向上にも重点を置き、1)「私の研究」2)「私の町」3)「意見文」の 3 つを課題とした。これらの課題を通して、学生は 1.自分の研究について専門的な語彙を用いて日本語で説明ができる、2. 中級 2 レベルの語彙・表現を用いたプレゼンテーション用のスクリプトが作成できる、3. Discussion から得た考察をもとに意見文が書ける、という 3 つの Can do の達成を目指した。

2. その他

上記の活動に加え、「ディスカッション」では、予めクラスでテーマを 2 つ決め、当日はその 2 つのテーマに沿ってグループで話し合った。この活動では、言葉の学習だけでなく、社会文化的な側面についての意見交換も行うことができ、モチベーションを高め、授業で身に付けた語彙や表現を実際のコミュニケーションの場で使う機会となった。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>：10 名中 8 名が期末試験を受け、出席率の不足で未修了となった 1 名を除き 7 名が修了した。全体的に一人で集中して学ぶタイプの学生が多かったが、ディスカッションでは一人一人がよく発言し、意見交換も活発であった。来学期は可能な限りこうした産出型の活動を増やし、語彙・文法・表現の知識をコミュニケーションに繋げる形を目指したい。

<B クラス>：11 名中 8 名が期末試験を受け、出席率の不足で未修了となった 2 名を除き 6 名が修了した。非常に仲が良くクラスで、「私の町」の発表での質疑応答、ディスカッションなどの他、授業前後にもよく日本語で会話をしていた。また、既習の文型や語彙を活用しようという姿勢も見られた。漢字の学習に関しては、非漢字圏の学生を中心に配慮したい。

中級2 聴解

2023年度S1S2

レベル	: 中級 II
スキル	: 聴解
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部8号館 324B
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。
対象	: 中級I聴解コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動20%, クイズ15%, 課題15%, 中間試験25%, 期末試験25% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-932-1, 学部 FEN-JL4p10L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション,L2信号の話
2	4/ 12	水	休講（入学式）
3	4/ 19	水	L1富士山
4	4/ 26	水	L3隠れキリシタン、L1クイズ
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	L4水族館、L3クイズ、課題①L5
7	5/ 17	水	L6東京の温泉、L4クイズ
8	5/ 24	水	L7失敗学、L6クイズ
9	5/ 31	水	中間試験
10	6/ 7	水	L8 札幌のお祭り、課題②L10
11	6/ 14	水	L9 津軽三味線、L8クイズ
12	6/ 21	水	L11 アクセント、L9クイズ
13	6/ 28	水	L12からくり人形、L11クイズ、課題③L15
14	7/ 5	水	L13四つ葉のクローバー、L12クイズ
15	7/ 12	水	L14長寿の理由、L13クイズ
16	7/ 19	水	休講（補講）
17	7/ 26	水	期末試験

中級2 聴解

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中級）』（スリーエーネットワーク）を使用し、15課のうち11課を授業で扱った。このテキストは、講義、発表を聴く力を養う教材であり、要点把握の正誤問題、内容質問、整理ノート作成、要約、スクリプトで構成されている。授業では、聴く前にトピックについて知っていることを話し合う、関連資料を読む、等の活動を行った後、テキストに沿って進めた。「内容質問」では、聞き取った情報を小グループでシェアし、よりよい答え方を考える活動を取り入れた。

毎回授業時に前回のスクリプトから出題するディクテーションクイズを行った。長音、濁音、拗音、および語彙、文法表現が聞き取れているかを確認した。

【授業の内容】

聴解のポイントとして、接続表現、文末表現に注意することを挙げ、内容を予測し、修正しながら聴くことを意識化した。さらに聞き取ったことをまとめる、伝えるために次の3点を目標とし、授業を行った。

① 内容を聞き取るだけでなく、質問にふさわしい形式で答えられること

前述のとおり、ピア活動を行って的確な答え方を考え、クラスでシェアすることによって記述での答え方、口頭での答え方を学んだ。

② 項目を立て、箇条書きで内容をまとめることができること

研究発表のスライド制作の際にも必要な点である。クラスでは、まとめ方の提案が積極的になされ、ことばの使い分けについて考える機会となった。

③ 決められた字数で要約文を書くことができること

コースの前半は穴埋め問題に答えることによって要約文を作成し、後半では150-200字で要約文を書く課題を実施し、添削指導を行った。

2. その他

時間の許す限り、トピックに関連した動画視聴、意見交換を行った。また生活に役立つ聞き取りとして地震、大雨のニュースを取り上げた。

3. まとめ・今後の課題

学生にとって興味深いテーマが多く、積極的にクラス活動に取り組んでいた。今後も学習意欲を高められるよう尽力したい。

中級2 会話

2023年度S1S2

レベル	: 中級2 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日
場所	: 工学部8号館 722
学習目標	: 大学や日常生活における様々な会話において対応可能な中級の運用能力（聞く・話す）を身につけることを目指す。授業では主にロールプレイ練習を中心に、自然な日本語を使ったコミュニケーション能力を養う活動を行う。
対象	: 中級1会話コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）
評価	: 授業内評価15%, 中間試験30%, 期末試験30%, 課題15%, スピーチ5%, 参加度5%. ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2 認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTAS コード：大学院(3799-933-1)、学部(FEN-JL4p20L1). 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 佐藤 瑞恵 SATO Mizue, 東平 福美 HIGASHIHIRA Fukumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	月	オリエンテーション、L1、レベルチェックテスト
2	4/ 17	月	L1, L2
3	4/ 24	月	L2 課題1 (締め切り:5/1)
4	5/ 1	月	L3 課題1 提出日
5	5/ 8	月	L3, L4
6	5/ 15	月	L4
7	5/ 22	月	中間口頭試験 (ロールプレイL1-4)
8	5/ 29	月	休講: 補講期間のため
9	6/ 5	月	L5, 課題2 (締め切り: 6/12)
10	6/ 12	月	L5, 課題2 提出日
11	6/ 19	月	L6
12	6/ 26	月	L6, 課題3 (締め切り: 7/3)
13	7/ 3	月	L7, 課題3 提出日
14	7/ 10	月	L7
15	7/ 17	月	祝日: 海の日
16	7/ 24	月	期末口頭試験 (ロールプレイ L5-7)

中級2 会話

報告者：佐藤瑞恵・東平福美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、教科書『【新版】ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）を用い、教員は、各回履修者が実際に遭遇すると考えられる場面のロールプレイを2～3つ程度選び、指導した。教材は「タスク先行型」で、まず受講者がロールプレイをペアで実践し、その後クラスメートに発表をした後、必要とされる表現・文型・語彙などの定着を目指す活動（聴解やモデル会話のディクテーション）を行った。

【授業の内容】

授業では、「隣人への苦情」、「遅刻の言い訳」、「映画やスポーツ」、「悩み相談」など、受講者が身近に感じられるロールプレイを取り上げた。日本語独特のあいづちやオウム返しなどの使い方を指導するとともに、誤用の多い文末のイントネーションや終助詞なども重ねて練習し、より自然な日本語の習得を目指した。また、状況に応じて丁寧な言い方とカジュアルな言い方を使い分けられるように働きかけた。

2. その他

中間・期末試験はロールプレイ会話試験を実施した。1週間前にランダムでペアを決め、当日は教員が選んだロールプレイを2～3つ演じてもらい、評価した。試験の際は、授業で実施したロールプレイの設定内容を一部変更し評価材料とした。定期試験以外には、1学期中に3つの課題（会話スクリプトの作成や会話の録音）と、パワーポイントを使った「自己紹介」をしてもらい、合計4回の課題を実施することができた。

3. まとめ・今後の課題

Aクラスはボランティアの日本人学生がおらず、全履修者に対する個別フィードバックが不十分となり、履修者の中には不満を持った者がいた可能性もある。一方、Bクラスは当初は履修登録者が多かったものの、参加者が減り、かつベテランのボランティアの日本人学生が1名入ったため、授業のサポートは十分だったと言え、毎回ロールプレイの前後で学生同士の会話を楽しんでいる様子が見受けられた。

今年度より新しい試みとして、一人ずつ自己紹介をしてもらったが、自己紹介により各人の趣味や、生い立ち、生活環境が開示でき、学生同士の相互理解を深めることができた。会話クラスにおいては、学生間、学生教師（ボランティア）間のインタラクションが欠かせない。今後も限られた授業時間内で、いかに相互理解やコミュニケーションを増やしていけるかが履修者に満足感、達成感を与える重要な鍵になってくるであろう。

中級2 読解

2023年度S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: 読解
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 13:00 - 14:45 金曜日
場所	: 工学部8号館 88M
学習目標	: 多面的な読みの力を身につけるため、様々なジャンルの文章を読む。学習した文法の復習と、語彙の強化をはかり、読解能力の向上を目指す。
対象	: 中級1読解コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』（凡人社）
評価	: 教室活動5%,授業参加度10%,クイズ15%,課題15%,多読・発表15%,中間試験20%,期末試験20%, ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTAS コード：大学院3799-934-1,,学部 FEN-JL4p30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション、復習&チャレンジクイズ
2	4/ 14	金	L1「語のまとまりをとらえましょう」 p.2
3	4/ 21	金	L2「する・される」の関係をつかみましよう」 p.8,語彙クイズ(L2), 課題 1 (L2)
4	4/ 28	金	L3「文の構造をとらえましょう」 p.16, p.21,語彙クイズ(L3 p.16+p.21),課題 1提出,課題 2 (L.3) ,多読イントロ
5	5/ 5	金	祝日(こどもの日)
6	5/ 11	木	L4「前件と後件の関係をつかみましよう」 p.24, 語彙クイズ(L4),課題 2(L3)提出
7	5/ 12	金	休講
8	5/ 19	金	L6「省略されているものが何か考えましよう」 p.44,語彙クイズ(L6 - ①)
9	5/ 26	金	中間試験
10	6/ 2	金	休講(中休み)
11	6/ 9	金	L7「関連のある言葉を探しましよう」 p.52,語彙クイズ(L7)
12	6/ 16	金	L8「文末に注目して筆者の意見を見抜く」 p.62 語彙クイズ L 8,課題 4(L8)
13	6/ 23	金	L9「筆者の立場を見分けましよう」 p.72 語彙クイズ(L9), 課題 4提出.
14	6/ 30	金	L12「内容を素早く理解しましよう」 p.98
15	7/ 7	金	日本の詩歌、ビブリオバトルイントロ、復習

16	7/ 14	金	ビブリオバトル、期末試験のお知らせ
17	7/ 21	金	期末試験

中級2 読解

報告者：米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする 15 のポイント）』（凡人社）を教科書として使用し、読解ストラテジーを学習しながら様々なジャンルの文章を読み、より高度な読解力を身につけることを目標に授業を行った。主に、1) クイズ、2) トピックの導入および自由会話、3) 語彙の確認、文法表現の学習、4) 各課の読解ストラテジーの確認、練習問題、5) 読み物を音読、6) 全体で精読・内容確認、7) トピックについてのディスカッション、の順序で進めた。更に、毎回最後の 10～15 分間は『レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫』（アスク出版）とオンライン読み物（無料）などから自由に選んで読み、多読授業を行った。

【授業の内容】

各課の読解ストラテジーを習得し、読解に応用することを目標とし、練習問題などを通して日本語で「読むこと」への認識を深めた。読み物のテーマは、「1人で外食すること」、「大食い番組の是非」など、現代の日本社会における問題についての読み物が多く、受講者は大変興味を持ち、ディスカッションでは活発な意見交換が行われた。トピックに関する意見を書く宿題も課した。

多読は、「簡単なものから」、「辞書を引かない」、「わからなくなったら飛ばす」、「進まなくなったら他の本を読む」という 4 大ルールを説明し、これらのルールを守るように指導し、授業外でも隙間時間に短い読み物を読むように促した。

2. その他

授業最終日には、今学期中に読んだ本の読書記録から 1 冊選び、クラスで紹介する発表会を設けた。活発に質問やコメントが出され、投票でチャンプ本も選出し、有意義な発表会となった。今後も教室外でも少しずつ、日本語で読むことを継続するように促した。

3. まとめ・今後の課題

非漢字圏の受講生においては、漢字圏出身者と比べ読解により多くの労力が必要であり、漢字の知識に差があったため、全体での語彙の確認に時間を要した。今後、語彙は事前学習として宿題にし、授業内での活動やディスカッションをより円滑に進められるようにしたい。

教科書の練習問題や読み物は、語彙も文法も難しいと感じる受講者がいた一方、多読時間で個人の興味やレベルに合った読書時間を設けることにより、満足度が高まったと思われる。

中級2 文章

2023年度S1S2

レベル	: 中級2 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 教室 88M
学習目標	: 表記のしかた、書きことばと話しことばの違いなどの作文の基礎知識をはじめ、文章を書くための文法、表現を学ぶ。段落内および段落間の構成を考えて、毎回400字程度の作文を書く。学期中に1200字程度の文章を書くことをコースの目標とする。
対象	: 中級1文章コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動10% 中間試験20% 期末試験20% 課題50% ・以下の条件を満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-935-1、学部 FEN-JL4p40L1 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、レベルチェック、L1表記の仕方
2	4/ 13	木	L2文体
3	4/ 20	木	L2&L3モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ
4	4/ 27	木	L3&L4正しい構造の文
5	5/ 4	木	祝日-みどりの日
6	5/ 11	木	L4
7	5/ 18	木	L4
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	L5文のつながり
11	6/ 15	木	L5&L6小論文によく使われる表現
12	6/ 22	木	L6
13	6/ 29	木	L6&L7段落
14	7/ 6	木	L7
15	7/ 13	木	L7
16	7/ 20	木	期末試験

中級 2 文章

報告者： ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『小論文への 12 のステップ』（スリーエーネットワーク）を主教材として用い、1 から 7 までは扱い、基本的に 1 回の授業で 1 課ずつ進めた。中間試験までは「1. 表記の仕方」「2. 文体」「3. モードチェンジ 話し言葉から書き言葉へ」「4. 正しい文の構造」を扱い、正しい文章形式や文体、文構造を用いるための基礎力を付ける練習を行った。中間試験以降はテキストの「5. 文のつながり」「6. 小論文によく使われる表現」「7. 段落」を扱い、文章の構成力を付ける練習を行った。

【授業の内容】

毎回授業後に 400 字程度の作文課題を課し、次回の授業前までに Google Classroom を利用し提出してもらうことで、授業時間内に確実にフィードバックができるようにした。学期末クラスアンケートの学生からのコメントでも、タイムリーなフィードバックに対し好評価を得ることができた。教員からの授業前のフィードバックは、添削記号を予め定め、誤りの種類（例えば Pa 助詞、Vf 動詞の形、H 話し言葉なので書き言葉に、など）を指摘するのみに止め、誤りの修正は学生自身ができる限り行えるように進めた。

授業中に扱う基礎学習や練習問題は Excel シートをクラスワークファイルとして学生毎のタブを用意した。タブには学生からは執筆終了、確認終了、教員からは添削修了の各色を付けることとし、教員は執筆終了、確認終了の色に変わったタブから順に添削・コメントを行うことで学生の待ち時間にロスが無い様に工夫した。

2. その他

本クラスは毎学期学生の力の差が大きいことが多く、練習問題が充実している教科書を先学期より新たに選定し使用したが、力が弱い学生には練習問題を時間内に解くことが難しいことも多かった。その為語彙力や文法力が十分な学生には苦戦している学生とペアを組み行ってもらうことで、日本語の語彙を日本語で説明する練習や、文法の誤りを言語化する練習を加えるなど、手持無沙汰とならないような工夫を行った。

3. まとめ・今後の課題

今学期は新たな教科書を使用してから 2 学期目ということもあり、中級 1 文章で学んだ「だ・である体」、話し言葉と書き言葉の違いなどを定着させる授業を進めることができた。しかし次のレベルの中級 3 文章で扱われる比較的長い文章を書くための準備としての段落構成の練習があまり充分であったとはいえず、来学期からはそのバランスを図っていくようにしたい。

中級2 専門語彙・漢字

2023年度S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: その他
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: 工学部8号館 88M
学習目標	: 日本の生活に必要な語彙、研究生活全般で使用するアカデミックな語彙に加え、工学系の学生が研究するうえで必要な専門分野の語彙を勉強する。旧日本語能力試験2-3級の漢字を中心に選んだ語彙の意味を理解するとともに語彙を用いて文を作成できるようにする。
対象	: 中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動20%、課題15%、発表10%、クイズ15%、中間試験20%、学期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-936-1、学部 FEN-JL4p50L1 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 12	水	休講(入学式)
3	4/ 19	水	第1課: 漢字1-5 短文作成
4	4/ 26	水	第2課: 漢字6-10 短文作成 1課漢字クイズ
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	第3課: 漢字11-15 短文作成 2課漢字クイズ
7	5/ 17	水	第4課: 漢字16-20 短文作成 3課漢字クイズ
8	5/ 24	水	第5課: 漢字21-25 短文作成 4課クイズ
9	5/ 31	水	中間試験 (L.1-L.5) 第6課(1): 漢字26,27 課題1
10	6/ 7	水	第6課(2): 漢字28-30 短文作成 課題2
11	6/ 14	水	第7課: 漢字31-35 短文作成 6課漢字クイズ
12	6/ 21	水	課題発表
13	6/ 28	水	第8課: 漢字36-40 短文作成 7課漢字クイズ
14	7/ 5	水	第9課: 漢字41-45 短文作成 8課漢字クイズ
15	7/ 12	水	第10課: 漢字46-50 短文作成 9課漢字クイズ
16	7/ 19	水	休講(補講期間のため)
17	7/ 26	水	学期末試験 (L.6-L.10)

中級2 専門語彙漢字

報告者：中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは「理工学系話し言葉コーパス」の研究を応用実践したコースの一つである。日本語能力試験の旧 3,4 級レベルの単漢字をベースに、日常生活で使われる語彙のほか、研究室で話されているアカデミックな語彙や工学系分野に特有な語彙も学習する。

教材は、前任者作成の自主教材で「理工学系話し言葉コーパス」をもとに、7つの専攻（「化学システム工学」「建築学」「社会基盤学」「情報理工・電子情報学」「電気系工学」「都市環境工学」「都市計画」）に共通する頻出語彙を中心に旧 3 級レベルの漢字を 60 字程度選んだものである。授業では漢字語彙の導入、意味や使い方の学習、短作文や会話文の作成と添削、翌週のクイズ実施などを繰り返し、語彙の定着と運用能力の向上を図った。

【授業の内容】

1 コマの授業で 5 つの単漢字および、当該漢字を含む語彙を導入し、共起することばやゼミで使う表現などを教員側が提示した。提示する際には、学生による例文の音読や意味の説明を適宜行った。その後、学習者は漢字を使った用例を作成し、Google ドキュメント上に書き込み、他の学習者と共有した。ペアで会話作成を行うこともあった。授業内で全ての学習漢字の短作文を行うことは時間の都合で難しかったため、毎回タスクシートを課題とし提出させた。また、タスクシートとは別に自宅学習用に解答付きの練習問題を配布した。

2. その他

学期の後半に 1 コマを使い発表を行った。学習者は「私の専門」「私の趣味」「〇〇で知った漢字（例：病院、ポスターなど）」の中から好きなテーマを 1 つ選び、日本語の授業外で知った語彙、興味を持った部首、関連表現について発表した。今学期は、専門に関する発表のほか、「相撲」や「妖怪」など趣味についての発表があり、活発な質疑応答が行われた。

3. まとめ・今後の課題

漢字圏の学生 3 名、非漢字圏の学生 2 名というクラス構成で、授業中の短文作成や宿題として課した会話作りなどに熱心に取り組んでいた。ターゲットの語彙を全て盛り込んだ会話を作るなどの力作も見られ、学習者同士で学び合い、刺激を受けている様子だった。毎週の漢字クイズや試験で高得点を取る学生がほとんどだったが、漢字圏と非漢字圏の学生との差があり、非漢字圏の学生 1 名は S2 学期の受講を続けることができなかった。学期によって両者の差があまりない場合と今学期のように大きな差がある場合がある。「漢字が好きで受講する」という学生と「漢字が苦手な受講する」という学生のニーズに応えられるよう、それぞれの学習をサポートできる教材、授業作りに努めていきたい。

中級3 総合

2023年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: 工学部8号館 88M (月)、88L (水)
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で適切に対応できる日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、抽象的なテーマを取り上げ、中級後半レベルの文型・語彙を用いながら、情報を正しく理解し、適切に表現する力を習得するための活動を行う。
対象	: 中級2 (各スキル) コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』 (スリーエーネットワーク) ※テキストは水色の表紙です。
評価	: 教室活動10%、中間試験20%、期末試験20%、文型課題20%、語彙課題15%、作文課題10%、スピーチ5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-938-1、学部 FEN-JL4q02L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 * 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 鈴木 恵理 SUZUKI Eri, 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション レベルチェックテスト
2	4/ 10	月	L1
3	4/ 12	水	休講 (入学式のため)
4	4/ 17	月	L1、語彙課題 L1 DUE
5	4/ 19	水	L2、語彙課題 L2 DUE、スピーチのイントロ
6	4/ 24	月	L2、課末課題 L1 DUE
7	4/ 26	水	L2、L3、語彙課題 L3 DUE
8	5/ 1	月	L3
9	5/ 3	水	祝日
10	5/ 8	月	L3、課末課題L2 DUE、作文課題 (1)イントロ
11	5/ 10	水	L4、語彙課題 L4 DUE
12	5/ 15	月	L4、作文課題 (1) DUE
13	5/ 17	水	L4、L5、語彙課題 L5 DUE、課末課題 L3 DUE

14	5/ 22	月	L5
15	5/ 24	水	L5、課末課題 L4 DUE
16	5/ 29	月	休講（補講日のため）
17	5/ 31	水	中間試験、課末課題 L5 DUE
18	6/ 5	月	L6、語彙課題 L6 DUE
19	6/ 7	水	L6、中間試験フィードバック
20	6/ 12	月	L6、作文課題（2）イントロ
21	6/ 14	水	L7、語彙課題 L7 DUE
22	6/ 19	月	L7、課末課題 L6 DUE、作文課題（2）DUE
23	6/ 21	水	L7、L8、語彙課題 L8 DUE
24	6/ 26	月	L8
25	6/ 28	水	L8、課末課題 L7 DUE
26	7/ 3	月	L9、語彙課題 L9 DUE
27	7/ 5	水	L9、課末課題 L8 DUE
28	7/ 10	月	L9、L10、語彙課題 L10 DUE
29	7/ 12	水	L10
30	7/ 17	月	祝日
31	7/ 19	水	休講（補講日のため）
32	7/ 24	月	L10、課末課題 L9 DUE
33	7/ 26	水	学期末試験、課末課題 L10 DUE

中級 3 総合

報告者：猪狩美保・鈴木恵理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』（スリーエーネットワーク）を使用し、全 10 課を 1 課 2.5 コマ（1 コマ 105 分）で扱いながら授業を進めた。しばらくオンライン（同期型）での授業形式が続いたが、昨年度後半からは対面授業に戻った。対面授業に戻ったが、各課の語彙課題（予習型）と課末課題（復習型）は学生各自が締切日までにオンライン上で課題をこなすこととした。ほかに学期中 2 回の作文課題と学期中 1 回のスピーチも課した。授業に係る連絡や課題の管理は Google Classroom を用い、学生に対して細やかなサポートを心掛けた。

【授業の内容】

各課の 1 コマ目は、その課のトピックについてグループディスカッションなどを行い、学習項目の前半部分の理解および練習、2 コマ目は、後半部分の学習項目の理解と練習、本文読解、聴解という流れで行なった。いずれのコマでも学習項目は文型練習に留まらず、学生が実際にその文型を使えるように、さまざまな応用練習も提示した。また教科書内の「読もう」「聞こう」「話そう」なども扱い、できるだけ総合的な活動を取り入れるように努めた。

2. その他

一昨年度まで、この中級 3 総合コースは週 1 回展開であったため、時間的な制約上、教科書全 10 課中、6 課までしか扱うことができない状況が続いてきた。しかし昨年度より週 2 回の授業展開となったことから、教科書の全課を扱うことができるようになった。加えて一昨年度まで十分に扱うことができなかった聴解や読解の練習も充実させ、さらにスピーチも導入して、より「総合」コースらしくなってきた。本コースは高度な日本語力を要求するため、予習や復習が欠かせないが、学期を通じて多くの履修者が高い出席率を維持し、最後まで熱心に授業に参加していた。

4. まとめ・今後の課題

週 2 展開になり全課を扱えるようになったとはいうものの、扱う内容（課）が増えたためスケジュール的な余裕はなく、「復習」に時間を割くことは難しい現状がある。学生からも、授業のスピードの速さやただ前に進み続けるスケジュールについて多少の不満や戸惑いの声が聞こえてくる。本コースは全課扱うことを目指して週 2 展開になった経緯があるが、来期以降は 1 課分をプリント学習で補うことで、少しスケジュールに余裕をもたせ、より確実に学生の日本語力をつけるべく「復習」の時間を作り、よりよいコース作りを目指したいと考えている。

中級3 聴解

2023年度S1S2

レベル	: 中級III
スキル	: 聴解
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 324C
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中上級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。
対象	: 中級II聴解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）スリーエーネットワーク
評価	: ・教室活動15%, クイズ30%, 課題15%, 中間試験20%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院(3799-942-1)、学部(FEN-JL4q10L1)。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、L1掃除、レベルチェック
2	4/ 13	木	L2本屋
3	4/ 20	木	L3新幹線のおでこ, L2クイズ
4	4/ 27	木	L4体験プレゼント, L3クイズ, 課題①締切
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	L6犬の肥満, L4クイズ
7	5/ 18	木	L7卵かけご飯, L6クイズ
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	L8女性専用車両
11	6/ 15	木	L10落語, L8クイズ, 課題②締切
12	6/ 22	木	L11そばをすする音, L10クイズ
13	6/ 29	木	L12将棋, L11クイズ
14	7/ 6	木	L13南極, L12クイズ, 課題③締切
15	7/ 13	木	L14明治神宮の森, L13クイズ,
16	7/ 20	木	期末試験

中級 3 聴解

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。授業中のクイズ、3回の課題、中間試験、期末試験を実施した。

【授業の内容】

授業で扱った課は、第1、2、3、4、5、6、7、8、10、12、13、14課であった。授業では、音声を聞き、教科書の質問に答えた後、要約練習を行った。質問や要約は、学習者が自分の答えをまとめたあと、ペアで答え合わせを行い、よりよい答えを学習者同士で導けるよう授業を行った。

クイズは、前回の授業で聞き取りが難しかった部分を中心に、内容的に似た文を聞いて、答えを書いてもらうディクテーションを行った。暗記してきた文をそのまま答えることにならないようするためである。学習した語彙は使えるよう出題を工夫した。

2. その他

授業外の課題として、教科書の第9、11、15課を使用した。課題シートの質問は教科書の質問を少し変え、答えは学習者自身で考えなければならないようにしてある。

また、後半、授業参加者が減ったため、参加者に希望を聞き、学習者が勉強したいという希望を取り入れて、学習者の専門分野の語彙を学習し、専門分野について日本語で話す練習を行った。

3. まとめ・今後の課題

今回は、最後まで熱心に参加した学習者は1名だった。学期当初、単位習得希望だったが、脱落してしまった学習者が複数いた。これは本当に残念だった。反面、学習者が1名になったおかげで、この学習者が本当に勉強したかったことを授業中扱うことができた。中級3レベルでは、学術用語など学ぶことができないので、残念に思っていたということで、この学習者は日本語の学術用語に触れる機会ができ、喜んでくれていた。学習者の専門分野の話をいろいろ聞くことができ、教員にとっても新しい知識を学ぶことができ、楽しかった。

中級3レベルの聴解ということで、聞き取りさえできればいいのではないかと思って履修する学生がいる。しかし、授業中には、答え合わせや意見交換など行う機会が多い。自分の聞く・話すのレベルに本当にあっているかどうか、参加希望者に見極めさせることも重要だと、改めて思った。

中級3 会話

2023年度S1S2

レベル	: 中級Ⅲ
スキル	: 会話
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日
場所	: 722 (工学部8号館 123)
学習目標	: 日常生活のやや複雑な場面において自分の意思を伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになる。また、そのために必要な待遇表現を学ぶ。抽象的なテーマについての発表、ディスカッションを通して、アカデミックな場面で必要な口頭表現能力を身につける。
対象	: 中級2会話コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 授業内でプリント配付
評価	: 教室活動5%, 中間試験25%, 期末試験25%, ショートスピーチ10%, ディベート10%, 課題1(ロールプレイ) 15%, 課題2 (ディベート) 10%. ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-943-1, 2. 学部 FEN-JL4q20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 ※※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 大西 由美 ONISHI Yumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	レベルチェッククイズ、オリエンテーション、自己紹介
2	4/ 18	火	ショートスピーチ (グループ) ・ピアフィードバック、ショートスピーチ (クラス) イントロ
3	4/ 25	火	ショートスピーチ (クラス) 開始、ロールプレイ1、敬語復習
4	5/ 2	火	ロールプレイ2
5	5/ 9	火	ロールプレイ3, 中間試験イントロ
6	5/ 16	火	ロールプレイ4
7	5/ 23	火	中間試験(会話試験)
8	5/ 30	火	休講
9	6/ 6	火	ディベート1:第1回ディベート大会準備
10	6/ 13	火	ディベート2:第1回ディベート大会
11	6/ 20	火	ディベート3:第2回ディベート大会準備, 期末試験イントロ
12	6/ 27	火	ディベート4:第2回ディベート大会
13	7/ 4	火	期末試験 (口頭発表) 準備
14	7/ 11	火	期末試験 (口頭発表) 準備

15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	期末試験（口頭発表）

中級3 会話

報告者：大西由美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、教科書を用いずに対面で授業を行った。Google Classroom を使用し、課題を出した。

【授業の内容】

学期を通じて：毎回冒頭にて、グループでの 15 分程度のアイスブレイク活動を行った。就職活動やインターンシップなどで実際に行われているものを取り入れた。

学期前半：ショートスピーチを行った。各自が好きなテーマで 3 分のスピーチを行った。また、大学で実際に経験する可能性が高い場面において、謝罪や交渉などを行う練習をした。敬語で目上の人と話す、くだけた話し方で友人と話す、という両方の練習を取り入れた。課題でロールプレイの会話を各自が作成した。中間試験では、このロールプレイ会話をもとに、教師と 1 対 1 で会話を行った。ロールプレイにない発話を教師から行うと予告しており、それに対する回答や会話の進行などを評価した。

学期後半：ディベートを行った。ディベートのトピックをグループで提案し、全体でのトピックを決定した。スライドによるプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションのテーマは、ディベートのトピック、または採用されなかったトピックから、自分が意見を言いたいものを選択した。期末試験では、上記のプレゼンテーションを行い、質疑応答も評価に含めた。

2. その他

ショートスピーチを行った。時間の制約のため、全体での発表の時間を授業内に設けず、グループごとでの発表と相互評価、また録画による提出での教師のフィードバックを行った。

3. まとめ・今後の課題

人数が多く、これまでの全体での発表の形式では授業内に時間が確保できず、グループでの発表や録画による評価などを行った。人数が多く困難があったものの、Google Classroom の活用や相互評価などで、全員が発表できた。学期後半のディベートでは、各自の研究の都合による欠席があり、そのため準備したメンバーで本番が行えず、苦勞したグループもあった。ボランティアの日本人の助けもあり、ディスカッションは実施できたが、準備回と本番回を分けないなどの対応が必要である。

中級3 専門読解

2023年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 読解
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 722
学習目標	: 自然科学分野の語彙、表現を学ぶことにより、科学技術日本語の読解力を養成する。『T time!』(東京大学工学部広報誌)の記事を読み、東大における最新の研究内容を知り、理工系の専門用語の語彙力を向上させる。
対象	: 中級2 (各スキル) コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10%、語彙クイズ15%、内容チェッククイズ15%、課題15%、発表5%、中間試験20%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-944-1 学部 FEN-JL4q30L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～ (化学システム)
2	4/ 13	木	読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～ (化学システム)
3	4/ 20	木	読解②計算機で地震に挑む (社会基盤)、語彙クイズ1、内容チェッククイズ1
4	4/ 27	木	読解③万有情報網 (電子情報工学)、語彙クイズ2、内容チェッククイズ2
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	読解④多様性が鍵～高齢者にも優しい仮設住宅への取り組み～ (建築)、語彙クイズ3、内容チェッククイズ3
7	5/ 18	木	復習、語彙クイズ4
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	読解⑤ロボットに意思は持てるか (情報学境)、内容チェッククイズ4
11	6/ 15	木	読解⑥未来の航空機設計最前線! (航空宇宙)、語彙クイズ5、内容チェッククイズ5
12	6/ 22	木	読解⑦次世代インターネット実現へ (電子情報工学)、語彙クイズ6、内容チェッククイズ6
13	6/ 29	木	復習、語彙クイズ7
14	7/ 6	木	発表の説明と準備
15	7/ 13	木	発表
16	7/ 20	木	期末試験

中級 3 専門読解

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは東京大学工学部の広報誌『Ttime!』のインタビュー記事をもとに作成された読解教材を使用し、科学技術日本語の読解力を養成することを目的としている。授業では、語彙クイズ、読解内容に即したディスカッション、本文の精読、内容の確認、表現文法や語彙の練習、本文に関連したウェブサイトの参照などを行った。また、コースの最後には学生自身が『Ttime!』の中から記事を選び、内容に関する発表を行った。

【授業の内容】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事を元に作成された読解教材は、東京大学大学院工学系研究科日本語教室の講師、あるいは過去に本授業を受講した学生が作成したものである。工学系の様々な分野の記事を読むことで工学系分野に関する語彙力と読解力を高め、同時にその分野の知識を深めた。また、読解教材本文に加えて、各トピックに関連する最新の情報を幅広くクラスで共有し、内容を読み解くことで読む力をさらに伸ばし様々な観点から深く考え、話し合う時間を取り入れた。

2. その他

学生はクラスの参加前に事前学習として本文を読み、内容確認クイズを受けることとした。語彙クイズは予習型で実施し、専門用語の定着を図った。学期末発表では、学生自身が関心を持ったトピックについて、その記事の内容と興味深い点を紹介し、それに関して意見交換を行った。

3. まとめ・今後の課題

受講した学生はどの学生も各トピックに大きな関心を持ち、熱心に読解活動に取り組んでいた。事前学習が必要なコースであるため、研究活動が忙しくなるとクラスへの参加が難しくなるケースも見られたが、少人数のクラスであることを活かし、学生の理解度を確認しつつ授業を進めた。クラス活動としてのディスカッションも活発に行われ、教材で取り上げられたトピックから、関連する研究やニュース、世界の様々な時事問題へと発展させて話し合うことができた。現在、研究活動を行っている学生同士、また教員が互いに学び合う時間となったことが非常に有意義であった。今後も最新の研究内容を取り入れつつ、より効果的な読解学習となるよう授業内容を工夫していきたい。

中級3 文章

2023年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部8号館 132
学習目標	: 日本語でレポート、研究計画書などを書くために必要な表現技術や文章力を習得する。必要に応じたメール文の書き方を学ぶ。
対象	: 中級2文章コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	: 『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動10% クイズ10% 課題作文40% 中間試験20% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-945-1、学部 FEN-JL4q40L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 *【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	レベルチェック、オリエンテーション
2	4/ 12	水	休講
3	4/ 19	水	判明していることを述べる /助詞 課題1
4	4/ 26	水	問題点を述べる /間接疑問 課題2 復習クイズ1
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	引用する 課題3
7	5/ 17	水	要約文を書く 課題4 復習クイズ2
8	5/ 24	水	説明文を書く 課題5
9	5/ 31	水	中間試験
10	6/ 7	水	解決策を述べる/接続表現 課題6
11	6/ 14	水	手順を述べる 課題7 ていねいなEメール1
12	6/ 21	水	指示詞を使う 課題8 ていねいなEメール2
13	6/ 28	水	事実を示す方法 課題9
14	7/ 5	水	研究計画書を書く①
15	7/ 12	水	研究計画書を書く② 課題10
16	7/ 19	水	休講
17	7/ 26	水	期末試験

中級3 文章

報告者：宮瀬 真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用し授業を行った。当教室では中級2文章クラスでこの教材の1課から7課を扱っているため、当クラスではその後半の8課から11課を扱った。また昨年度まで主教材として用いていた、研究計画書の作成を目的としたテキスト『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』を補助教材として用い、大学で必要なレポートの書き方や研究計画書を書くための中級で必要な文章能力を総合的に仕上げることを目標とした。また、目上の人に対するメール文の書き方を合わせて扱い、お願いのメール、お詫びのメールなど、改まったメールの書き方の習得も目指した。

【授業の内容】

テキストに沿って、まず文法・表現を学び、練習問題や短文作成問題などを行った。短文作成の後、自分の研究内容について、クラスで学んだ文法や表現を用い、文章作成を行った。授業内の活動はスプレッドシートを用いた個別作業と、グループワークを適宜合わせて行った。グループワークでは、お互いが書いたものを発表し合ったり、直し合ったり、内容について意見交換をし合ったりした。

400字程度の作文を毎回課題とし、個別に添削・フィードバックした。また次の授業で誤用について考えるなど全体フィードバックを行った。

課題のやりとりには Google Classroom を使用した。

2. その他

自動詞他動詞の使い方の間違いや、ねじれ文などの呼応の間違いも多く、文法の必要性を感じた。文単位の文法にとどまらず、段落そして複段落という文章全体に関わる文法も扱っていく必要がある。

3. まとめ・今後の課題

受講生のレベル差が大きく、グループワークやペアワークでうまくいかないときがあった。文章作成という個別作業と全体活動をどう組み合わせしていくことがベストか考えていきたい。

また、作文教育として ChatGPT など AI ツールの使用とどう向き合っていくかも大きな課題である。評価も含めてシラバスを再考する必要があると感じた。

多文化理解プロジェクト

2023年度S1S2

- レベル : 中級3-上級
- スキル : その他
- 開講期間 : 2023/ 04/ 04 - 2023/ 07/ 26
- 時間 : 13:00 - 14:45 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M教室
- 学習目標 : 本コースは、留学生同士または留学生と日本人が、互いの文化や社会について協働学習を通して学び合うことを目標としている。授業では、「多文化」「異文化」「相互理解」を主なキーワードに、日常生活を取り巻くさまざまなトピックについて話し合い、その成果を発表やレポートの形でまとめていく。また、地域社会への貢献のひとつとして、日本の小学校への訪問(対面またはオンライン)も予定している。(訪問日程は変更になる場合がある)
- 対象 : ・中級2/中級3総合コースの修了者、またはJLPT N2/N1相当、CEFR B2/B2+相当
・日本人学生
- テキスト : 自主教材
- 評価 : 教室活動・参加度20% 中間試験 25%、課題(プロジェクトワーク) 25%、期末試験 30%
- その他 : 1. 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験の受験および必要な課題の提出
2. コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
3. 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。
1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
UTAS コード: 大学院 3799-034-1, 学部 FEN-CO4452L1.
2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- *【重要】 第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。オリエンテーションに出られない人、出られなかった人は、オフィスにメールをください。
- 担当 : 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション 多文化理解とは何か (1)
2	4/ 13	木	多文化理解とは何か (2) 日本・母国の文化を知る (1)
3	4/ 20	木	日本・母国の文化を知る (2) ・学びの場 (学校制度、その他の学びの場と学習方法)
4	4/ 27	木	日本・母国の文化を知る (3) ・衣食住 (生活を支える文化)
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	日本・母国の文化を知る (4) ・仕事と余暇 (文化・芸能・スポーツなど) 小学校訪問のための準備 (発表・交流活動の準備) (1)
7	5/ 18	木	小学校訪問のための準備 (発表・交流活動の準備) (2)
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み

10	6/ 8	木	日本の小学生との交流・自国の文化についての紹介、交流活動 * 訪問日は変わる可能性がある
11	6/ 15	木	多文化共生について考える (1) ・小学校訪問から得たもの (ディスカッション、振り返り)
12	6/ 22	木	多文化共生について考える (2)
13	6/ 29	木	多文化共生について考える (3)
14	7/ 6	木	多文化理解・多文化共生のためにできること クラス発表の準備
15	7/ 13	木	クラス発表
16	7/ 20	木	期末試験

中級3-上級2 多文化理解プロジェクト

報告者：牛山和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、当教室のコースとしては、唯一、日本人学生も履修登録ができるコースであり、留学生と日本人学生が対話を通してお互いの文化を学び合い、国内にいながらにして異文化交流を行い、異文化理解のみならず、自国の文化についても再発見をしていくことを目標としている。また、地域社会への貢献という観点から春学期は小学校、秋学期は中学校を訪問し、文化紹介や交流活動の枠でゲームや Discussion 活動などを行うこともプログラムの一部となっている。本コースはコロナ禍のため 2020S1S2 から 2022S1S2 までの 2 年間は不開講を余儀なくされたが、2022A1A2 から再び開講されることとなった。授業では毎回その週のテーマを元にしたグループワークおよび Discussion を中心に進め、学生はその活動内容をワークシートに記入して提出し、教師はフィードバックを添えて返却するという形を取った。また Google スプレッドシートを用いて、グループ間の活動内容を共有した。

【授業の内容】

授業には、留学生 11 名（中国 6 名、台湾 2 名、香港 1 名、イスラエル 1 名、アメリカ 1 名）と日本人学生 6 名（工学部 5 名、工学系研究科 1 名）が参加し、初回はオリエンテーションを行い、2 回目は異文化理解の枠組みとなる概念などを紹介した。3 回目以降は「教育」、「食文化」、「中学生が興味を持つ文化」などをテーマに Discussion を重ねて異文化理解を深め、7 週目からは中学校訪問および当日の活動準備をはじめ、回目の授業に当たる月日に大田区立矢口西小学校 3 年生（4 クラス、計 108 名）との交流活動を行った。

当日は 4 つのグループが 3 年生の 4 つのクラスに分かれて、自分たちが用意した Power Point を使い、留学生は自国の、日本人学生は出身地の文化紹介を行い、異文化理解につながるゲーム、クイズなどを通して小学生との交流を深め、小学校訪問後は、当日の振り返りと意見後根をクラスで行った。期末口頭試験は、「多文化理解プロジェクト」のプログラムを通じてもっとも印象に残ったこと、というテーマで口頭発表をしてもらったが、どの発表にも多くの気づきがあり、学生の視野の広がりを感じた。また、期末試験(期末レポート)においても様々な考察がなされ、学生の異文化理解が認められた。

2. その他

2023S1S2 においてはコロナ禍で交流が途絶えていた大田区立矢口西小学校の先生方に再びご協力をいただき、対面での交流が実現した。ここに感謝の意を表したい。

3. まとめ・今後の課題

留学生と日本人が共に対等の立場で日本語を共通言語として活動するなかで得られる学びは大きいと感じた。多忙などの理由で期末試験を受けられなかった学生もいたが、17 名中 15 名が修了した。今後も学生の内なる異文化発見・交流につながる活動を続けたい。

上級1 総合

2023年度S1S2

レベル	: 上級1
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 132(水) 、88M (金)
学習目標	: 本コースでは、学生生活や日常生活を取り巻くさまざまな話題を取り上げ、日本社会や文化への理解を深めながら、上級レベルの4技能をバランスよく身につけることを目標とする。クラスでは、ピアラーニング、アクティブラーニングを取り入れた学習を中心に据え、クラスメートと協働しながら、1) 語彙・表現力、2) 読解力、3) 聴解力 および 4) アカデミックプレゼンテーションやアカデミックライティングの力も伸ばしていく。
対象	: 中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当
テキスト	: 『留学生のための時代を読み解く上級日本語』 第3版 スリーエーネットワーク
評価	: 教室活動 15% 課題 20% プレゼンテーション 15% 作文 5% 中間試験 20% 期末試験 25%
その他	・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院(3799-939-1)、学部 (FEN-JL4r04L1), 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 ※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 宮瀬 真理 MIYASE Mari, 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	レベルチェックテスト、オリエンテーション
2	4/ 7	金	トピック「生活」 L1-1
3	4/ 12	水	入学式
4	4/ 14	金	トピック「生活」 L1-2
5	4/ 19	水	トピック「生活」 L5-1
6	4/ 21	金	トピック「生活」 L5-2
7	4/ 26	水	トピック「少子高齢化」 L6-1
8	4/ 28	金	トピック「少子高齢化」 L6-2
9	5/ 3	水	祝日
10	5/ 5	金	祝日

11	5/ 10	水	トピック「少子高齢化」 L9-1
12	5/ 12	金	トピック「少子高齢化」 L9-2
13	5/ 17	水	トピック「教育」 L11-1
14	5/ 19	金	トピック「教育」 L11-2
15	5/ 24	水	復習
16	5/ 26	金	中間試験
17	5/ 31	水	トピック「企業と労働」 L17-1
18	6/ 2	金	中休み
19	6/ 7	水	トピック「企業と労働」 L17-2 中間試験フィードバック
20	6/ 9	金	トピック「企業と労働」 L17-3 ・作文1
21	6/ 14	水	トピック「企業と労働」 L18-1
22	6/ 16	金	トピック「企業と労働」 L18-2 アカデミックプレゼンテーション準備（1）
23	6/ 21	水	トピック「企業と労働」 L18-3 ・アカデミックプレゼンテーション準備（2）
24	6/ 23	金	トピック「科学技術と人間」 L20-1 ・アカデミックプレゼンテーションの原稿初稿提出
25	6/ 28	水	トピック「科学技術と人間」 L20-2 ・アカデミックプレゼンテーションの原稿初稿Feedback
26	6/ 30	金	トピック「科学技術と人間」 L20-3 ・アカデミックプレゼンテーションの修正版提出 ・作文2
27	7/ 5	水	トピック「環境と人間」 L25-1
28	7/ 7	金	トピック「環境と人間」 L25-2 ・アカデミックプレゼンテーションリハーサル ＊グループワーク・ピアフィードバック
29	7/ 12	水	トピック「環境と人間」 L25-3 ・アカデミックプレゼンテーションビデオ提出
30	7/ 14	金	アカデミックプレゼンテーション（ビデオ） ピアフィードバック
31	7/ 19	水	補講
32	7/ 21	金	復習
33	7/ 26	水	期末試験

上級 1 総合

報告者：牛山和子・宮瀬真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『留学生のための時代を読み解く上級日本語』（スリーエーネットワーク）を用い、学生生活や日常生活を取り巻くさまざまな話題を取り上げ、教科書から9課を選んで授業を行った。各課を2回または3回（105分×2/×3）で終えるペースで進め、授業では、日本語を通して日本社会や文化への理解を深めながら、上級レベルの4技能をバランスよく身につけることを目標とした。また、テキストが比較的長いため、読解活動に偏らないよう、ピアラーニング、アクティブラーニングを取り入れた学習を中心に据え、クラスメートと協働しながら、1) 語彙・表現力、2) 読解力、3) 聴解力 および 4) アカデミックプレゼンテーションやアカデミックライティングの力が伸ばせるよう心掛けた。

【授業の内容】

各課の1回目の授業では、まずその課に関連する動画やインターネット記事などをクラスで紹介し、アイスブレーキングを兼ねて、感想などを話し合い、キーワードになる語彙などを確認した。次に本文前半に出てくる表現からいくつかを選び「表現シート」を配布し、短文作成などを行った。また、教科書にある「話す練習」も適宜入れながら語彙や表現を練習した。2回目の授業では本文後半を扱い、「話す練習」も引き続き行った。また教科書の語彙練習に幾分負荷を掛けたものをFormに入れ、授業を欠席した学生のフォローや定期試験前の復習用として提示した。3回目授業は、テキストの精読のほか、2回目の授業までに扱えなかった項目やグループディスカッションなどを行った。

2. その他

上級1総合はこれまで週1回の授業であったが、2023S1S2より週2回展開となり、教科書も新しいものに変えてのスタートとなった。新カリキュラムを作成するにあたり心掛けたことの一つは、上級2総合への連携を見据えた日本語の語彙と表現力をつけること、ある程度の長さの文章を理解し、内容を再構築できる力をつけることであった。またプレゼンテーションにおいてもアカデミックプレゼンテーションを目指し、社会的なテーマについて、上級レベルの語彙・表現を用いつつわかりやすくまとめ発表できることを目標とした。

3. まとめ・今後の課題

クイズや中間試験などを受けた学生23名の内13名が期末試験を受け、出席率の不足で修了に至らなかった1名を除き、12名がコースを修了した。新しい教科書にあるテキストは全て生教材から取られており、文法や表現の面ではあまり難しくないものの、語彙のレベルが高く、非漢字圏の学習者にとっては新出語彙と漢語の多さが負担になったのではないと思われる。それをフォローするために自習用シートなどを作成したが、授業のスピードなどとの関係で修了に至らなかった学生も数名いた。「上級の壁」の一つと言われる語彙を効率的に増やし、産出が出来るレベルに持っていくための工夫を重ねていきたい。

上級1 聴解

2023年度S1S2

- レベル : 上級 1
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 324C
- 学習目標 : 日本の社会や文化に関するニュースやスピーチを視聴し、背景知識や語彙を学習して聞き取れるようにする。上級レベルで求められる聴解ストラテジーを身につける。
- 対象 : 中級3聴解コースの修了者、JLPT N1相当、またはCEFR B2+相当
- テキスト : 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）』スリーエーネットワーク
- 評価 : 教室活動10%、参加度5%、課題20%、クイズ20%、中間試験20%、期末試験25%
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-927-1、学部FEN-JL4r11L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。

【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 藤井 明子 FUJII Akiko
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション, レベルチェック,L1
2	4/ 12	水	【休講】入学式
3	4/ 19	水	L2
4	4/ 26	水	L3, クイズL2
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	L4, クイズL3, 課題 1 締切
7	5/ 17	水	L6,クイズL4
8	5/ 24	水	L7,クイズ L6
9	5/ 31	水	中間試験
10	6/ 7	水	L8, 中間試験FB
11	6/ 14	水	L10, クイズL8, 課題 2 締切
12	6/ 21	水	L11, クイズ L10
13	6/ 28	水	L12, クイズL11
14	7/ 5	水	L13、クイズL12,課題 3 締切
15	7/ 12	水	L14,クイズL13

16	7/ 19	水	【休講】補講期間
17	7/ 26	水	期末試験

上級 1 聴解

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。授業中のクイズ、3回の課題、中間試験、期末試験を実施した。

【授業の内容】

授業で扱った課は、第1～14課（第5、9、15課を除く）であった。授業では、まずトピックについて知っていることを話し合った後、音声を聞き、教科書の質問に答えてもらった。その後、ペアで答え合わせを行い、答えの内容だけでなく語彙・文法などについてもよりよい答えを考えてもらった。この際、教員からもフィードバックを行った。その後、要約をまとめる練習を行った。要約も、学習者で答え合わせを行い、よりよい答えを学習者同士で導けるよう授業を行った。

クイズは、前回の授業で聞き取りが難しかった部分を中心に、内容的に似た文を聞いて、答えを書いてもらうディクテーションを行った。暗記してきた文をそのまま答えることにならないようするためである。学習した語彙は使えるよう出題を工夫した。

2. その他

授業外の課題として、教科書の第5、9、15課を使用した。課題シートの質問は教科書の質問を少し変え、答えは学習者自身で考えなければならないようにしてある。

また、時間の余裕がある時には、最近のニュースや課の内容に関連したオンラインビデオなど見て意見交換をしてもらった。

3. まとめ・今後の課題

参加者は大変熱心で、回を重ねるごとに、質問に対する答え方、要約の仕方が改善され、学習の成果が見られた。また、ディクテーションも準備をしっかりとってくる学習者が多く、高得点を取っていた者もいた。

反面、ペアワークが苦手で、答え合わせや意見交換でほとんど発言できない学習者もいた。中国語母語話者ばかりで、男女比が偏っていたため、話しにくかった点もあったのかもしれないが、残念だった。

履修登録者は6名で、内、単位習得希望者5名が全員修了した。交換留学生も大学院生も、同じような熱心さで参加できたので良かったと思う。

聴解ということで、聞き取りさえできればいいのではないかと思って履修する学生がいる。しかし、授業中には、答え合わせや意見交換など行う機会が多い。自分の聞く・話すのレベルに本当にあっているかどうか、参加希望者に見極めさせることも重要だと思った。

上級1 会話

2023年度S1S2

レベル	: 上級 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 88L
学習目標	: 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン、日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指す。
対象	: 中級3会話コースの修了者、JLPT N1相当、またはCEFR B2+相当
テキスト	: 日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動10%、中間試験25%、期末口頭発表25%、語彙クイズ20%、課題10%、ショートスピーチ10% ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: ①単位(2)認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-928-1, 学部 FEN-JL4r21L1. ② 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 ③ コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 ④ 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 ⑤ 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 ⑥ 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 13	木	L1、L1語彙クイズ締切
3	4/ 20	木	L2、L2語彙クイズ締切
4	4/ 27	木	L3、L3語彙クイズ締切
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	L3、L4、L4語彙クイズ締切
7	5/ 18	木	L4
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	L5、L5語彙クイズ締切
11	6/ 15	木	L5、L6、L6語彙クイズ締切
12	6/ 22	木	L6、L7、L7語彙クイズ締切
13	6/ 29	木	L7、L8、L8語彙クイズ締切
14	7/ 6	木	L8、L9、L9語彙クイズ締切、期末口頭発表準備
15	7/ 13	木	L9、期末口頭発表準備
16	7/ 20	木	期末口頭試験

上級 1 会話

報告者：内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）を使用し、やや複雑なコミュニケーションやインフォーマル表現を用いたスピーチ、相手の立場を尊重しながらも互いの立場の違いを理解していくやりとりを学び、超級話者になることを目標とした。全 12 課のうち 1～9 課までを授業で扱い、1 課 1～2 コマのペースで進めた。

【授業の内容】

授業では、教科書の内容に沿って、独話、ロールプレイ、ディスカッション、ディベートなど様々なスタイルの発話練習を行った。毎回、課のテーマに関する導入ディスカッションの後、談話構成や語彙表現の確認を行い、実際にペアやグループで口頭表現の練習をし、最後に数名に発表してもらった。授業後には、グループワークやペアワークをした相手に対するコメントを共有スプレッドシートに記入し、相互評価を行った。コメントは肯定的な感想や具体的なアドバイスで、学生同士で学び合う姿が見られた。また、各授業で 1～2 名の学生に最近の国内外のニュースについてショートスピーチをしてもらった。様々なニュースが取り上げられ、スピーチをした学生はもちろん、スピーチを聞いた学生にも学びがあった。ショートスピーチの後には発音、イントネーション、間のとり方などについて個別にフィードバックを行い、より正確で自然なスピーチになるよう指導した。

2. その他

語彙クイズは予習型にし、オンラインで実施した。中間試験と期末試験ではテキストの既習範囲を踏まえ、ロールプレイ形式の会話試験を実施した。

3. まとめ・今後の課題

本コースでは、教科書を中心に扱ったが、学生からは教科書を使用し、様々な語彙や擬態語・慣用句などを身につけ、談話構成を学ぶことに対して好意的なコメントが多く聞かれた。また、毎回異なる学生とペアワーク・グループワークをするようにしていたため、学生同士の交流が深まり、明るく積極的な学習環境を作ることができた。今後の課題としては、発音やイントネーションの指導である。学生ボランティアのサポートを得るなどをしてより多くの個別指導をしたり、発音指導に特化した時間を設けたりするなどをして、更なる口頭能力向上のために改善していきたい。

上級1 読解

2023年度S1S2

- レベル : 上級
- スキル : 読解
- 開講期間 : 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
- 時間 : 10:25 - 12:10 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 123教室
- 学習目標 : 新聞・エッセイ・小説など日本社会にいてのさまざまな文章を通して、クリティカル・リーディング力を身につける
- 対象 : 中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当
- テキスト : 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク 発売日: 2015/5/28 (改訂版) ISBN-9784757426337
- 評価 : 中間試験 25% 期末試験 25% クイズ10% 読解課題20% 作文課題10% 教室活動10% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-929-1、学部FEN-JL4r31L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション レベルチェッククイズ
2	4/ 14	金	読解1
3	4/ 21	金	L1 読解2 クイズ1 読解課題1締め切り
4	4/ 28	金	L2 読解3 クイズ2 読解課題2締め切り
5	5/ 5	金	祝日
6	5/ 12	金	L3 読解4 クイズ3 読解課題3締め切り
7	5/ 19	金	L4 読解5 クイズ4 読解課題4締め切り
8	5/ 26	金	中間試験, 読解課題5締め切り
9	6/ 2	金	【休講】中休み
10	6/ 9	金	L5 読解6 クイズ5
11	6/ 16	金	L6 読解7 クイズ6
12	6/ 23	金	L7 読解8 クイズ7, 読解課題6,7 締め切り
13	6/ 30	金	L8 読解9 クイズ8 作文課題締め切り
14	7/ 7	金	L9 読解10 クイズ9
15	7/ 14	金	L10 クイズ10
16	7/ 21	金	期末試験

上級 1 読解

報告者：金 瑜眞

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

上級 1 読解では、教科書として『改訂版大学・大学院 留学生の日本語③論文読解編』（アルク）を使用し、授業を行った。受講生には、教科書の全 14 課のうち、10 課を扱い、1 回の授業で 1 課のペースで上級レベルの読解文や論文読解の方法などについての学習と、短編小説などの読み物を用いて、読解の練習をさせた。課題の配布、回収、及び授業に関する連絡については Google Classroom を使用した。また、授業開始前の 5 分を使ってウォームアップとして 1～3 段落程度の軽い読み物の「速読クイズ」に取り組むよう指示した。

【授業の内容】

前半の 30 分で、エッセイや短編小説などの読み物を扱い、後半の 70 分で教科書を扱った。読み物、教科書ともに予習を前提として進めた。受講生には、事前に本文の読解を行った上で、分からない語彙があれば調べ、内容理解問題に取り組んでおくように伝えた。授業では、内容理解問題の答え合わせと、知識の補足や本文の構造、内容を説明した後、新出の文法や表現、読解スキルを一緒に確認するという形で進行した。授業の際には、まず、本文を学生に音読してもらい、必要に合わせ、漢字の読み方、単音の発音、アクセント、イントネーションの指導を行った。中間試験と期末試験は、ともに教科書の文章に関する読解試験を行った。また、示された論理展開の型に沿って約 800 字の作文課題を書くことを課した。

2. その他

学期初めは、8 名の受講生が登録していたが、そのうち 4 名が修了することができた。修了できなかった学生は、研究などが多忙で、最後まで履修できなかったと考えられる。修了者はいずれも、大変真面目に授業に取り組み、授業外の読解問題の課題などにも積極的に取り組んでいた。

3. まとめ・今後の課題

今学期の受講生はいずれも、漢字圏の学生であったが、読解や発話能力には、学生間で差があり、音読の時に、かかる時間にも差があった。時間がかかる学生には、事前に漢字の読み方や読む練習をもっとしておくように注意したが、最後までなかなか定着が難しい学生もいた。今後も引き続き、学生の読解、発話能力をよく観察し、事前学習を促していきたいと考える。また、全体的に非常に真面目であるものの、ディスカッションには消極的な学生が多かったため、より自発的な発話を引き出せるよう、ディスカッションのテーマを学生に身近な話題にアレンジするなどの工夫を続けていきたい。

上級1 文章

2023年度S1S2

レベル	: 上級 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 324C
学習目標	: 日本語のレポートや論文の表現や構成を学び、書けるようになることを目指す。
対象	: 中級3文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当
テキスト	: アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』（アルク）
評価	: 教室活動20% 参加度5% 中間試験20% 期末試験25% 課題30% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-930-1、学部FEN-JL4r41L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション/レベルチェック
2	4/ 13	木	第1課「作文の基本1」 第2課「作文の基本2」 第3課「課題の提示」
3	4/ 20	木	第4課「目的の提示」 課題1 締切
4	4/ 27	木	第5課「定義と分類」
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	第6課「図表の提示」, 課題2 締切
7	5/ 18	木	第8課「対比と比較」,
8	5/ 25	木	中間試験
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	第9課「原因の考察」, 中間試験フィードバック
11	6/ 15	木	第10課「列挙」
12	6/ 22	木	第11課「引用」
13	6/ 29	木	第12課「同意と反論」 課題3 締切
14	7/ 6	木	第13課「帰結」
15	7/ 13	木	第14課「結論の提示」 課題4 締切
16	7/ 20	木	期末試験

上級 1 文章

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』(アルク)を使用し授業を行った。タイピングで日本語の文章を書く練習を行った。毎回の授業中に書く課題、授業外の課題、中間試験、期末試験を評価の対象とした。

【授業の内容】

授業では、教科書の各課に書かれている論文の構成、表現の説明を読み、練習問題を行い、その後、教科書の課題を使って短い文章を書いて提出してもらった。提出してもらった文章にはすべてフィードバックを行った。授業外の課題では、教科書の課題のトピックを使って、自分の専門の内容についてまとめてもらった。こちらにもフィードバックを行った。

教科書の後半部分は資料になっている。この資料を参考にして、日本語論文の表現が使えるようになると、文章の質が向上する。今回の学習者はみな、それぞれのペースで教科書の使い方をつかんでいった。書き言葉への理解を深めることができ、日本語上級者らしい表現を使うことが多少なりともできるようになった。

2. その他

授業外の課題の提出物を振り返ると、上級 1 文章の授業以外でも日本語の文章を読む機会が多い文系の学習者は非常に進歩したと感じた。一方、理系の学習者は、上級文章授業以外で日本語の文章に接する機会が少なく、日本語の書き言葉の表現がどういうものかなかなか習得できないようで残念だった。

3. まとめ・今後の課題

今回の参加者は 4 名とも、正規の大学院生で、授業やゼミも忙しかったと思うが、大変熱心に参加していた。レベルも揃っており、それぞれ日本語の理解力も文章力もあったので、ペアで学習し合う雰囲気もできていた。教科書の内容なども自分なりにまとめて、努力していた学習者もいた。書き言葉の習得は難しいので、少々弱音を吐いていた者もいたが、4 名とも無事修了した。

定期試験のスケジュールの確認がしっかりできていなかった学習者がおり、専任の先生とご相談しながら、試験を実施した。また、学期中、コロナに感染し、欠席しなければならず、出席率を心配しながら家で療養した学習者もいた。上級レベルであるが、スケジュール管理は学期開始時にしっかり周知しておく必要があると改めて感じた。

上級2 総合

2023年度S1S2

レベル	: 上級 2
スキル	: 総合
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: 工学部5号館 54講義室
学習目標	: 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の4技能を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。
対象	: 上級1 総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10%, ことば・漢字クイズ15%, 宿題15%, 中間試験20%, 期末プロジェクト10%, 期末試験20%, 作文10%
その他	・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-946-1)、学部 (FEN-JL4r03L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞（キム ユジン） KIM Youjin nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	オリエンテーション、レベルチェックテスト
2	4/ 12	水	【休講】入学式
3	4/ 19	水	新聞記事を読む（1）、課題1（作文）配布
4	4/ 26	水	読解1、課題1（作文）締切
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	読解2、ディスカッション説明、言葉クイズ1（Reading1）
7	5/ 17	水	リスニング1、ディスカッション、言葉クイズ2（R2）、課題2（作文）配布
8	5/ 24	水	読解3、課題2（作文）締切
9	5/ 31	水	中間試験
10	6/ 7	水	読解4、期末発表の説明、中間試験Feedback
11	6/ 14	水	読解5、言葉クイズ3（R4）、期末発表の準備1（テーマ締切）
12	6/ 21	水	新聞記事を読む（2）、言葉クイズ4（R5）、期末発表の準備2（アウトライン締切）
13	6/ 28	水	ディスカッション、期末発表の準備3（PPT下書き締切）
14	7/ 5	水	リスニング2、期末発表の準備4（PPT清書締切）
15	7/ 12	水	期末発表（期末プロジェクト）
16	7/ 19	水	【休講】補講日
17	7/ 26	水	期末試験

上級 2 総合

報告者：金 瑜眞

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

上級 2 総合では、自主教材である、読解教材 5 本、聴解教材 2 本を使用し授業を行った。受講生には、読解教材と聴解教材を事前に配布し、読解と聴解問題に対し解答を提出させた。授業中は答え合わせと発展課題に関する話し合いを行った。また、読解問題で扱ったテーマを発展させたディスカッションと、ディスカッションの結果を踏まえ作文を書く課題を課した。ディスカッションの際には、3、4 名ずつのグループに分かれ、ディスカッションのための事前準備を行い、文献調査に基づくディスカッションを行ってもらった。

【授業の内容】

授業では、読解および聴解教材の内容理解問題の答え合わせを行うとともに、関連する語彙や文法表現についても紹介し、短作文の練習などを通して文型の定着を図った。読解および聴解教材では、理工系の学生も関心が持てるよう、再生エネルギーや新産業など科学に関わるテーマを中心に、その他、哲学的なテーマなどを含む多様なものを取り上げた。事前に課題を提出してもらい個別にフィードバックを行うとともに、授業内でもクラス全体で再度確認を行う形式をとった。聴解は TED や講義のオンラインビデオを使用し、上級 2 レベルに相当する難易度で、まとまりのある内容を理解する練習を行った。

2. その他

学生の中には、日常会話での日本語の発話には慣れているものの、フォーマルなディスカッションで日常の話し言葉とアカデミック日本語が混在する例が見られた。しかし、教員からのフィードバックを受けながら、授業での話し合いやディスカッションを繰り返していくにつれ、アカデミック日本語の表現や話し方に慣れる様子が見受けられた。また、学期末は、学術的な内容に関して自由発表を行ってもらったが、各自の専門分野について、他分野の聞き手にも分かりやすい説明やスライドの作り方、出典の挙げ方など、アカデミックなプレゼンテーションについて練習することができたと考えられる。

3. まとめ・今後の課題

受講生の 7 名中、最終的に 6 名が修了することができた。出席していた学生は全体的に非常にまじめに授業内外のタスクおよび課題に取り組んでいた。しかし、課題の趣旨をうまく理解できず、最小限の分量のみを解答する例もあったので、各自の日本語力を向上させるために、必要なトレーニングであることを再認してもらえるように、続けて注意したい。

上級2 会話

2023年度S1S2

レベル	: 上級 2
スキル	: 会話
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 88L
学習目標	: 様々な社会問題についてのディスカッション、発表などの活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得し、批判的な思考力を養うことを目指す。
対象	: 上級 1会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: テキストは使用しない
評価	: 教室活動10%参加度 10% ショートスピーチ20% 中間口頭発表 20% 期末口頭発表 20% 課題 20% ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率 70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-948-1, 学部 FEN-JL4r22L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	金	オリエンテーション、復習クイズ
2	4/ 14	金	自己紹介、社会文化テーマについて意見を述べるー1
3	4/ 21	金	ディスカッション(1)
4	4/ 28	金	ディスカッション(2)、課題①イントロ
5	5/ 5	金	祝日
6	5/ 12	金	中間試験説明、課題①DUE
7	5/ 19	金	ディスカッション(3)
8	5/ 26	金	中間試験(口頭発表)
9	6/ 2	金	休講 (中休み)
10	6/ 9	金	社会文化テーマについて意見を述べる - 2
11	6/ 16	金	ディスカッション(4)、課題②イントロ
12	6/ 23	金	課題②発表 - 1
13	6/ 30	金	課題②発表 - 2、期末試験説明
14	7/ 7	金	ディスカッション(5)
15	7/ 14	金	ディスカッション(6)、期末試験準備
16	7/ 21	金	学期末口頭発表

上級2 会話

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

発表、ディスカッション活動の基礎力をすでに持つ学生を対象とし、習熟度を更に高めることを目標とした。テキストは用いず、スピーチ、グループディスカッション、パネルディスカッションの実践的学習を行った。学生は、基本的な枠組みの中で自主的にテーマを選定し準備した。ディスカッション準備では、進行、意見調整などのプロセスを重視し、教師はコミュニケーションの観点から適宜アドバイスを行った。学生は各活動を通して自らの課題を認識し改善に努めるとともに、他者の意見を理解し、よい聞き手となることを目指した。

【授業の内容】

活動とテーマは次の通りである。1) -②を中間試験、3) -②を期末試験とした。

質疑応答の時間に限りがあるため、スプレッドシートも活用し、議論の継続を計った。

1) スピーチ

- ① 最近のニュースについて考えたこと 又は 留學生活の経験から考えたこと
- ② Three Minute Thesis (研究分野について一般の人に紹介する)
- ③ SDGs と研究
- ④ 映画、ドラマ、アニメ、美術・音楽作品批評 (社会文化テーマから見た作品批評)

2) グループディスカッション

- ① 環境問題とその対策、課題
- ② 日本の少子化問題と外国人労働者の受け入れ
- ③ LGBTQ+と学校教育

3) パネルディスカッション

- ① 就職活動の現状と課題：留學生の立場から
- ② 教育環境における ChatGPT

2. その他

発表の場では、周到な準備にもかかわらず、様々なハプニングに見舞われることがある。クラス内ではできる限り経験を分かち合って学び、励まし合える場を提供したい。

3. まとめ・今後の課題

パネルディスカッションは初の試みであったが、各学生が発言しやすく、発言量に大きな差を作らないこと、フロアの学生も発言機会を持つことなどから、評価できると思う。学生にとっても新しい形式であったが、意欲的に取り組んでいた。

ボランティア学生の参加が1回に留まったことが残念な点である。来期に期待したい。

上級2 文章

2023年度S1S2

レベル	: 上級 レベル 2
スキル	: 文章
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 722教室
学習目標	: 自分が関心ある分野の論文を3本以上読み、まとめた内容の論理的文章をアカデミックな文章記述の基本的な形式に則って書けるようになる。
対象	: 上級 1 (総合・会話・文章) コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	: 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 (くろしお出版)
評価	: 教室活動10%、参加度10%、中間試験20%、期末試験 (最終成果物) 30%、課題30% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-950-1、学部FEN-JL4r42L1 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	木	オリエンテーション、レベルチェック
2	4/ 13	木	論文の構成、コンセプト・マップの作成
3	4/ 20	木	論文のテーマ報告
4	4/ 27	木	序論の書き方の確認
5	5/ 4	木	祝日
6	5/ 11	木	参考文献について報告する、問題提起文を書く
7	5/ 18	木	アウトラインを考える、序論を書く
8	5/ 25	木	中間試験 (中間報告会)、序論の検討・修正
9	6/ 1	木	中休み
10	6/ 8	木	本論を書く
11	6/ 15	木	本論の検討・修正
12	6/ 22	木	結びを書く
13	6/ 29	木	結びの検討・修正
14	7/ 6	木	全体を書き直す
15	7/ 13	木	論文を完成させる
16	7/ 20	木	期末試験 (論文の提出、最終報告会)

上級 2 文章

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、上級 1 文章コースの修了者、日本語を 900 時間以上勉強した人を対象に、一つのトピックについて先行研究を踏まえた上で、ある程度まとまった長さの論文を作成することを目的としている。『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）をメインテキストとし、授業内では論文の構成や表現を確認・練習を行い、併せて各自のトピックについて論文作成・推敲を行った。中間発表会、最終発表会を取り入れ、学生同士の意見交換を行うことで、より客観的な視点から論文作成を行えるよう進めた。各学生は最終課題として一つの論文を完成させ提出した。

【授業の内容】

毎回の授業ではテキストに沿って、論文の構成や論文に必要な表現を幅広く学習し、練習問題やタスクを行った。これにより既習の表現だけでなく、類似表現の様々なバリエーションや自分が意図した内容に合った的確な表現を使いこなせることを目指した。

最終的に論文としてまとめていくためのステップとして適宜課題を出し、各学生が授業内外でスムーズに論文作成が進められるようにした。具体的にはトピックの選定、論文作成のためのコンセプトマップの作成、アウトライン、序論、本論、結論の各章などを課題とし、フィードバックを行った。各自の課題に加え、クラスでも中間発表会や互いに共有する機会を取り入れ、意見交換を行った。また、最終日には論文を提出するとともに、最終報告会を実施した。

2. その他

課題の提出やフィードバックは、Google Classroom を有効に活用し、各学生の論文の推敲や添削を効率的に進めることができた。そのうえで、対面授業においては、学習事項や提出物の個別フィードバックに関する質問についてクラスで共有し、一緒に検討するなど、対面授業での学びも重視した。

3. まとめ・今後の課題

自分が関心を持ったテーマについて先行研究を調べ、読み込み、最終的には一つの論文に日本語でまとめる、という時間と労力が必要なコースであるため、専門の研究で多忙な工学系の留学生には負担ではないかという懸念を持っていたが、実際には受講学生の日本語能力の向上に対する動機は非常に高く、授業や課題にも熱心に取り組んでいた。今後も工学系の留学生が日本語学習を意欲的に進めていけるようコース内容を充実させていきたい。

上級 日本組織事情A

2023年度S1S2

レベル	: 上級
スキル	: その他
開講期間	: 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日
場所	: 工学部8号館 88L
学習目標	: 日本の組織で就職やインターンシップをするために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。
対象	: 日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP(学部生)
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動15%、課題45%、発表20%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位_2_認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院 3799-951-1. 学部FEN-JL4r50L1, 2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 佐野 理恵 SANO Rie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	火	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 18	火	日本の就職事情
3	4/ 25	火	エントリーシートの対策1 (*自己PR)
4	5/ 2	火	エントリーシートの対策2 (*学生時代頑張ったこと)
5	5/ 9	火	エントリーシートの対策3
6	5/ 16	火	業界研究発表1 中間試験
7	5/ 23	火	業界研究発表2 中間試験
8	5/ 30	火	休講
9	6/ 6	火	エントリーシートの対策4 (*志望動機)
10	6/ 13	火	内定者・OB/OGの話を聞く
11	6/ 20	火	面接1
12	6/ 27	火	面接2
13	7/ 4	火	面接3
14	7/ 11	火	入社に向けた準備・ビジネス場面における敬語
15	7/ 18	火	休講
16	7/ 25	火	ビジネスメール・報告書書き方、*期末試験

上級 日本組織事情

報告者：佐野理恵（文責）、古市由美子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、就職やインターンのために必要な知識やスキル、ビジネスマナーを養うことを目的に、S1S2 午前（2 限）に対面 A コース、午後（3 限）にオンライン B コース、計 2 コースを開講した。B コースは本郷キャンパス外で学ぶ留学生を主対象としたが、本郷所属の学生でも受講目的と事情を確認の上、受講を許可した。日本での就業を志す留学生が研究と就職活動を両立しながら状況に応じて対面／オンラインを選択できる体制をとった。

AB 両コースで同じ内容の講義と課題、評価テストを実施した。教材や資料は全てオリジナルで作成し使用したが、留学生就職促進プログラム（CDIPs）のオンデマンド教材を各講座の予習や復習ツールとして紹介した。また、就職活動中の個別の課題や悩みに関する相談や特定企業を想定した指導等については授業外のキャリア相談で応じ、フォローを行った。

【授業内容】

授業内容は、就職活動の流れから始まり、エントリーシート（ES）の書き方、業界／企業研究、面接練習、最後に敬語やビジネスマナー、メールの書き方などをテーマとした授業を実施した。ES では、自己分析を通じて、職業と自身の強みや専門性を結び付けたキャリアプランについて検討した。「自己 PR」「学生時代に力を入れたこと」をそれぞれ 400 字の課題とした。業界／企業研究では、学生の発表を中間試験とし、業界／企業研究に基づいた 400 字の「志望動機」を課題とした。面接対策では「個人面接」「集団面接」「グループディスカッション」の 3 種類の対策を目的に、ビデオ視聴やロールプレイング、ペアによるフィードバックなどを取り入れた実践練習を行った。応募者としての練習だけでなく、面接官として評価する視点も養った。B コースでは就活経験のある日本人学生が TA として面接授業のペアワークやグループワークのサポートに入ったことで、受講生の意見や視点が深まった。

2. その他

過去受講生より 1 コースあたり 4 名の内定者や OB・OG に依頼し、就職活動の進め方や内定までの苦労、企業決定の理由、就活生へのアドバイスなどを中心に話題提供してもらう講話会を実施した。受講生には事前に講話者のプロフィールを配布し、参加意識を高めてもらった。受講生から多くの質問があがただけでなく、講話者の内定者や OB・OG からも自らの就職活動やキャリアを振り返る良い機会となったと好評であった。

3. まとめ・今後の課題

S1S2 コースでは、受講生の日本語レベルや意識に差があり、学びたいことや習得したいスキルが個々で異なった。ディスカッションやペア練習の組み合わせやテーマを配慮するなどの対応を図った。今後もクラス規模や受講生のニーズを見ながら内容や運営の工夫改善に努めたい。

冬季日本語特別集中科目1

2023年度A1A2

- レベル : 中級 I
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2024/ 02/ 05 - 2024/ 02/ 21
- 時間 : 08:30 - 10:15 月曜日
08:30 - 10:15 木曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M
- 学習目標 : このコースでは中級の文型・語彙を用いながら、実際に日本語を用いてコミュニケーションを行う運用力を養うことを目的とする。クラスでは日本語の4技能を伸ばすための学習活動を行い、インタビュータスクを通して日本の文化理解や、日本語によるコミュニケーションスキルを習得する。
- 対象 : 2023S1S2初級4、2023S1S2インテンシブ初級2コースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A2.2相当
- テキスト : 自主教材
- 評価 : インタビュータスク 30%、課題（レポート）20%、最終発表 40%、参加度 10%
・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位あり（1単位）UTAS コード：大学院3799-971、学部FEN-JL4 t 01L1
2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。
3. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
4. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
【注意】このコースの履修には下記の条件をクリアしていることが求められます。
・毎回、予習と復習、宿題をすること。
・全日程、出席できること。
5. スケジュールの日時をよく確認すること。
- 担当 : 猪狩 美保 IGARI Miho, 劉 羅麟 Liu Luolin
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	2/ 5	月	コースオリエンテーション・L1(1)
2	2/ 8	木	L1(2)・日本語の発音(1)・インタビュータスク1
3	2/ 9	金	L5(1)・日本語の発音(2)
4	2/ 13	火	L5(2)・日本語の発音(3)・インタビュータスク2
5	2/ 14	水	L6(1)
6	2/ 16	金	L6(2)・インタビュータスク3
7	2/ 19	月	復習・発表準備
8	2/ 21	水	最終発表・レポートの提出

冬季日本語特別集中科目 1

報告者：猪狩美保・劉 羅麟

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

当コースは中級 1 レベル相当の集中コースとして開講し、中級の文型・語彙を用いながら、実際に日本語を用いてコミュニケーションを行う運用力を養うことを目的とした。授業では、日本語の運用力向上のための 4 技能について学習活動を行い、3 つのテーマに関するインタビュータスクを課題とした。コースの最後には口頭発表を実施し、さらに発表の内容についてまとめるレポートを課した。コース全体を通して日本の文化理解や、日本語によるコミュニケーションスキルを習得することを目指した。また、コースの前半にはコミュニケーションを支える要素の一つとして、日本語の発音について学習する時間を授業内に設け、日本語の発音の特徴や規則についても学習した。テキストは自主教材を用い、1 コマ(105 分)の授業を計 8 コマ実施した。

【授業の内容】

授業では主に「習い事」「習慣や制度の違い」「音楽」をテーマに、話す・聞く・読む練習を行った。課題のインタビュータスクは、各テーマを学習した後に、日本人や周囲の人に尋ねたい質問を作成し、授業時間外でインタビューを行い、その結果をまとめるという内容である。インタビューの結果をタスクシートにまとめ提出するとともに、発展活動としてクラスでもその結果を共有することで学びを深めた。コースの最終回で実施した口頭発表では、授業内で学習したテーマに関連する内容を各自選び、一人ずつ口頭発表を行った。それぞれインタビュータスクの結果や調べたことに基づいて、自分の意見をまとめ発表した。各発表後には意見交換も活発に行われ、日本語で話し合う良い機会となっただけでなく、異なる意見や文化・習慣に接して相互理解を深める貴重な場となった。

2. その他

コース受講生のうち希望者には単位を付与した。またコース受講者にはマサチューセッツ工科大学からの交換留学生 2 名が含まれていた。

3. まとめ・今後の課題

レギュラーコース修了後の期間に開講するため、コース内容を十分に検討する必要性や受講者数への懸念があったが、中級 1 コースの復習として、またコミュニケーションスキルの向上などインタラクティブな講義内容を目指し開講したところ、11 名の受講生が集まった。多様な背景を持つ受講生が、短期間ではあったがともに協力し合いながら学び合う様子が見られた。今回の試みを基に、今後もより充実したコース展開を目指したい。

ビジターセッション・日本事情(13:00-14:30)

2023年度S1S2

レベル : 全レベル
 スキル : 該当無し
 開講期間 : 2023/ 04/ 05 - 2023/ 07/ 26
 時間 : 13:00 - 14:45 水曜日
 場所 : 対面：工学部8号館 88L/(6月7日のみ)88M / オンライン
 学習目標 : * 日本や日本文化について日本人シニアボランティアの方々とさまざまなトピックで会話をする事で日本語の上達を目指します。また、日本に関する知識（文化、社会、日常生活、イベントなど）を豊かにすることもできます。

- ・好きなトピックについて日本語で話す
- ・日本語や日本文化について知識のある人に質問する
- ・少人数(2～3名)のグループで会話を楽しむ

* 文化イベントを通して、日本の文化に触れる。文化イベントは事前申し込みが必要（詳細は後日メールで通知）

対象 : 全レベルの学習者
 テキスト : なし
 評価 : 単位なし
 その他 : 学期の途中からでも参加できます。来られない週があっても大丈夫です。

Zoom address: <https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/83253139370>

担当 : 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, 早坂 美和子 HAYASAKA Miwako
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	水	休講
2	4/ 12	水	休講
3	4/ 19	水	休講
4	4/ 26	水	オリエンテーション 自由会話（対面）88L教室
5	5/ 3	水	祝日
6	5/ 10	水	自由会話（対面）88L教室
7	5/ 17	水	自由会話（対面）88L教室
8	5/ 24	水	休講
9	5/ 31	水	休講
10	6/ 7	水	書道ワークショップ(88L教室)および自由会話（対面）(88M教室)
11	6/ 14	水	自由会話（オンライン）
12	6/ 21	水	浴衣ワークショップ(132教室)
13	6/ 28	水	自由会話（オンライン）
14	7/ 5	水	自由会話（オンライン）
15	7/ 12	水	自由会話（オンライン）
16	7/ 19	水	休講
17	7/ 26	水	休講

ビジターセッション&日本事情

報告者：牛山和子・早坂美和子

1. 活動の方法と内容

【活動の方法】

世界的なコロナ禍の影響を受け、対面での活動を中断していたビジターセッションも、2022A1A2 より 2 回のイベント（着物体験、書道体験）と並行して対面での自由会話も 2 回実施し、2023S1S2 においては対面で 3 回、オンラインで 4 回の自由会話セッションを設け、書道ワークショップ、浴衣ワークショップなどイベントも 2 回開催した。自由会話セッションでは、9 名のボランティア（秋山賢一氏、北林三枝子氏、小林桜子氏、篠崎いずみ氏、田中勉氏、橋本富美栄氏、松枝文恵氏、野城ゆうこ氏、山崎佳子氏）の方々にご協力をいただき、留学生（入門～上級レベル）と少人数での活発な自由会話が行われた。

【活動の内容】

対面セッションにおいては留学生のレベルに応じてグループ分けをし、ボランティアの皆さんからの話題提供や留学生から出されたテーマをもとに日本語での会話を楽しんでもらった。初級レベルの場合は、会話を続けることが難しい場合もあり、ボランティアの方々の中には、会話のきっかけとなる自主教材を持参された方もいた。対面での自由会話に参加した留学生は積極的に会話に参加し、90 分というセッションがあつという間に終わった感があった。一方、オンラインでの自由会話には学期末ということ、また対面での会話を希望する学生が多いこともあつてか、参加者が少なかった。文化イベントに関しては、書道ワークショップ、浴衣ワークショップとも大変好評で、参加者募集のアナウンス開始からほどなくして定員に達するほどであった。

2. その他

浴衣ワークショップに関しては、ボランティアの方々が浴衣の着方などを留学生に指導してくださり、和やかで楽しい文化イベントとなった。書道ワークショップは東京大学書道研究会部員である工学系研究科修士 1 年生の石原由貴さんの指導の下、はじめて筆を持つ留学生も楽しみつつ作品を仕上げ、充実した時間を過ごしていた。

3. まとめ・今後の課題

ビジターセッションは、ボランティアの方々のご協力による会話セッションと文化イベントの 2 つを大きな柱として実施しており、この両輪の推進力を生かし、留学生の日本滞在を豊かなものにしていきたいと願っている。末筆ながら、ビジターセッションを支えてくださる皆様に心より感謝の意を表したい。

チュートリアルセッション

報告者：猪狩美保

1. 概要

日本語教室では、通常の授業では対応できない学習者それぞれのニーズに合わせ、教員が個別指導を実施することで、自律学習を支援している。概要は以下の通りである。

目的：留学生の個別日本語学習支援

対象：工学系研究科日本語教室の授業を現在受講中または過去に受講していた学生

指導内容：日本語学習全般に関する支援

- ・日本語学習方法アドバイス
- ・既習事項の確認
- ・日本語能力試験対策指導
- ・研究計画書の添削
- ・奨学金申請書類のサポート 等

2. 実績

2023 年度は 2023S2 学期および 2023A2 学期に開講した。実績は以下の通りである。

開講日時：2023S2（2023/6/7-2023/7/26）対面

2023A2（2023/11/29-2024/1/24）対面 *オンライン 1 件含む。

毎週水曜日 第 4 時限目（14:00-14:45／14:55-15:40）

時間： 1 回 45 分

利用件数：2023S2：12 件／2023A2：13 件

*申し込み後キャンセル S2：2 件／A2：1 件含む。

指導内容：2023S2／2023A2

日本語の学習方法相談・既習事項の復習 6 件／7 件

日本語能力試験対策 3 件／1 件

日本語の会話練習 0 件／3 件

奨学金申請書類のサポート 1 件／1 件

研究計画書の添削 2 件／0 件

既習事項の復習 0 件／1 件

3. まとめ・今後の課題

学期の後半に 14 回という限られた期間であるが、S・A 学期ともに学生からの申込が多く、チュートリアルセッションに対する多様なニーズが確認できた。相談内容は日本語の学習方法へのアドバイスや日本語能力試験の対策、会話練習の希望が多かった。セッションを続ける中で、日本語の学習過程で学生が持つ困難な点について、教員も把握することができ、教員・学生双方から見て意義があると感じられた。今後も学生の自立学習促進を支えていけるよう、継続して支援を続けていきたい。

2.5 受講者と修了者

本章では、2023 年度に実施した S1S2、A1A2 学期の受講者と修了者について報告する。まず年度別延べ数および実数の受講者数の推移（図 2）を提示する。グラフの動きからわかるように、2011 年に統計を取り始めてから、次の 3 つの動きがあったと言える。

1) 2016 年までの段階的な受講者の増加は、主にカリキュラムの改善と日本語科目の単位化の浸透によるものと考えられる。2) 2017 年から 2019 年における受講者の減少（ピーク時より約 150 名減）は、2017 年度から他研究科からの登録に対して定員制を設けたこと、当教室の登録・管理システムである STAR（Student Tools for Access and Review）を都市工学日本語教室及びシステム創成系日本語教室と共有し、受講者のバランスを図った結果と考えられる。3) 2020S1S2 から 2022S1S2 までの 6 学期はコロナ禍の影響を大きく受け、2020 年度は延べ数 188 名、実数 145 名の減少となった。しかし、受講者実数は 2021 年度にはコロナ禍前の数値に近づき、その後も順調に増え、A1A2 より対面授業を開始した 2022 年度は実数で過去最高の 806 名、2023 年度は、857 名と受講者数を伸ばした。

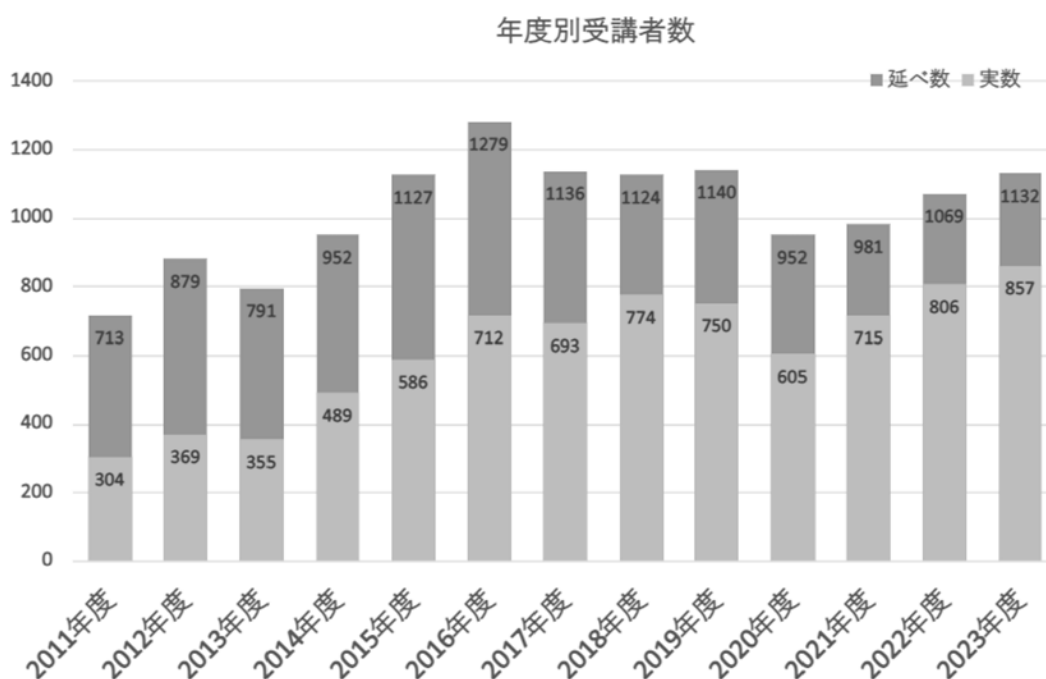


図 2 年度別受講者数推移

受講者が延べ数、実数ともに増加した背景には、コロナ禍の収束に加え、2020 年度に上

級 2 レベルが新設され、6 レベル 30 コースから 7 レベル 33 コースになり、履修コースの選択肢が増えたことも一因であるとする。

2.5.1 SIS2 受講者

1) 工学系研究科日本語教室受講者

表 2 は、研究科別の各レベルの受講者の延べ数と実数である。

表2 2023SIS2 研究科別・レベル別受講者数 () 内は単位申請者数

研究科 \ レベル	初級I	初級II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ 合計	実数 合計
① 工学系研究科	52	50	61	32	44	43	12	294(65)	233(61)
② 情報理工学系	18	14	12	20	10	11	2	87(30)	70(29)
③ 新領域研究科	1	2	10	1	6	2	1	23(10)	14(7)
④ 全学交換留学生	6	4	5	8	8	8	10	49(45)	25(26)
⑤ 他研究科	14	9	19	20	20	28	8	118(50)	82(39)
合計①～⑤	91	79	107	81	88	92	33	571(200)	424(162)

*工学系研究科における初級は、複数レベルで構成されている。

・初級I：入門、初級1、初級2、インテンシブ初級I ・初級II：初級3、初級4、インテンシブ初級II

*④ 全学交換留学生は、USTEP(University-wide Student Exchange Program)生とも呼ばれる。

表の①から⑤までの合計を前年度と比較すると、中級2で受講者が減った以外は、延べ数で85名、実数で59名の増加となった。また、コロナ禍の収束と共に、全学交換留学生（USTEP生）が昨年度の3名（延べ数、実数とも）から延べ数で46名、実数で22名増加した。

工学系研究科について見ると、中級2レベルが25名減ったほかは、初級I（+8名）、初級II（+13名）、中級1（+1名）、中級3（+9名）、上級1（4名）、上級2（±0）を合わせて、全体で20名増加した。

次に身分別延べ数（図 3）について述べる。

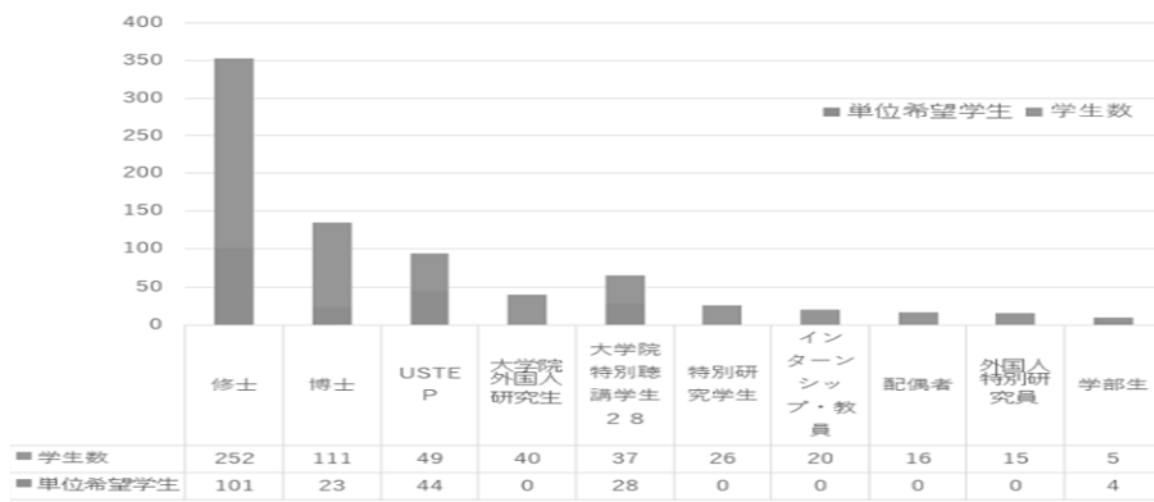


図3 身分別受講者延べ数（USTEP：全学交換留学生）
2023年度 S1S2（延べ合計 571 名）

2023年度の身分別の受講生は、修士（44%）、博士（19%）となり、この2つを合わせると全受講生の63%を占め、受講生は、例年通り、修士・博士の学生が多いことがわかる。また、2桁以上受講者が増えたのは、全学交換留学生（USTEP生+46名）、大学院特別聴講学生（+36名）、特別研究学生（+17名）、インターンシップ教員等（+19名）であった。

次に専攻別の延べ数（図4）を見る。2023S1S2において受講者数が多いのは、建築学、機械工学、電気工学であるが、このうち2022S1S2で最も受講生が多かった電気系工学が18名減少した。建築学は11名、機械工学は4名の増加となった。このほか、昨年度と比べ5名以上受講者が増えたのは、化学生命工学（+10名）、物理工学（+9名）、化学システム工学（+6名）であった。なお、日本語科目が卒業要件単位になる5専攻を見ると、航空宇宙工学（-3名）、都市工学（±0）以外は、受講者が微増（1名～4名）した。

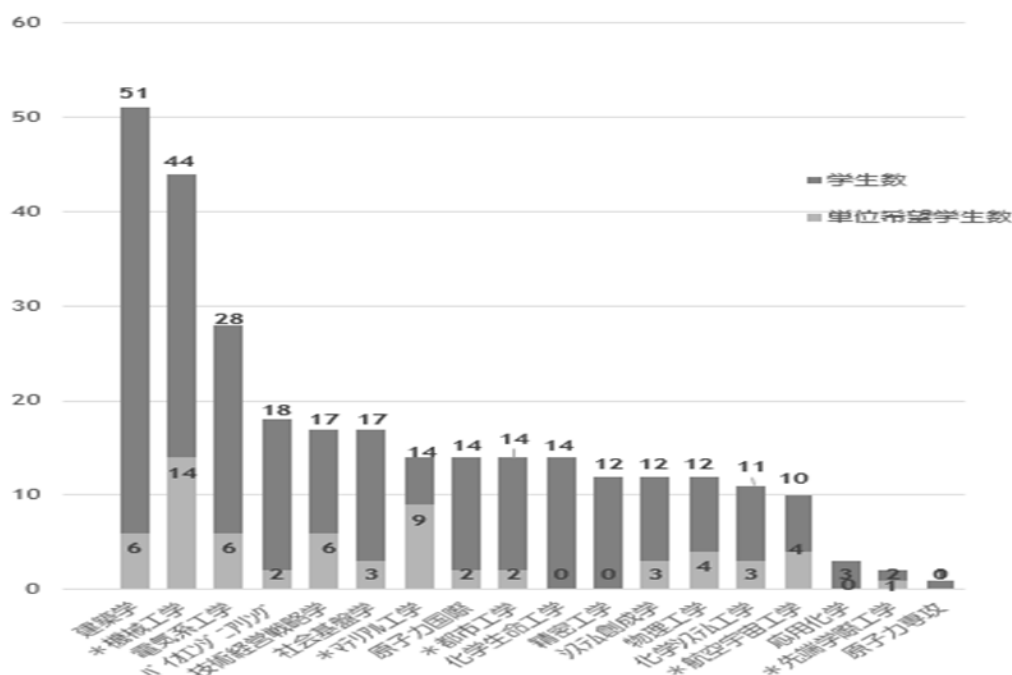


図4 専攻別受講者数 *印：日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

国籍別受講者数（表3）に関しては、2022S1S2のデータとの比較で、以下のことがわかる。

表3 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級Ⅰ	上級Ⅱ	合計	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	
1	中国	38	28	39	50	35	56	23	269	212
2	フランス	11	8	4	2	1	1	0	27	23
3	台湾	0	1	12	10	8	9	6	46	20
4	韓国	2	0	2	1	5	4	5	19	15
5	ドイツ	8	2	2	1	3	0	0	16	14
6	アメリカ	1	4	4	0	9	1	0	19	11
7位～56位計		31	36	44	17	27	21	0	175	129
合計		91	79	107	81	88	92	33	571	424

* 初級Ⅰ：入門、初級Ⅰ、初級Ⅱ、インテンシブ初級Ⅰ * 初級Ⅱ：初級Ⅲ、初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱ

1) 受講者の国籍は、まだコロナ禍にあった2022S1S2に比べ14カ国増え、56カ国になった。また、受講者実数1名の国も12カ国から21カ国に増え、より多くの国から留学生が来日していることがわかる。

- 2) 上位 6 カ国の内、中国、台湾は、2022S1S2 においても受講者数が 1 番目、3 番目に多く、アメリカも 4 番目に受講者数が多かった。
- 3) 前回上位 6 カ国に入っていたインド、シンガポール、カナダはそれぞれ、実数でインド、シンガポールは 7 名減、カナダは±0 名であった。
- 4) 2022S1S2 と比して受講者実数が増え、上位 6 位までに入ったのは、フランス（+18 名）、韓国（+8 名）、ドイツ（+10 名）である。

2) 専攻日本語教室受講者

表 4 は工学系内の専攻日本語教室の S1S2 の受講者である。

表 4 S1S2 専攻日本語教室受講者数(実数)

レベル 専攻	初級I	初級II	中級I	中級 III	上級	計
社会基盤学	9	19				28
都市工学	都市工 1 工学系 1 他 2	都市工 8 工学系 0 他 1				都市工 9 工学系 1 他 3
システム創成系*			シス創 4 工学系 4 他 2	シス創 2 工学系 4 他 4		シス創 5 工学系 7 他 5
IME*			IME 1 工学系 1・他 0		IME 1 工学系 4・他 0	IME 2 工学系 5 他 0

*システム創成系中級IIは複数コース受講者がいるため、合計は実数

*IME 日本語教室は単位制なし

2022S1S2 と比較すると、社会基盤学日本語教室は実数合計で 7 名増となったが、都市工学日本語教室は 15 名減となった。これは、4 年ぶりの対面授業実施に当たり、それまで開講していた中級 1 コースを不開講としたこととの関連もあると思われる。システム創成系日本語教室は 2 名減、IME 日本語教室は 1 名減であった。

専攻日本語教室の 2023S1S2 における授業形態は、以下のとおりである。

- ・社会基盤日本語教室：授業はオンライン、定期試験、作文指導、イベントは対面実施
- ・都市工学日本語教室：コロナ禍の期間オンライン授業から全面対面授業へ
- ・システム創成系日本語教室：対面・オンラインを同時に行うハイブリッド型
- ・IME：オンライン型

2.5.2 S1S2 修了者

1) 工学系研究科日本語教室修了者

表 5 にあるように、修了者は延べ 366 名、実数 268 名、単位取得者は、延べ 181 名、実数 144 名であった。実数で見ると受講者の修了率は 73% で、昨年度比 2% の増加となり、引き続き 7 割以上の学生がコース修了に至っている。

表 5 2023S1S2 研究科別・レベル別修了者 () 内は単位取得者

研究科 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ 合計	実数 合計
① 工学系研究科	32	22	37	23	23	24	4	165(56)	127(52)
② 情報理工学系	14	9	7	18	4	5	2	59(27)	48(26)
③ 新領域研究科	0	0	7	0	3	2	1	13(7)	7(5)
④ 全学交換留 学生	3	4	5	7	8	8	9	44(43)	22(21)
⑤ 他研究科	12	5	13	8	16	23	8	85(48)	64(40)
合計①～⑤	61	40	69	56	54	62	24	366(181)	268(144)

2) 専攻日本語教室修了者

専攻日本語教室の修了者数は、以下のとおりである。

表 6 専攻日本語教室修了者数（実数） () 内は単位取得者

専攻 \ レベル	初級I	初級II	中級I	中級 III	上級	計
社会基盤学	7(7)	19(19)				26(26)
都市工学	都市工 1(0) 工学系 1(0) 他 1(1)	都市工 6(2) 工学系 0(0) 他 0(0)				都市工 7(2) 工学系 1(0) 他 1(1)
システム 創成系*			シ創 3(1) 工学系 3(0) 他 2(2)	シ創 2(2) 工学系 3(0) 他 3(1)		シ創 4(3) 工学系 5(0) 他 4(2)
IME			IME 1 工学系工 0・他 0		IME 1 工学系 2 他 0	IME 2 工学系 2 他 0

*システム創成系中級IIは複数コース修了者がいるため、合計は実数

社会基盤学専攻日本語教室は、専攻の学生のみを受け入れており、初級Iと初級IIが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与される。昨年度は 20 名、今年度は 26 名が登録し、全員が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は、

他専攻の学生も受け入れており、工学系、他専攻を合わせた修了率は、都市工学専攻日本語教室が 69%（受講者実数 13 名）、システム創成学日本語教室が 76%（受講者実数 17 名）であった。

2.5.3 A1A2 受講者

1) 工学系研究科日本語教室受講者

A1A2 の受講生は、7 レベル、33 コース中、延べ数 561 名、実数 433 名であった。

表 7 A1A2 研究科別・レベル別受講者数 () 単位申請者

研究科 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ数 合計	実数 合計
① 工学系研究科	72	42	37	48	38	33	3	273(60)	218(55)
② 情報理工学系	21	9	9	12	23	12	5	91(42)	70(35)
③ 新領域研究科	2	2	4	2	8	6	1	25(15)	16(9)
④ 全学交換留学生	22	3	2	2	13	6	4	52(48)	42(38)
⑤ 他研究科	16	13	18	14	25	27	7	120(46)	87(39)
合計①～⑤	133(56)	69(32)	70(15)	78(15)	107(40)	84(40)	20(13)	561(211)	433(176)

*工学系研究科における初級は、複数レベルで構成されている。

・初級I：入門、初級1、初級2、インテンシブ初級I ・初級II：初級3、初級4、インテンシブ初級II

*④ 全学交換留学生は、USTEP（University-wide Student Exchange Program）生とも呼ばれる。

*全学交換留学生（USTEP）は、2023A1A2より、グローバル教育センター日本語教育部門（日本語教育センター）所属となった。

昨年度の A1A2 と比較すると、受講生数は延べ数で 22 名、実数で 8 名減少した。受講生の所属別で見ると、昨年度と比較して受講者（実数）が増えたのは、全学交換留学生（USTEP 生 31 名→42 名）と他研究科（63 名→87 名）で、この 2 つを合わせると延べ数（172 名）で全体の 31%、実数（129 名）で全受講者の 30% を占める。

なお、当教室におけるレベル別の受講者は、2019 年度より中級レベルの学習者が多い傾向にあるが、2022A1A2 では、初級 1～2 の受講者が前年度より 55 名増加し、200 名となった。2023A1A2 も同様に、202 名であった³。中級 1～3 は 255 名で、前年比 10 名減となったが、受講者全体に占める割合は 45% と引き続き高い。

³ 初級コースは、登録締め切り前に定員に達する傾向があり、インテンシブ初級 I、II や初級 1、2 は早くから定員に達することが多い。初級 1 は 2023A1A2 も 2 セクションを 3 セクションに増やして対応した。

身分別（図5）では、2023年度A1A2も昨年同様、修士（235名）が最も多く、次いで博士（122名）であった。博士課程の受講生は、2022A1A2で前年比63名減となったが、2023A1A2では昨年度の81%に当たる数値となった。

なお、2023S1S2（図3）においては、身分別の受講者数の割合が前年度と大きく変わったが、2022A1A2と2023A1A2は、ほぼ同様の順位、受講者数となった。

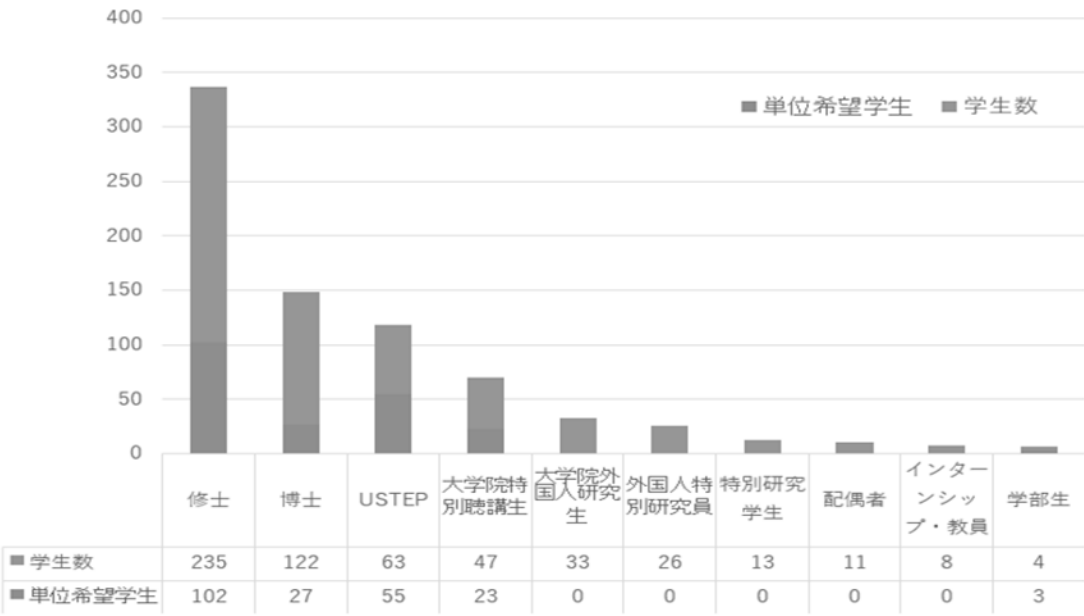


図5 身分別受講者延べ数（USTEP：全学交換留学生）
2023年度A1A2（延べ合計 561名）

専攻別学生数は、図 6 が示すように、18 専攻中 17 の専攻からの受講があった⁴。

⁴ 原子力専攻は研究所がつくば市にあり、そこを研究拠点とする学生は、本郷キャンパスで行われる対面授業に出席することが極めて難しい。

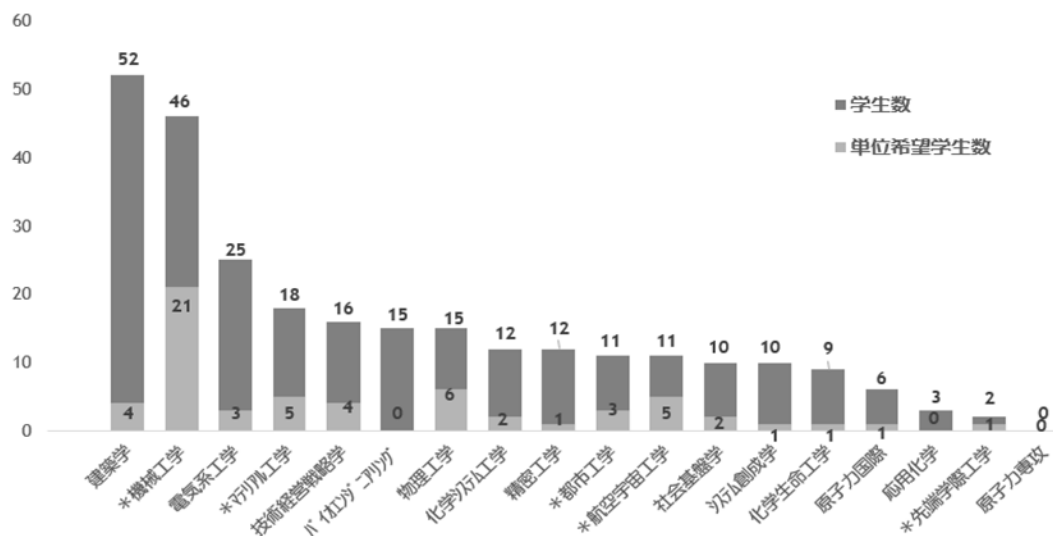


図6 専攻別受講者数 * 枠囲み: 日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

最も受講者が多かったのは建築学(48名→52名)で、2023A1A2より4名増加した。次いで機械工学(55名→46名)、電気系工学(49名→25名)となっているが、電気系工学は減少傾向がみられる。その他、8つの専攻で受講者数が1～9名減っている。逆に受講者数が増えたのは、マテリアル工学(11名→18名)、物理工学(10名→15名)、化学システム工学(9名→11名)、化学生命工学(5名→9名)など、7専攻であった。

なお、機械工学、マテリアル工学、航空宇宙工学、都市工学、先端学際工学の5専攻で日本語科目の単位が修了要件として認められている。機械工学においては約46%(46名中21名)の学生が単位取得を希望しているが、その他の専攻に関しては、単位希望者数は必ずしも多くはない。

次に受講者の国籍について述べる。

表8 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級Ⅰ	上級Ⅱ	合計 延べ数	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数		
1	中国	36	29	27	38	64	49	12	255	194
2	フランス	20	8	11	3	1	1	0	44	39
3	ドイツ	16	5	3	0	5	1	0	30	26
4	台湾	1	1	4	6	13	8	4	37	21
5	韓国	1	3	0	3	4	6	2	19	16
6	インド	7	2	0	3	2	0	0	14	12
7位～57位計		15	4	0	8	0	3	0	30	25
合計		124	76	107	88	70	86	32	583	441

1. 受講者の国籍は 2022A1A2 に比べ 5 カ国、2023A1A2 より 1 カ国増え、57 カ国となった。
2. 上位 6 カ国の内、中国、フランス、ドイツ、台湾は、2022A1A2 においても受講者数が 1 番目、2 番目、4 番目、3 番目に多かった。また、2023S1S2 と比べると、インド以外は上位 5 位までに入っており、2023 年度はこの 4 カ国が実数で全受講生の 63% を占めている。
3. 韓国は 2023S1S2（延べ 19 名、実数 16 名）に続き 5 番目に受講者が多く、2022A1A2 に 6 番目に受講者が多かったインド（延べ 15 名、実数 13 名）がほぼ同数で 6 番目に受講者が多い国となった。

2) 専攻日本語教室受講者

表 9 の数値を 2022A1A2 と比較すると、社会基盤学日本語教室は実数で 3 名増加（29 名→32 名）し、単位もほぼ全員が取得している。都市工学日本語教室（40 名→13 名）とシステム日本語教室（20 名→12 名）は、前年度から受講者数が減少した。唯一夜間の授業をオンラインで提供している IME の受講者も昨年の 14 名から 6 名に減少しており、S1S2 学期同様、受講者の減少が見られる。

表 9 A1A2 専攻日本語教室受講者数（実数） () 内は単位希望者

専攻	初級I	初級II	中級	上級	合計
社会基盤学	21(19)	11(11)			32(30)
都市工学	都市工 2 工学系 5・他 3	都市工 3 工学系 0・他 0			5(3) 5(4) 3(2) 5
	2(1) 5(4) 3(2)	3(2) 0(0) 0(0)			
システム 創成系	シ創 2 工学系 1・他 1		シ創 3 工学系 6・他 0		5(1) 7(0) 1(1)
	2(4) 1(0) 1(1)	1(0) 4(0) 1(0)	3(0) 6(0) 0(0)		
IME *			IME 1 工学系 0・他 0	IME 5 工学系 0・他 0	6 0 0

* IME 日本語教室は単位制なし

2.5.4 A1A2 修了者

1) 工学系研究科日本語教室修了者

表10にあるように、2023A1A2の工学系日本語教室全体の修了者は、延べ393名、実数310名、単位取得者は延べ208名、実数182名であった。

表10 研究科別・レベル別修了者 () は単位取得学生数

研究科 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ 合計	実数合計
①工学系研究科	43	31	21	29	27	17	2	170(63)	137(62)
②情報理工学系	12	6	5	10	20	8	4	65(39)	54(36)
③新領域研究科	2	1	3	2	3	5	1	17(10)	13(8)
④全学交換留学生	25	1	5	3	19	8	4	65(56)	48(42)
⑤他研究科	9	4	14	4	19	19	7	76(40)	58(34)
合計①～⑤	91(67)	43(25)	48(15)	48(13)	88(39)	57(36)	18(13)	393(208)	310(182)

実数で見ると、受講者実数（表8.441名）に対する修了者実数の割合は、統計を取り始めてから最高値であった2021A1A2（オンライン授業）の80%には及ばないものの、修了率は70%に達している。また、単位取得率は延べ数（52%→53%）、実数（53%→59%）で、共に2022A1A2より高い数値となった。学生の専攻別の実数で見ると、工学系（43%→45%）、情報理工学系（66%→67%）、新領域研究科（60%→62%）、他研究科（55%→55%）、全学交換留学生（92%→88%）であった。

2) 専攻日本語教室

表11 A1A2 専攻日本語教室修了者(実数) () 内は単位取得者

専攻	初級I	初級II	中級	上級	合計
社会基盤学	19(18)	11(11)			30(29)
都市工学	都市工 2(1) 工学系 5(4)・他 2(2)	都市工 2(2) 工学系 0(0)・他 0(0)			11 (9)
	9(7)	2(2)			
システム 創成系	シス創 3(1) 工学系 1(0)・他 2(1)	シス創 0(0) 工学系 0(0)・他 1(0)	シス創 2(0) 工学系 4(0)・他 0(0)		※10(2)
	6(2)	1(0)	6(0)		
IME※2			IME 1 工学 系 0 他 0	IME 5 工学系 0 他 0	*6

※システム創成系の初級は複数コースの修了者有り。合計は実人数

2023A1A2 専攻日本語教室の修了者数（実数）は、社会基盤学日本語教室（26名→30名）を除き、都市工学日本語教室で24名、システム創成系日本語教室とIME日本語教室でそれぞれ8名の減少が見られた。都市工学日本語教室は2023S1S2同様、中級コースを

不開講としたことも影響していると見られるが、コロナ禍が収束したとみられる現在、学生の活動の範囲が広がり、専門外の対面の授業に通いきれない学生や、学期途中で研究室の定期ミーティングの曜日が変更になるなど、本人の学習意欲とは別に、継続して出席することが困難な学生も増えているのではないだろうか。忙しい学生たちをいかにサポートしていくか、この点は、当教室においても、これまで以上に検討していく必要があると考えている。

2.6 日本語教室のコース評価

日本語教室では、2013 年度冬学期よりコース評価を学期末に実施している。2023 年度 A1A2 学期は、下記のとおり実施した。

2.6.1 2023 年度 A1A2 学期コース評価概要

実施期間 : 2023 年 1 月 4 日～2023 年 1 月 31 日

対象者 : 日本語教室在籍の研究生、修士、博士、研究員、交換留学生、配偶者

回答者 : 計 271 名（初級 102 名・中級⁵102 名・上級 56 名）⁶

実施言語 : 英語・日本語

質問項目 :

1. 回答者身分
2. コースの目標は明確だった
3. 授業のスピードは適切だった
4. 講義内容は分かりやすかった
5. 授業の課題の量はどうかだったか
6. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた
7. 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった
8. 当該コースの内容は自分にとって将来、役に立つと思う
9. 当該コースの予習・復習に毎週どのぐらい時間を使ったか
10. 当該コースに出てできるようになったこと
11. 当該コースについての自由記述（受講生数、テスト、クイズ、課題など印象に残ったこと）
12. 現在のカリキュラムにはないが、どんな新しいコースがあるといいか

回答方法 : 上述の質問 1、5、9 は、それぞれ選択肢を設けた。

10、11、12 は自由記述形式で回答を求めた。それ以外は「1. まったく思わない、2. あま

⁵ 「多文化理解プロジェクト」は中級 3～上級 1 を対象としているが、2023A1A2 学期において上級 1 レベルの受講生が多かったため、コース評価では上級としてカウントした。

⁶ そのほか、ビジターセッションから 11 名の回答があった。

り思わない、3. と思う、4. 強く思う」の4件法で回答を求めた。

2.6.2 結果の概要

以下では、(1) 授業と教師に対する評価、(2) 受講生の学び、(3) 受講生のニーズ、の三つについて、全体の傾向と初級・中級・上級別の傾向に着目して結果を報告する。

(1) 授業と教師に対する評価

まず、四件法で回答を求めた質問2～6（5を除く）の結果について述べる。前述したとおり、1は「まったく思わない」、4は「強く思う」であるため、表12から全レベルにおいて受講生が高い評価をしていることがわかる。特に質問6の平均値が高く、本教室の教員が熱意を持って授業に臨んでいると受講生に高く評価されている。各レベルを比較すると、僅差ではあるが、初級はコース目標の明確さ、中級は担当教員の熱意、上級は講義内容のわかりやすさの評価が高い。

表12 授業や教師に対する評価のレベル別の平均値

質問 レベル	質問2 コースの目標は 明確だった	質問3 授業のスピード は適切だった	質問4 講義内容は分か りやすかった	質問6 担当教員は熱意 を持って授業を 行っていた	四項目 の平均
初級	3.67	3.41	3.46	3.75	3.57
中級	3.65	3.52	3.58	3.78	3.63
上級	3.64	3.55	3.68	3.75	3.66
平均	3.65	3.48	3.55	3.77	3.61

次に、質問5「授業の課題の量はどうだったか」の結果について述べる。図7のように、「多すぎる」という意見が比較的多いのは初級だが、9.80%にとどまっている。初級では、受講生が日本語学習の基礎をきちんと築けるよう、語彙クイズ・漢字クイズ・聴解クイズ・作文課題を設けている。総じて、どのレベルも「適切である」という意見がほとんどであるため、多忙な工学系の学生に過度な負担を与えない程度で、学習をサポートできる適切な量になっていると考えられる。

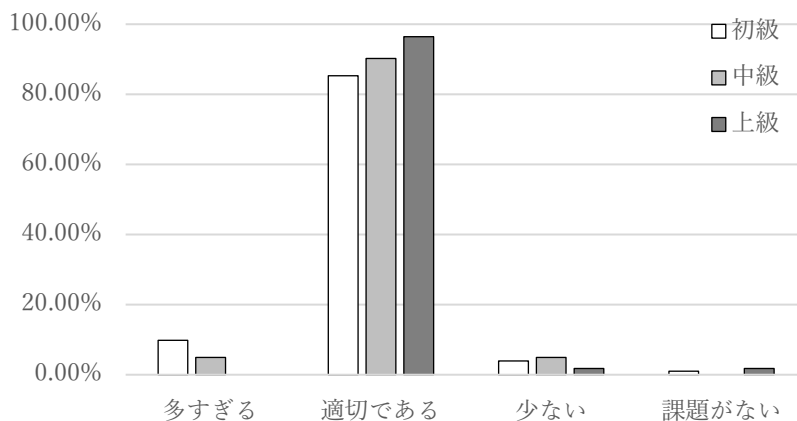


図7 課題の量に対する回答

最後に、質問9「当該コースの予習・復習に毎週どのぐらい時間を使ったか」の結果について述べる。図8のように、どのレベルにおいても「1～2時間」という回答が最多である。一方で、中級・上級と比べ、初級では「3～5時間」(13.73%)ないし「5時間以上」(4.90%)という回答の割合が高い。これは、前述したように、予習として語彙クイズ、復習として漢字クイズや聴解クイズを設けていることが関係している。特に、初級の中でも初心者向けの初級1・インテンシブI・入門の三コースでは、ひらがなとカタカナの読み書きを学習する必要がある。そのため、初級の受講生は中級・上級よりも長い時間を予習・復習にかけていると考えられる。

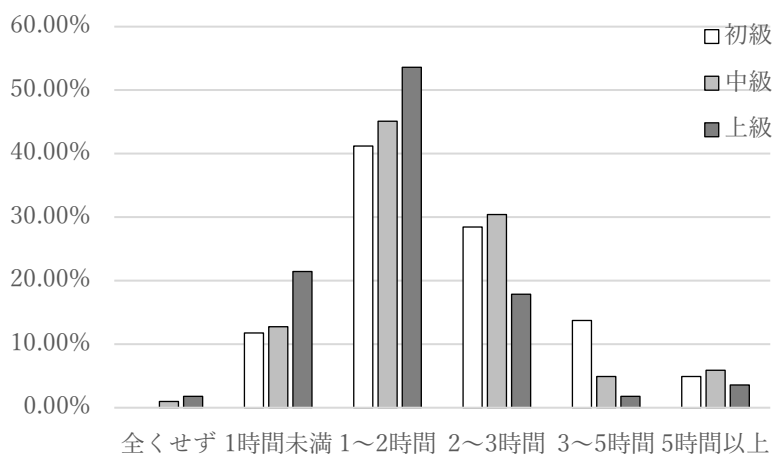


図8 予習・復習の時間に対する回答

(2) 受講生の学び

まず、四件法で回答を求めた質問7と8の結果について述べる。表13のように、どのレ

ベルにおいても平均値が高く、受講生は日本語に対する学習意欲が高まったと感じており、将来に役立つと思っているようである。特に上級の平均値が高く、日本語教室での受講が終わった後も、受講生たちの今後の発展が期待されるようなデータだと言える。

表 13 授業や教師に対する評価のレベル別の平均値

質問 レベル	質問 7 当該コースの授業を受けて 学習意欲が高まった	質問 8 当該コースの内容は 自分にとって将来、 役に立つと思う	二項目 の平均
初級	3.44	3.49	3.47
中級	3.43	3.49	3.46
上級	3.55	3.63	3.59
平均	3.46	3.52	3.49

続いて、質問 10「このコースに出て、どんなことができるようになりましたか」の結果について述べる。以下ではレベルごとに、自由記述の回答を一部提示する（原文ママ）。

【初級】

- How to survive in japan, how to have a basic comprehension.
- Thanks to this course I learnt the basics of Japanese and now I can speak a bit with the local :))
- Before attending this class, I could not write in Japanese at all. Now I can write using hiragana, katakana, and basic kanjis. Of course, I learned many vocabulary, grammar structures, and phrases. The speaking practice was very useful too.
- I learned how to describe simple situations in Japanese, so I think I will be able to use Japanese every day. I can now also understand basic daily conversations, so I think it is a great start to becoming proficient in Japanese.
- I learned about the different verb forms - passive, causative, imperative, honorific, and humble. I learned how to speak more in Japanese. I studied with my friend and learned ways to remember so much information by practicing speaking and quizzing each other.

上記のように、初級の受講生は仮名、簡単な漢字、基本的な語彙や文法などの日本語に関する基礎的な知識を得ている。このような知識を活かして日本での「サバイバル」や、他人との交流が少しできるようになったとの声が多かった。また、日本語学習の基礎を築き、これからも学習を続けていきたいという声や、友達と会話練習をしたりクイズを出し合ったりすることで、多くの新情報を記憶する方法を学習できたという声もあった。

【中級】

- Writing scientific texts and formal e-mails.
- It help me to have the conversation in clinic with Japanese. That's really helpful for me!
- Listening to Japanese on a regular basis. Distinguish sounds better. Listen to faster recordings.
- It's been a while since I last read a book. I learned that it can be fun to log my thoughts on a book and explain it to my peers. Maybe I'll join a book club at some point.
- この授業を通して、私の日本語の理解力は明らかに向上しました。会話レベルやヒアリング能力など、私の生活にとっても役に立ちました。

上記のように、中級の受講生は総合科目で、日本語力が全体的に大きく向上したと実感する者が多い。また、中級からはスキル別の科目もあるため、「聞く・話す・読む・書く」という四技能を中心として、特定の言語領域における進歩に関する回答も多かった。例えば、自然なスピードの発話を理解できるようになったり、病院での意思疎通ができるようになったり、読む習慣を取り戻して自分の感想を仲間と共有するのを楽しめるようになったり、科学的な文章やフォーマルなEメールを書けるようになったりなどの具体例が挙げられている。

【上級】

- I learned more about the communication method under Japanese culture and some useful information related to employment in Japan.
- I have expanded my vocabulary and kanji. I have gained exposure to societally relevant topics which has been particularly valuable. I am better able to understand news and engage in conversations around these kind of topics (current affairs, careers, politics, social studies etc.) This was a gap in my Japanese I was keen to fill, but which intermediate classes didn't really address (focusing more on grammar etc.)
- 業務的や学術的な文章が書けるようになりました。
- もう少し他文化の相手の立場で考えるようになった。
- 就職準備のため自己PRとガクチカができました。○○（注：先生の名前）のコメントや一对一の添削ですごく助かりました！日本で就職の流れや面接礼儀、グループディスカッションなども練習できますので、就職活動に役に立つと思います！

上記のように、上級は中級と同様に、日本語力の全体的な向上や、スキル別の能力の更なる進歩を実感する者が多い。特に、初級・中級の時にあまりできなかった、文化や社会的な事象などのような抽象的な話題について理解したり表現したりできるようになったことに満足しているようである。さらに、上級では「多文化理解プロジェクト」⁷や「日本組

⁷ 前述したように、「多文化理解プロジェクト」は中級3も対象となっているが、2023A1A2 学期は上級1

織事情」⁸などの科目もあり、文化背景の異なる相手の立場に立って考えることや、就職活動に役立つ実践的な知識を得たと回答した受講生も多い。

(3) 受講生のニーズ

質問 12「現在のカリキュラムにはないが、どんな新しいコースがあるといいか」の結果について述べる。以下ではレベルごとに、自由記述の回答を一部提示する（原文ママ）。

【初級】

- Intensive intermediate.
- Beginner II speaking/conversation.
- Speaking courses with people around the same age.
- I want to take a course for speaking with everyday people. That is most important to learn to survive living in Japan.
- もっと色々な会話の練習をしたいです。

「特になし」という回答が多い一方、上記のように、初級では会話コースを求める声が寄せられた。現在、初級レベルのコースは「入門」「初級 1～4」「インテンシブ I～II」があるが、いずれも総合系科目である。授業では基本的な文法や語彙を学習してからそれを使って会話練習をするほか、中間発表や期末発表も行っている。(2)で述べたように、日本語で簡単な会話ができるようになったとの声が多かった。一方で、コミュニケーション意欲の高い受講生は、初級の段階から会話に特化したコースを求めているようである。

【中級】

- I was thinking of taking the kanji course next semester.
- I would like to see "Kanji for non-Asian people" ;)
- 漢字のクラスがあったら取りたいです。
- 就職を助かる授業が欲しいと思います。
- 古典日本語（漢文とか、候文とか）の読み方

上記のように、中級では漢字コース、もしくは非漢字圏の学習者のための漢字コースを求める声が寄せられた。現在、「中級 2 専門語彙・漢字」というコースがあるが、中級 1 や中級 3 レベルでも漢字コースのニーズがある。また、少数ではあるが、就職活動や古典日本語に関するコースも求められているようである。就職活動については前述したように、「上級 日本組織事情」が開講されている。なお、2024S1S2 学期に中級 3 を対象とした「キャリアブリッジ」と上級 1-2 を対象とした「キャリアデザイン」の開講が予定されている。

の受講生が多かったことから、ここでは便宜上、上級として述べる。

⁸ 2024S1S2 学期から、当該科目は「キャリアブリッジ」と「キャリアデザイン」の二つに再編された。

【上級】

- More Japanese courses with excursions.
- I would like to register for advanced oral classes.
- 現状に満足している。
- 日本語 **native speaker** と対話コース。
- 日本人あるいは **native speakers** と会話コース。

無記入や「特になし」という回答が圧倒的に多い一方、上記のように、上級では会話クラス、特に日本語母語話者と話せるようなコースを挙げる受講生もいた。上級では会話コースがすでに開設されているが、日本語力が上達してきたためか、教員あるいは留学生同士だけでなく母語話者を相手に実践したいようである。この点に関しては、4.2にあるように、当教室では、共に国際教育部門に属するグローバル教育との共催で学期中の金曜日に **International Lounge (IL)** を開催している。日本語・英語を用いて、日本人学生とも広く交流することが可能である。今後はより多くの受講生に IL を利用してもらいたいと考える。

2.6.3 まとめ

本節では 2023 年度 A1A2 学期に実施したコース評価アンケートの結果から、(1) 授業と教師に対する評価、(2) 受講生の学び、(3) 受講生のニーズ、の三点について述べた。

(1)に関しては、JLCSE が提供しているコースと授業を担当する教員が、全レベルの受講生に高く評価されている。課題の量も日本語を主専攻としない多忙な工学系の学生に適している。初級において予習・復習にかける時間が比較的多いことは、ひらがなとカタカナを含む日本語の基礎を築く段階に必要なものとも思われるが、受講生をサポートする方法を今後も引き続き検討していきたい。

(2)に関しては、全レベル（特に上級）において受講生は日本語に対する学習意欲が高まったと感じており、将来に役立つと思っている。初級の受講生は日本語に関する基礎的な知識の習得と日常生活への良い影響など、中級の受講生は日本語力の全体的な向上とスキル別の進歩など、上級の受講生は中級のそれに加えて抽象的な話題に関する理解や表現の能力などを自身の学びとして挙げている。

(3)に関しては、多くの受講生は JLCSE が現在提供しているコースに満足している。同時に、初級では会話コースなどを、中級では漢字コースなどを、上級では日本語母語話者との会話コースなどを求める声も寄せられた。今後は工学系研究科に属する日本語教室という性質を踏まえたうえで、こうしたコース開設の可能性を検討していきたいと考える。

2.7 言語使用実態調査

工学系日本語教室では、留学生の研究室等における言語使用の実態を把握し、日本語がどのような状況で必要とされているのかを把握するために、毎年、オンラインによる質問紙調査を実施している。2023 年度 A1A2 学期に行った調査の概要は以下の通りである。

2.7.1 2023 年度 A1A2 言語使用実態調査概要

- 実施期間 : 2023 年 12 月～2024 年 1 月
対象者 : 日本語教室在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者
回答者 : 計 171 名
実施言語 : 日本語／英語
主な質問項目 : 1. 母語
2. 日本滞在予定期間
3. 修了後の進路
4. 日本語学習歴
5. 日本語を学習する理由
6. 研究室での使用言語
7. 指導教員から求められる日本語能力
8. 留学生自身が目指す日本語能力
9. 日常生活で日本語ができなくて困ること

2.7.2 結果の概要

(1) 母語

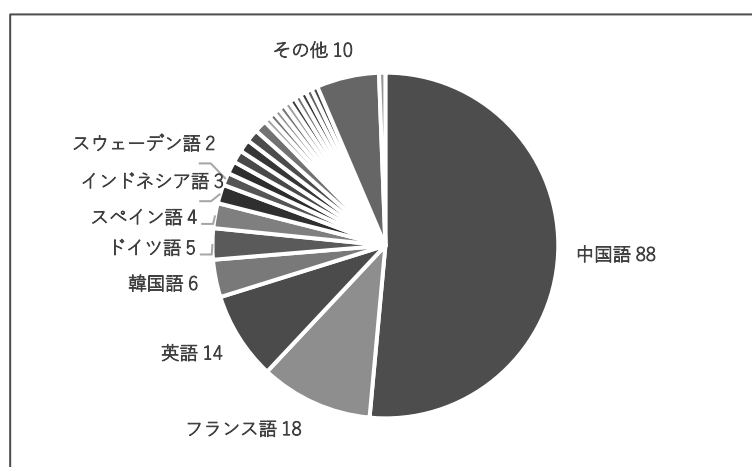


図9 回答者の母語別の割合

回答者の母語について尋ねた結果を図9に示す。中国語母語話者が88名(51%)と最も多く、近年の中国語母語話者が半数近くを占めている状況は継続している。その他の母語では、フランス語が2番目に多いほか、英語、韓国語、ドイツ語が続き、その他スペイン語、インドネシア語、スウ

エーデン語など計23か国語と多岐に渡っている。また、その他には複数の言語を母語とする学生も含まれている。

(2) 日本滞在予定期間

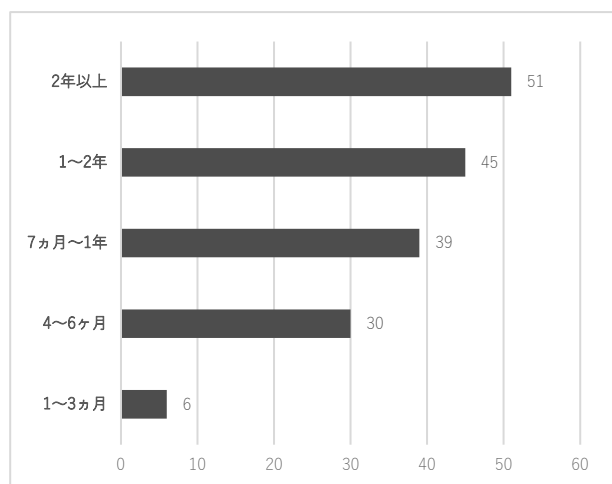


図 10 日本滞在予定期間

日本での滞在予定期間についての回答のグラフを図 10 に示す。期間は 2 年以上が最も多く 51 名 (29%)、1～2 年が 45 名 (26%) となっており、年単位で滞在する予定の学生が半数以上を占めていることが分かる。大学院で学位を取得することを目指す学生や、日本での就職を考える学生がここに含まれていると考えられる。また、4～6 か月、7 か月～1 年といった滞在期間が 1 年未満である学生も合わせて 69 名 (39%) となっており、

交換留学などにより、一定期間に限り日本に留学する学生も多い。

(3) 修了後の進路

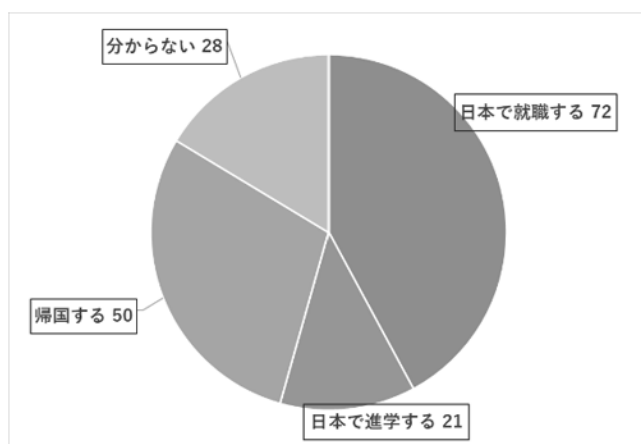


図 11 修了後の進路

図 11 は修了後の進路について尋ねた結果である。「日本で就職する」72 名 (42%) と「日本で進学する」21 名 (12%) を合わせると、約半数の留学生が日本に長期的に滞在し、日本での活躍の場を求めていることがうかがえる。特に「日本で就職する」と回答する学生数は、2019 年度以降増加しており、今年度もその傾向が続いている。

一方で、「帰国する」学生が 50 名 (29%)、「分からない」という回答も 28 名 (16%) を占めていた。「分からない」と回答した学生のように、まだ進路が明確でない学生に対しても、日本での留学からさらに進学や就職といったその先へと繋いでいく支援体制を継続していく必要があると考えられる。東京大学工学系研究科は、全体の方針として「キャンパスの国際化推進と海外からの研究者・留学生の環境整備」を掲げており、このような試みは引き続き重点的に取り組むことが重要だと思われる。現在、工学系日本語教室では就職支援を目的とした科目（第 2 章 2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告「上級日本組織事情」参照）を設置しており、今後も学習者のキャリア支援を進めていくことが望ましいと言えよう。

(4) 日本語学習歴

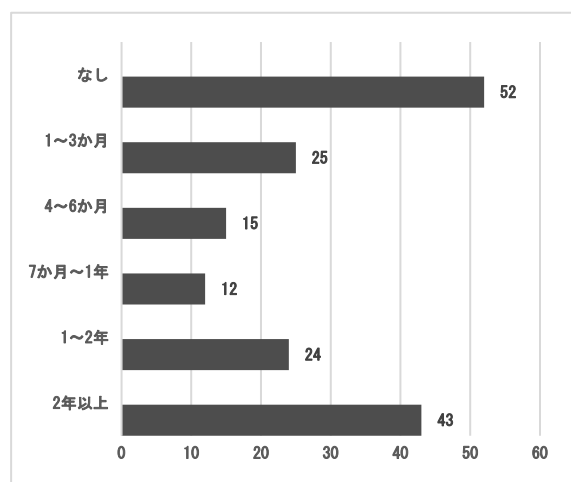


図 12 日本語学習歴

母国での日本語学習歴についての回答を図 12 に示す。

学習歴については 1 年以上という回答が約 4 割を占めている（「1~2 年」24 名（14%）、「2 年以上」43 名（25%））。これに「1~3 か月」「4~6 か月」「7 か月~1 年」を含めると、全体の 7 割程度が期間は異なるものの、何らかの形で日本語を学習した後に来日している学生である。一方、学習歴が「なし」と回答した学生も 52 名（30%）と多い。今後も引き続き、このような多様な学習歴を十分に把

握するとともに、留学生個々人の異なる学習経験を踏まえた上で、来日後もスムーズに日本語学習を開始し、日本語能力の向上が図れるよう、きめ細かな日本語コースの展開と学習支援が必要となっていくだろう。

(5) 日本語を学習する理由

留学生に「日本語を学習する理由」（複数回答）について尋ねた結果を図 13 に示す。

回答数が最も多かったのが「日常生活に必要なため」（130 名）で、2 番目に多かったのが「友達を作るため」（101 名）であった。続いて「日本で就職するため」（88 名）、「日本のサブカルチャー（アニメ、ゲームなど）に興味があるため」（84 名）、「日本の伝統文化（茶道、華道、書道など）に興味があるため」（73 名）の順に多かった。

日常生活で直面する様々な場面において、十分に対応可能な日本語スキルに対する需要が最も高いことが分かる。この点については後述する「日本語ができなくて困ること」に関する自由記述においても、同様の回答が数多くあることから、留学生が日本語を習得する必要性を強く感じていると考えられる。また、日本語を学習する動機付けとして、友達を作るなど人間関係の構築や日本での就職に加え、日本のアニメやゲームなどのサブカルチャーや、日本の伝統的な文化についても高い関心を持っていることがうかがえる。

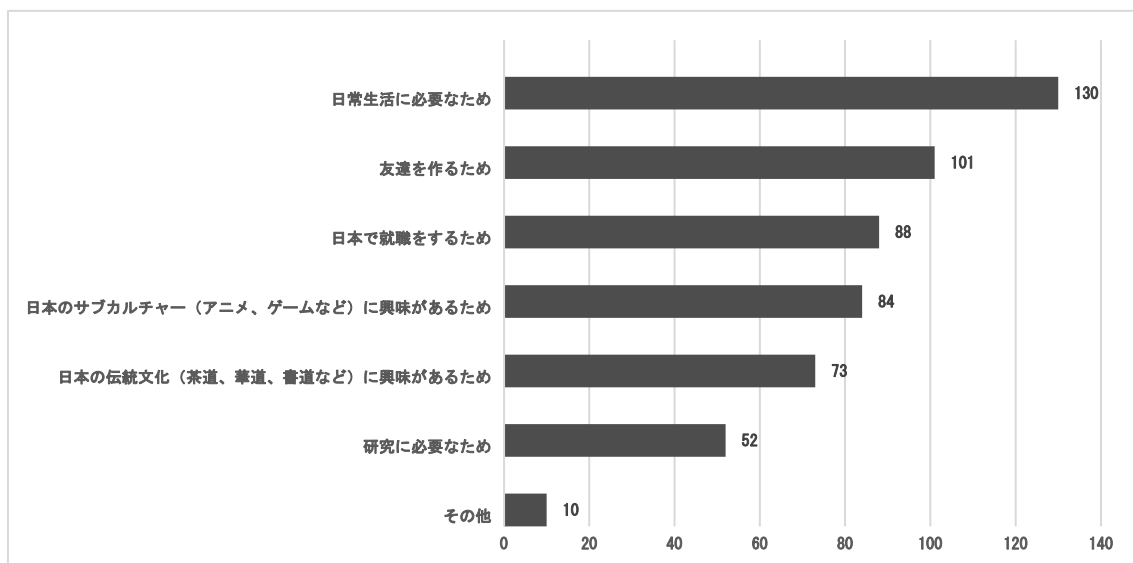


図 13 日本語を学習する理由（複数回答）

（6）研究室での使用言語

【使用言語と内容および話す相手の関係】

研究室内でのコミュニケーションにおける使用言語について調査を行った。研究室での使用言語のうち、内容を「研究に関する会話」と「雑談」の二通り、話す相手を「指導教員」、「日本人学生」、「留学生同士」の三通りに分け、計 6 パターンの会話場面において、日本語および英語の使用状況を比較した。

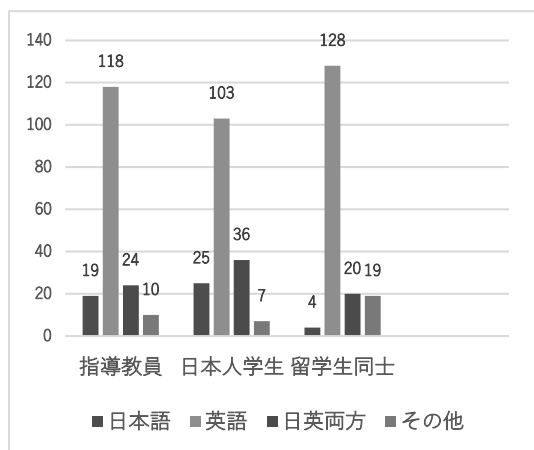


図 14 研究に関する会話

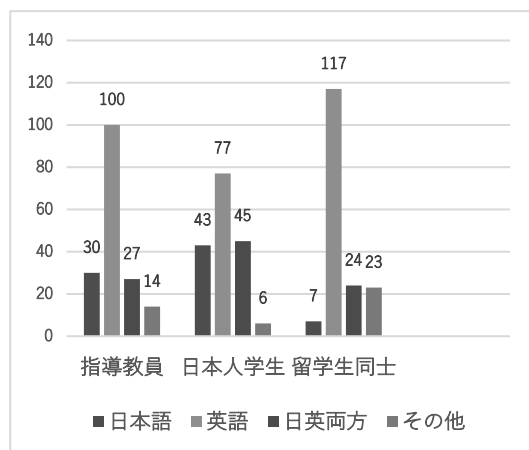


図 15 雑談

図 14 に示すように、「研究」に関する会話では英語の使用率が総じて高い結果となり、話す相手に関わらず同様の結果が見られた（「指導教員」118 名（69%）、「日本人学生」103 名（60%）、「留学生同士」128 名（75%））。研究に関してコミュニケーションを取る際には、主に英語を使用する場面が非常に多いことが分かる。

一方、図 15 から分かるように、「雑談」においては、特に相手が「日本人学生」の場合、

日本語の使用率が上がり、43 名（25%）という結果であった。ここに日英両方 45 名（26%）と合わせて見てみると、日本人学生との場面では約 5 割以上の状況において日本語で、または日本語と英語を併用しながら会話をしていることが分かる。

相手が「指導教員」の場合においても、図 14 の「研究に関する会話」と比較すると 30 名（17%）と上昇し、雑談においては日本語を交えて話す場面が増加していることが分かった。一方で「留学生同士」では雑談における日本語の使用率は上がらず、7 名（4%）にとどまった。

以上のことから、留学生の言語使用は、雑談時には日本語の割合が高くなる傾向があり、特に日本人学生が相手の場合には、際立って高くなることが分かった。研究室において日本人学生とスムーズにコミュニケーションができれば、研究生活や留学生生活を円滑に進めていくことが可能となる。研究室で日々繰り広げられる雑談を含むやり取りや会話において、十分に対応できる日本語力を身につけることも重要であり、日本語教室の授業においてもこのようなニーズを踏まえて会話スキルの向上をサポートしていく必要がある。

【研究に必要な言語使用の状況】

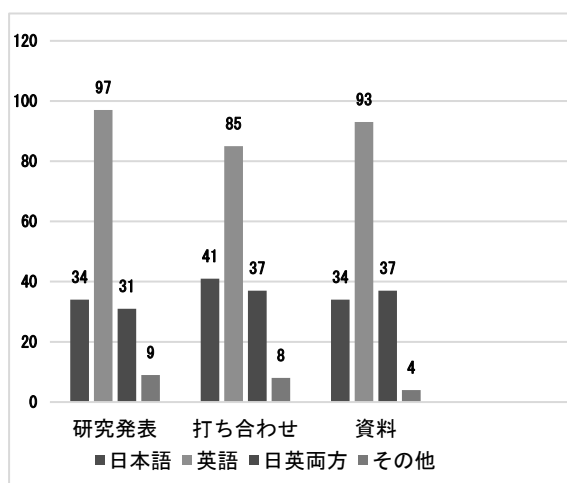


図 16 研究に必要な言語使用の状況

研究発表、打ち合わせ（ラボミーティング）、研究に関する資料の 3 パターンについて、言語使用状況を調査した（図 16）。

上記 3 パターンのどの場面においても、英語が使用率 50～58%の割合で多く使用されていることが分かった。日本語について見てみると、打ち合わせにおいては使用率がやや高く、41 名（24%）であった。ここで、言語の使用を日本語と日英両方を合わせて見た場合、それぞれ打ち合わせ（46%）、資料（43%）、研究発表（38%）の割合で日本語または日英両方を使用していることが分かる。

研究に従事する上では、英語の使用率が圧倒的に高いという状況の中、打ち合わせを中心に日本語の使用場面も多く存在しているということが言えよう。

(7) 求められる日本語能力・目指す日本語能力

指導教員から求められる日本語能力と、留学生が目指す日本語能力について、図 17 と図 18 に示す。

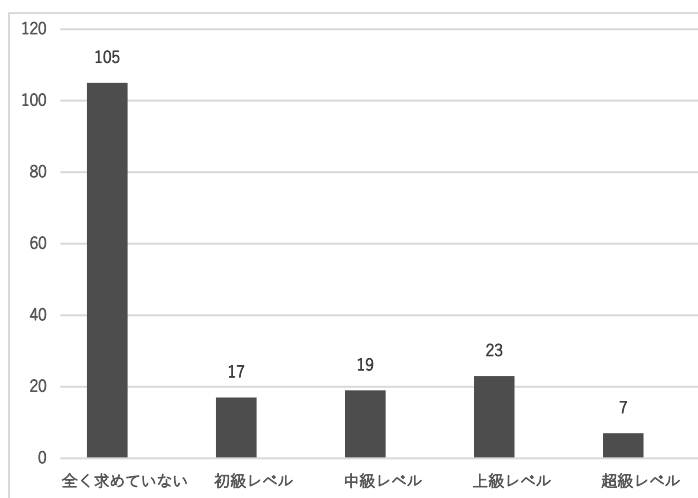


図 17 指導教員から求められる日本語

まず、求められる日本語能力について述べる。図 17 のグラフからも分かるように、指導教員から求められる日本語能力は初級から上級まで様々であるが、「全く求めていない」という回答の割合が 105 名 (61%) と最も高い。続いて「上級レベル」(23 名、13%)、「中級レベル」(19 名、11%) であった。

上記 (6) 研究室での使用言語の結果も示しているように、研究を遂行する上では英語の使用率が高いことから、「全く求めていない」という回答が多くなっていると考えられる。一方で、割合としては高くないが上級レベル以上を求める例も含まれており、研究活動においても高い日本語レベルを求められる場合があることが分かる。

次に、留学生が目指す日本語能力について図 18 に示す。

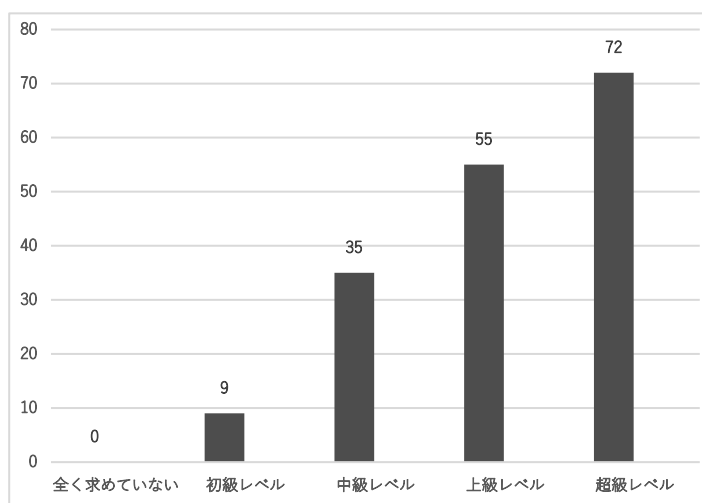


図 18 留学生が目指す日本語

「あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか」という質問に対する回答を見ると、超級レベルが 72 名 (42%)、上級レベルが 55 名 (32%) となり、全体の 7 割以上の学生が上級レベル以上の日本語能力を目指していることが明らかになった。また、中級レベルという回答も 35 名 (20%) と多い。

この二つのグラフの結果をまとめると、研究生活においては日本語がそれほど求められていない状況であったとしても、日本に留学している学生はより高度なレベルの日本語を習得したいと望んでいることが分かる。

続いて「具体的にどんな日本語を身につけたいか」という質問において、自由記述による回答を見ると、最も多いのが日常会話や自然な会話のスキルといった、会話に関する記述となっており、特に友人たちとカジュアルで自然な会話をしたいという希望が非常に多かった。

また、「ラボのメンバーと会話ができる」、「ゼミの後に研究室の仲間と気軽に日本語で話したい」という回答例に表れているように、研究室においても気軽に、雑談として日本人学生とコミュニケーションしたいという記述が目立った。さらには、ネイティブレベルやビジネス、アカデミックといったキーワードを中心に、研究生活では発表を行う、発表を理解する、ビジネス場面でも仕事をこなせるような高度な日本語を目指す回答も多く見られた。

このように留学生たちが日本語学習への高い意欲や到達目標を持っていることが分かる。日本語教室においては、今後も引き続き初級レベルから中級・上級レベルでの多様で充実したコース内容を展開し、より多くの学習機会を提供していく必要があると考えられる。

(8) 大学および大学以外の日常生活で日本語ができなくて困ること

「日常生活において日本語ができなくて困ること」についての質問に対しても多くの自由回答が得られた。この記述からどのような場面で困難を感じているかが見えてくる。

8-1. 大学内での場面

研究室における日本語のコミュニケーションやラボミーティングを挙げる回答が多かった。さらに講義やゼミにおいても日本語が使用されているため、理解するのが難しいという回答も複数あった。また、学内スポーツセンターへの入会や食堂、大学内の掲示に難しさを感じるという回答があった。

8-2. 大学以外の場面

大学以外での困難な場面は多岐に渡っている。特に銀行や行政手続き、日常的な買い物やレストランでの注文時に難しさを感じるという回答が多かった。他に賃貸契約や運転免許の取得、地方への旅行などの場면을挙げる回答があった。さらに、日本人の友達を作る、日本で就職活動をするといった場面や、様々な問い合わせ時に電話で対応する場면을挙げる回答も複数見られた。

以上の回答結果から、留学生は日常生活の多種多様な場面において大小様々な困難を感じており、またそれを克服したいと望んでいることが分かる。これらの状況を踏まえ、日本での生活をできる限り円滑に送ることができ、豊かでより充実した留学・研究生活となるよう支援していくことが求められている。

(9) まとめ

今年度の言語使用実態調査からは、以下の傾向が見られた。

1. 留学生の母語は中国語の比率が最も高いが、計 23 か国語と多岐に渡っている。
2. 日本での滞在予定期間は 2 年以上が最も多く、その後も年単位で滞在予定の留学生が多い。
3. 留学生の約半数が日本での進学や就職を目指している。

4. 日本語を学習する理由として日常生活に必要なためとの回答が最も多い。他にも友達作りや日本での就職、日本文化への関心などの回答も多くなっている。
5. 7割程度の留学生は来日前に日本語を学習しており、その半数は1年以上の既習歴がある。
6. 研究室での言語環境は、英語が優勢であるものの、雑談や打ち合わせ時には日本語の使用割合が高くなる。
7. 指導教員から求められる日本語能力に比べ、留学生の目指す日本語能力のレベルは非常に高く、日本語学習の動機や到達目標への意識、日本語の習得意欲が高い。

上記の結果に基づいて、今後も引き続き留学生の来日前の学習歴を把握した上で、ニーズに合った多様な日本語コースを提供していく必要がある。また、日本語コースの内容に関しても、留学生が学内・学外において困難を感じている場面を極力減らし、研究室や日常生活において、習得した日本語をもとに、周囲の人々と円滑なコミュニケーションを行える、という目標を軸に、今後も十分に検討・改善していくことが重要である。さらには日本での進学や就職といった、さらにその先のキャリア設計を見据えた支援体制も求められていると言えるだろう。

第3章 日本文化事情・文化体験

3.1 S1S2 日本文化体験

(1) 書道ワークショップ（6月7日）

東京大学書道研究会の東大生、石原由貴さんの指導のもと、書道ワークショップを開催した。

書道に必要とされる基本技法8種類が全て含まれるという「永」の文字の練習から始まり、最後は好きな漢字を書いて楽しく記念撮影を行った。

やや緊張した面持ちの書道初体験の学生や、久しぶりに筆を持ったという中国や台湾の学生も、皆さん楽しく書道の世界を体験したひとときだった。



(2) 浴衣ワークショップ（6月21日）

シニアボランティアの方々に浴衣の着方を教えて頂くワークショップを実施した。

最近では気軽な価格で購入できる浴衣も増えて、既に浴衣を持っている学生、これから買いたいという学生も増えてきたのは嬉しい。

帯の締め方に悪戦苦闘しながらも一生懸命に着方を覚えようと頑張る学生達で、賑やかなワークショップになった。



(3) 七夕 (7月)

七夕の笹に、学生達が日本語、英語、中国語などで、短冊に思いのお願いをしたためた。

「博士論文がはやく終わらせられますように (原文ママ)」 「試験に合格しますように」といった学業に関することから、「家族が健康に暮らせますように」といった定番のお願い事や「平和な世界になりますように」という壮大な願いまで、いろいろな思いがこめられた賑やかな笹になった。皆さんの願いが叶いますように。



3.2 A1A2 日本文化体験

(1) 茶道体験 (11月8日)

東大茶道部に所属しており、また表千家のお免状も有している東大生、菊池愛美さんに指導をいただいた。

“MACCHA”として今では海外でも人気の高い抹茶を実際に自分で点てて頂くという体験に少々戸惑いながらも、目を輝かせてお茶の世界を楽しんでいた。



(2) 着物体験 (11月29日)

浴衣ワークショップ同様、着物体験もシニアボランティアの皆さまの協力を得て、実施した。

着付けが終わると嬉しそうに写真撮影を行った。

日本人が着物を着る機会が減ってきている一方で、留学生たちは着物についての関心が高く、今後も着物を通して日本文化に親しんでもらいたい。





(3) 折り紙ワークショップ (12月6日)

今年度より初めての試みで、折り紙ワークショップを開催した。

指導を担当したのは、折り紙の世界で活躍している野城ゆうこ氏である。

折り図を見ながら、猫、犬、カエルなどの比較的簡単な作品から、折鶴、兜といった難しい作品まで、学生達は自分のペースで次々と作品を完成していった。

そして飛距離を競う紙飛行機大会でフィナーレを飾った。全員、子ども心に返って楽しそうに紙飛行機を飛ばしていた。



(4) 書道ワークショップ (12 月 18 日)

A1A2 も書道研究会の石原由貴さんの指導のもと、書道ワークショップを開催した。

今回は 12 月の開催のため年賀状を持参してもらって各々好きな漢字を書き、母国の家族や友達に送ることができるようにした。

学生達は年賀状という文化にも興味を持ったようで、師走らしい楽しいひとときとなった。



(5) お汁粉体験 (1 月 10 日)

日本語教室内では 3 年ぶりに、お汁粉を作って学生に振舞うことができた。お正月にお供えた鏡餅を皆で頂く行事「鏡開き」を学生たちに紹介し、日本の文化を実際に感じてもらえる良い機会となっている。「甘すぎる」と言いながらもお代わりをする留学生もいた。例年は 5 日間ほど開催していたが、今回は 1 日限定「お汁粉デー」としての開催となった。



第4章 国際交流支援

国際交流支援は、当日本語教室（JLCSE⁹）が掲げる五つの大きな目標の一つである（1.1章参照）。東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門に属する当教室は、グローバル化が進む国際社会で活躍できる人材の育成にも重きを置き、総合的な教育・文化・国際交流活動の場の提供を目指している。

本章では、キャンパス内国際交流の活動である「学生授業ボランティア」、学生と日本人学生の交流の場となる多言語交流会（International Lounge（IL））、修士・博士の学生が留学生の日本語をサポートする「ラーニングアドバイスセッション」について紹介する。

4.1 学生授業ボランティア

「学生授業ボランティア」は、2012年度冬学期から始まり、今年度で11年目を迎える。この活動は、日本語教室の全コースのうち、教員から希望があったクラスに日本人学生がボランティアとして参加し、教員と協働して、留学生の日本語学習を支援することを目標としている。しかし、一方通行の学習支援ではなく、授業ボランティアである日本人学生にとっても、母語を再発見し、日本語を見つめ直していく機会になり得る。日本という、自国の文化とは異なる文化の中で生活する留学生との交流は、留学生、日本人学生の双方にとって、広い意味での多文化理解、キャンパス内国際交流につながると考えている。

4.1.1 募集方法

学生授業ボランティアの募集方法は二つある。一つ目は学内の体験活動推進チームの「体験活動プログラム」を通じての募集である。これは、4月に募集を開始し、書類審査を経た学生がA1A2からボランティア活動に参加するものである。二つ目は、日本語教室からの募集に直接応募するというもので、学生は学内のポスター掲示、ウェブサイト、ポータルサイト等を見て活動に応募する。このボランティア活動はS1S2、A1A2のいずれか、または通年での参加が可能である。

日本語教室に直接応募する場合は、書類審査はないが、授業ボランティア参加に先立ち、説明会への参加を依頼している。この説明会の趣旨は、研究活動などで忙しい工学系の日本語学習者を支えるという当日本語教室の特徴、目標などを理解してもらうことである。また、留学生だけでなく、ボランティア参加学生にとっても有益な学びの場であってほしいということを伝えている。

⁹ Japanese Language Class School of Engineering The University of Tokyo.

4.1.2 活動内容

学生、教員の具体的な活動をまとめると次のようになる。ボランティア活動に応募し、ボランティアとして特定のコースに参加することが決まった学生は、コース担当教員に挨拶も兼ねてメールで連絡をとる。教員は当該コースで求められる役割を学生に説明する（例、会話練習、ペアワーク、ディスカッション、学生からの質問に答える、モデルリーディングなど）。授業後、ボランティア学生は授業後に日本語教室のオフィスに立ち寄り、その日の所感を簡単に報告書に記載する。

なお、授業ボランティアは通常、学期を通して参加するが、教員が希望すれば、単発での参加も可である。その場合は、口頭発表準備のサポート、本番での発表に対するフィードバック、グループディスカッションへの参加が中心となる。

4.1.3 参加学生数の推移

図1は、2013S1S2 から 2023A1A2 までのボランティア参加者数の推移を示したものである。例年 S1S2 に比べて A1A2 のほうが参加者が多いのは、前述の体験活動プログラムの応募者が加わるためである。2023S1S2 は 14 名の直接応募があり、最終的に調整がつかなかった 2 名を除く 12 名が、2023A1A2 は体験学習から 12 名、体験活動以外から 7 名、計 19 名が授業ボランティアとして授業に参加してくれた。

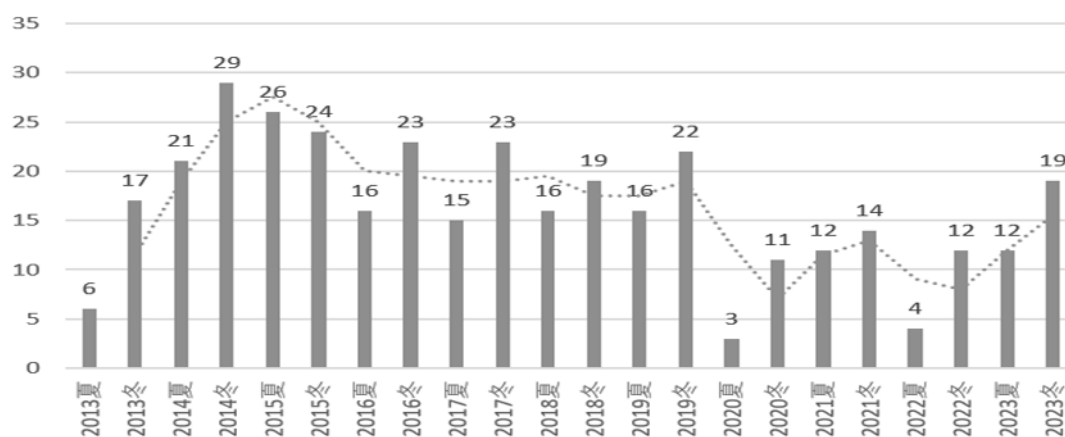


図1 ボランティア学生数の推移 (単位:人)

4.1.4 ボランティア学生の内訳

2023 年度の学生ボランティアの内訳は以下のとおりである。また、図2は「体験活動」参加者を含む A1A2 の授業ボランティアをグラフ化したものである。

	内訳	総数
工学部・工学系研究科		5
社会基盤学科	2	
機械工学	1	
航空宇宙	1	
工学系研究科	1	
他学部・他研究科		7
人文社会系	2	
教養学部	2	
医学部・医学系研究科	2	
理学系研究科	1	

2023S1S2 授業ボランティア

	内訳	総数
体験学習参加者		12
工学部	1	
公共政策	1	
法学部	1	
文学部	2	
教養学部	7	
一般参加者		7
工学系	1	
理学部	1	
医学系研究科	1	
人文社会系	1	
法学研究科	1	
法学部	2	

2023A1A2 授業ボランティア

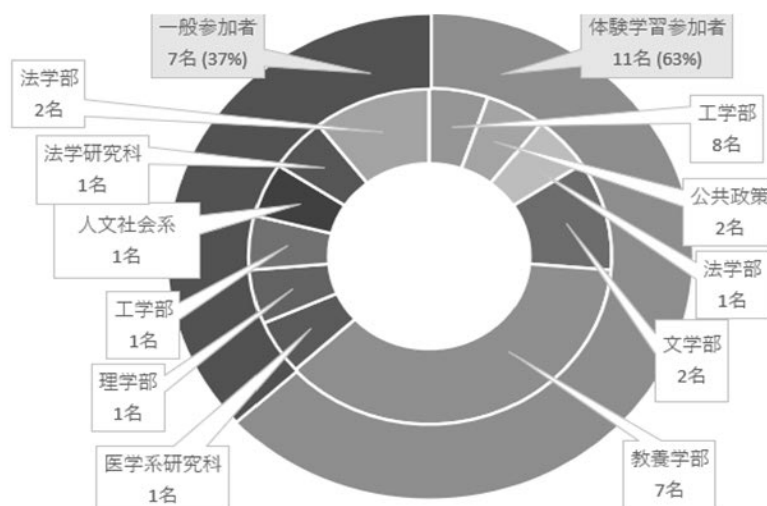


図 2 2023A1A2 ボランティア学生の所属と人数

4.1.5 授業ボランティア参加報告書

ボランティア活動に参加してくれた学生には、2023 年度も引き続き授業参加後に自由な所感を報告書に記入してもらっており、2023S1S2 は 9 名から、A1A2 は 17 名から報告書の提出があった。

報告書には、これまでと同様、大きく分けて、(1) 留学生との言語および文化面での交流、(2) ボランティア活動を通じての学び、母語に関する新たな発見 (3) 留学生との授業内、授業外での交流についての所感などが記載されている。

4.1.6 授業ボランティア参加者アンケート結果

S1S2 および A1A2 学期終了後に活動に関する振り返りアンケートを実施し、S1S2 は 12 名中 9 名、A1A2 は 19 名中 11 名から回答を得た。質問項目は所属、学年、参加コースのほか、計 10 問で、選択式と記述式を合わせたものである。以下、いくつか回答を紹介する。

質問は各グラフの下に記す。グラフは向かって左が 2023S1S2、右が 2023A1A2 のアンケート結果である。

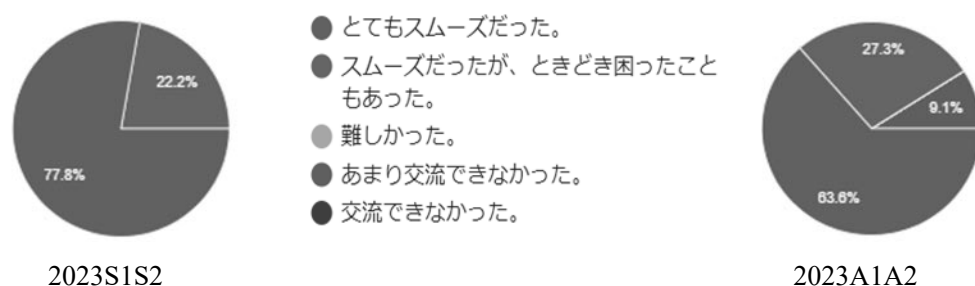


図 3 質問 4) 留学生との交流はスムーズでしたか

「留学生との交流はスムーズでしたか」(図 3) という質問には、「とてもスムーズだった」という回答が S1S2 で約 8 割、A1A2 で 6 割強、という結果で、全体的にスムーズな交流が行われたことが窺える。次に多かった回答は「スムーズだったが、ときどき困ったこともあった」で、S1S2 で 22.2%、A1A2 で 27.3%であった。スムーズだったが困ったこともあった理由(自由回答)としては、各学期 2 名、計 4 名から以下の回答が寄せられた。

- ・留学生の発話が聞き取れなかった。
- ・文法用語がわからず質問内容がわからないことがあった。
- ・やや難しい題材が多かった。大人しい学生に話してもらうのが大変だった。
- ・留学生が話す日本語の意味をうまく理解できないことがあったのと、留学生の日本語に関する質問に対して簡単な日本語で説明するのが難しかったから。

「クラス外で留学生との交流はありましたか」という問いに関しては、S1S2 で 3 名、A1A2 で 5 名が「あった」と回答した。以下に回答内容を記す。

- ・昼ご飯を一緒に食べた (4 名)
- ・雑談、チャットのやり取り、スターバックスでお茶をしつつ会話 (3 名)
- ・研究室でのやりとり
- ・別の授業を一緒に受けていた
- ・御殿下のジムでバスケをした
- ・Zoom で会話の課題を手伝った

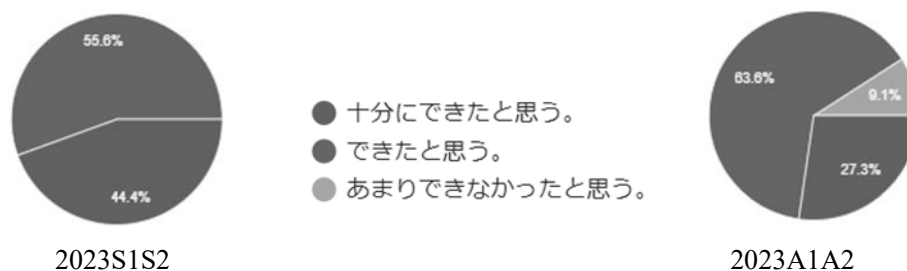


図 4 質問 6) 今回の活動で、留学生へのサポートや国際交流ができたと思いますか

上記の回答から、一緒にランチをしたり、お茶を飲みながら話したり、チャットを使って会話をしたり、スポーツを一緒に楽しんだりする姿が伝わってくる。また、研究室や他の授業での交流、課題の手伝いなどを通じた交流があったこともわかる。

「今回の活動で、留学生へのサポートや国際交流ができたと思いますか」（図4）という質問への回答を見ると、授業ボランティア活動参加者は全体として自身の役割を果たせたと感じていることがわかる。

最後の質問は、「今回のボランティア活動を通して、「学びや発見」がありましたか。感じたことを自由にお書きください」であった。アンケート回答者全員から回答があり、すべて前向きで交流からの学びが書かれていた。紙面の関係ですべてを紹介することはできないが、多文化理解（自国の文化も含めて）、国際交流、自己啓発などに触れているものをいくつか紹介して、本節のまとめとしたい。（原文ママ）

・質問対応を通じて、日本語がなぜ外国人にとって難しいのか、少しわかった気がした。具体的には、日本語特有の言い回し（忖度など）や文中の語句の省略など。学習意欲の高さには刺激を受けた。僕もフランス語と中国語の勉強を時間を見つけて続けていきたい。

・勉強熱心でどんどん日本語を上達させていくクラスメイトたちの姿が印象に残りました。私も語学に取り組んでいるので良い刺激になりました。また、日本語を学ぶ上で躓くポイントや日本語をどのように教えているかなど、参考にできる点が多く、有意義な時間を過ごさせていただきました。

・中国の留学生の方々との交流の機会が多くあり、自分自身の中国語を活用すると共に、それを通じて、中国の社会・文化への理解が深まった。

・東大にもこんなに留学生がいて交流する機会も多いことが知れました。

・意欲の高い留学生と交流して刺激を受けると共に、自分でも日本語に対する新たな発見があって、毎回本当に楽しく参加させていただきました。ありがとうございました！

・留学生たちとの交流を通じて自身の知見も深めることができ、大変有意義だったと感じました。

・昨年度より貢献できて留学生との交流も増えた気がする。

・非ネイティブから見た日本語の難しいところや、色々な国の異なる言語／文化について知ることができた。

・これまで自分が当たり前だと思っていた日本の文化や慣習を留学生の視点を通して相対化することができた。（後略）

・ディスカッションを通して、お互いの国の文化や社会の違いについて知ることができ、興味深かった。

授業ボランティアを通してさまざまな気づきを得てくれた様子が窺えるコメントが多く、また日本人学生ボランティアが留学生から刺激を受ける場面も見えてくる。互いを知り、自

己を振り返り、交流を深めること、それは、まさに、「学生授業ボランティア」活動に参加してもらう意義である。

4.2 多言語交流会 International Lounge

多言語交流会、International Lounge¹⁰ (IL) は、2012 年度より、留学生と日本人学生および教職員との学内での国際交流、多文化理解を目的として、以下にある趣旨のもと、学期中の金曜日の昼休みに開催されている。運営は、国際教育部門に属するグローバル教育と工学系日本語教室それぞれから教員 1 名、事務職員 1 名が出て、計 4 名で行っている。また、実施に際しては、留学生と日本人からなる Language Assistant (LA¹¹) 5 名を加えた 9 名で行っており、2023 年度も継続生を含み、留学生 3 名、日本人学生 2 名を採用した。LA は、さまざまな国籍を背景とする参加者間の会話を繋ぐファシリテーターとしての役割を担っている。

趣旨：1) 留学生、日本人学生、教職員がランチタイムに集まり、リラックスした自由な雰囲気の中で、キャンパス内国際交を行う
2) 背景の異なる他者との相互理解のためのコミュニケーション経験を積む多言語交流の場とする
3) 各々の日常生活と学業生活の充実につながるネットワークやコミュニティ（仲間づくり）を生み出せるような交流を目指す

名称 : International Lounge (IL)
主催 : 工学系研究科国際工学教育推進機構
運営 : 国際教育部門（グローバル教育および工学系日本語教室 JLCSE）
開催日時：週1回 金曜日12:10～13:10
2023S1S2：2022年4月21日～2022年7月14日（全10回）
2023A1A2：2022年10月20日～2023年1月19日（全10回）
開催場所：工学部11号館 2階ラウンジ（テラスを含む）
運営体制：教員2名、事務職員2名、Language Assistant (LA) 5名

IL 開催の周知方法としては、キャンパス内でのポスター掲示のほか、日本語教室やグローバル教育の HP や IL の Instagram を使用した。2023 年度の参加者の内訳（述べ数）は、以下のとおりである。

¹⁰ 2018 年度までは International Cafe for You¹⁰として日本語教室が実施してきたが、2019 年度からは金曜日に実施されてきた国際化教育センター主催の国際交流活動（International Friday Lounge, IFL）と一本化し、名称も International Lounge に改めた。

¹¹ IL の準備・設営等を担当する LA は、2017 年度より賃金報酬有で参加してもらっている。

表1 参加者のプロフィールと参加者数

	2023S1S2	2023A1A2
参加者総数	249	192
留学生数	100	68
日本人学生数	104	98
その他（研究員、職員など）	45	26
工学部・工学系学生（全体比）	47%	64%

S1S2とA1A2を比較してわかることは、1) S1S2のほうがA1A2より参加者が多い、2) 日本人学生の参加者数は年間を通じて大きな変化がないが、留学生の参加者数はA1A2では32名減っている、3) A1A2では工学部・工学系学生の割合が増えていることである。

上記のように、日本人学生の参加者数は年間を通して100名前後いたのに対し、留学生の参加は減っている。この傾向は昨年度も見られた。原因としては、1) 留学生が日本語を話す機会が少ない、2) 日本語で話せる機会が少ない、また、A1A2に関しては、年末年始に国内旅行や一時帰国をする留学生が多かったのではないかと推測される。

次に、2023年度S1S2およびA1A2における参加者数の推移を見る。

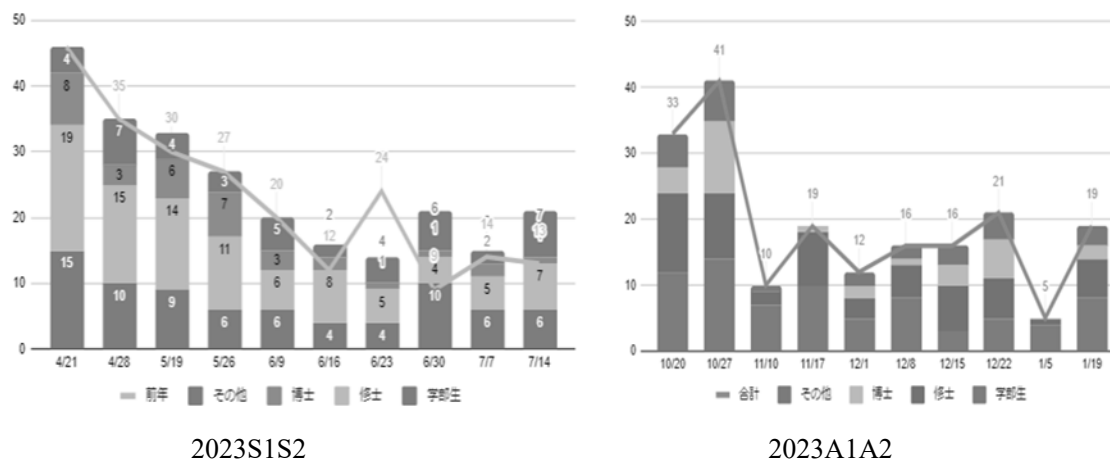


図5 参加者数の推移¹²

図5に見られるように、S1S2は初回の参加者が46名と多かった。この日は学内の避難訓練があり、学生が開催場所近くに集まっていたため、参加を促せたが、その後、減る傾向が見られる。しかし、イベントなどを行った回は参加者が増えた。この傾向は2022S1S2でも同様であった。A1A2は、初回、2回目は参加者が多かったが、その後、参加者数はあまり

¹² グローバル教育（IL 共催）より提供を受けた。

増えなかった。また、年始は参加者が大きく減った。

また、1 回のみの参加者が多く、S1S2 を例にとると、1 回のみの参加は全体の 58%を占め、2 回が 17%、3 回および 4 回が 7 %、5 回以上参加した学生、職員は 11%であった。しかし、昨年度と比べると、参加者の減少は抑えられている。これは、自由会話に加え、イベントの開催を増やしたことが功を奏したのではないかと思われる。実施したイベントは以下のとおりである。

表 2 IL のイベント

2023S1S2	2023A1A2
1) 子どもの日 ・ 柏餅を味わう ・ 折り紙 (兜を折る)	1) ハロウィン ・ 飾り付け ・ お菓子と飲み物を提供
2) ピクニック ・ 場所：本郷キャンパス 11 号館付近	2) 年末の「ホリデーパーティー」 ・ 飾り付け ・ お菓子と飲み物を提供
3) セタ ・ 金平糖を味わう ・ 短冊に願いを書く	3) 「End of Semester パーティー」 ・ お菓子と飲み物の提供

本節の冒頭で述べたように、IL はキャンパス内国際交流の場であり、多文化理解を促進するという役割も持ち、多くの留学生、日本人学生、職員に参加してもらいたいと考えている。

各学期末アンケートの結果によると、IL を知ったきっかけは、回答が多い順に、1) ポスターの掲示、2) 友人などを通しての口コミ、3) 工学系日本語教室やグローバル教育のホームページ、4) 教員やスタッフからの紹介であった。

参加目的は、「英語で話したい」(16 名) が最も多く、ついで「友達を増やしたい」(9 名)、「異文化を知りたい」(7 名)、「日本語で話したい」(4 名) であった。

本節の表 1「参加者のプロフィールと参加者数」からもわかるように、現在の IL は、英語を使える場として、留学生より日本人学生にとって有用と考えられているようである。今後は、こうした日本人学生のニーズに応えつつ、留学生にも積極的に参加してもらいたいと考える。LA (Language Assistant) にも積極的に日英両語を使って活動してもらい、日英両語で、または参加者同士が共有する言語で、多文化理解、キャンパス内国際交流を深めてほしいと思う。来年度に向けて、新たなイベント企画なども考えていきたい。

4.3 日本語ラーニングアドバイスセッション

2023年8月～9月および2024年2月～3月の間、オンキャンパスジョブ「ダイバーシティ&インクルージョンキャンパス推進支援事業」の予算を用い、日本語ラーニングアドバイスセッション (以下、LAS) を実施した。LASとは、留学生がより良く勉学・研究できるよう、日

本人大学院生（今回は3名）がアドバイザーとして、日本語の聞く・話す・読む・書くという四技能と、アカデミックスキルに関する学習支援を提供する場である。アドバイザーとなる本人大学院生もまた、これまで培ってきたアカデミックスキルを活かす機会や、留学生との交流を通して異文化コミュニケーション力と国際的な感覚を身につける機会を得ると考えられる。

サポート内容は次の通りである。

- ・リスニング：聴解能力やそのスキルの向上に役立つ聞く方法と素材に関する相談など
- ・スピーキング：日常会話の練習、就職活動のための面接練習、敬語に関する質問など
- ・リーディング：読解能力やそのスキルの向上に役立つ読む方法と素材に関する相談など
- ・ライティング：作成した文章（レポートなど）のネイティブチェック、奨学金や仕事に必要な応募書類（履歴書、エントリーシートなど）に関するアドバイスなど
- ・アカデミックスキル：授業ノートの取り方、参考文献や資料の探し方、大学生活に役立つ情報の紹介など

LASの実施にあたり、当教室の受講生にメールリストで案内を送信した。案内とほぼ同時に申し込みが殺到し、最終的に計32件の申し込みがあった。32件の内訳は、工学系所属の当教室の受講生から21件、情報理工学系等所属の当教室の受講生から11件であった。申し込みの際は、リスニングからアカデミックスキルまでの5つの選択肢を複数選択できるが、1回のセッション1時間でできることを考慮し、アドバイザーたちは留学生のニーズを確認したうえで、その回の主なサポート内容を決めていた。最終的に、スピーキング10回、リスニング7回、ライティング4回、リーディング1回、アカデミックスキル1回、その他9回となった。その他については、日本語学習の全般的な相談や就職活動に役立つノウハウに関する相談などがあった。また、相談の際に日本語能力試験（JLPT）が話題に出ることが多かった。3月末に、当教室でJLPTの模擬試験が予定されていたため、必要に応じて参加を勧めた。JLPTの模擬試験には、N2レベルに23件、N3レベルに19件の申し込みがあった。LASのアドバイザーのうち2名は、この模擬試験の監督とサポーターを務めた。

今回の実施をLASのアドバイザーを担当した本人大学院生と一緒に振り返り、運営上の反省点として、主に次の2点が挙げられた。一つは、申し込み時に相談したい内容を複数選択した場合、最も話したいことを確認することで時間がかかり、その後の相談が時間不足になってしまう場合があることである。次回は、申し込み時に最も相談したい内容を一つ選択してもらう形への変更を検討したい。もう一つは、セッション当日に急遽キャンセルしたり来場しなかったりするといったケースが見られることである。次回は、リマインドメールを送信する回数とタイミングを検討したい。

2024年度も継続して、夏季・冬季の休み期間にLASを実施する予定である。今回の実施における運営上の反省点と、特にスピーキング・リスニング・就職活動・JLPTに関するニ

ーズの高さを踏まえ、留学生により良いサポートを提供したいと考える。

第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携

現在、東京大学大学院工学系研究科では、研究者および留学生の交流を推進するため、世界各国の約100の大学と協定が締結されている。日本語教室では、海外協定校と支援ネットワークを構築し、連携を深めてきている。2023年度は、以下の取り組みを通じて、海外協定校の日本語教室と連携を強化し、工学系研究科、東京大学の国際化教育を支援している。

1. 戦略的サバティカル

2023年度は、戦略的サバティカルの一環として、カーディフ大学およびスウェーデン王立工科大学に滞在し、英国、スウェーデン、イタリア、フランス、スイスの協定校を訪問して連携を深めた。

2. 国際連携(特別)実習 VI

この実習では、カリフォルニア工科大学（Caltech: California Institute of Technology）で日本語を学ぶ学生と東京大学の学生がグループに分かれ、多文化理解と国際交流を深めるための活動を行った。2023年度も Caltech の平井講師と連携し、学生の派遣および来日のプラン作成を行い、対面および COIL 型のプロジェクトワークを実施した。

3. インド体験活動プログラム

インド工科大学カンプール校を基点とし、日本人学生8名とインド工科大学カンプール、バナラシ・ヒンドゥー大学の学生と多文化理解の促進、異文化コミュニケーション能力の向上を目的とした国際交流プログラムを企画・実践した。

4. さくらサイエンスプログラム

さくらサイエンスプログラムは、工学系および情報理工学系に関連する学術的背景を持ち、日本文化や社会への関心が高く、日本語学習経験がある優秀なインド人学生を対象として、東京大学大学院工学系研究科の教員と連携し、最新の研究成果の共有と各研究室での情報交流を図ることを目的としている。

5. 海外協定校との連携

2023年度は、協定校であるアメリカのワシントン大学、イタリアのトリノ大学、東大インド事務所から訪問があり、当教室の概要や、それぞれの国から来日して当教室で日本語を学んでいる留学生の様子などを伝えた。報告後の質疑応答を通じて、今後のさらなる連携について意見交換を行った。

詳細は以下のとおりである。

5.1 戦略的サバティカル

工学系研究科日本語教室では、海外協定校日本語教室とネットワークを構築し、連携を深めてきた。昨年度に続き、戦略的サバティカルでは、ポストコロナにおける日本語教育の在り方を探求し、優秀な工学系の留学生のリクルートに繋げていくことを目指した。

戦略的サバティカルは、元東京大学 Michael Handford 教授が在籍するカーディフ大学および Dean's Forum のメンバー校であるスウェーデン王立工科大学に滞在し、日本語教育に携わる教員を対象に、日本語教育の状況、留学、交流に関するニーズ調査を実施した。この調査を踏まえ、ポストコロナにおける日本語教育について検討し、より魅力的な日本語教室のカリキュラム作成の一助とすることを目的とした。

2023 年度は、以下のとおり、6 か国 15 大学を訪問し、聞き取り調査を行った。

表 1 訪問国と訪問大学

	国名	大学名	訪問時期
1	英国	カーディフ大学	4－6 月
2	英国	マンチェスター大学	5 月
3	英国	シェフィールド大学	4 月
4	英国	ケンブリッジ大学	4 月
5	英国	インペリアルカレッジ	5 月
6	イタリア	ミラノ大学	5 月
7	イタリア	トリノ大学	5 月
8	フランス	グルノーブルアルプ大学	5 月
9	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	7 月
10	カナダ	マギル大学	8 月
11	カナダ	*ブリティッシュコロンビア大学	8 月
12	スウェーデン	リンシュピン大学	8 月
13	スイス	ジュネーブ大学	8 月
14	スイス	チューリッヒ工科大学	8 月
15	スイス	チューリッヒ大学	8 月

* オンラインで聞き取り調査を行った。

以下、主に英国、スウェーデンでの活動を簡潔に報告する。

英国では、調査を実施した 5 つの大学において、日本語受講者が増加傾向にあることが確認された。受講者の学習動機としては、日本のポップカルチャーへの興味・関心が最も多く見られたが、伝統文化、歴史、文学に関心を持ち日本語を学んでいる学生も存在し、ニーズが多様化していることが明らかとなった。一方で、日本企業への就職や日本での就職を希望する学生は減少しているとの報告があった。英国の大学における日本文化・言語専攻のカリキュラムでは、3 年生での日本への交換留学が義務付けられていることが多いが、留学先の確保が課題となっている。そのため、本学に対して交換留学生の増枠を依頼された。

カーディフ大学では、中級レベル、上級レベル、日本語翻訳の 5 つのコースの授業を見学した。また、カーディフ大学、マンチェスター大学、シェフィールド大学との交換留学を円滑に進めるため、カリキュラムの情報共有を行った。ケンブリッジ大学では、言語コミュニ

ケーションセンター長のデービッド教授から東大との相互短期受け入れの提案をいただき、この相互短期受け入れプログラムは 2024 年度 4 月に実現する予定である。

スウェーデン王立工科大学 (KTH) は、本学の戦略的パートナー校として日本語教室と連携を深めてきた。今年度のサバティカル滞在中に、これまで実施してきた「異文化理解コース」、「言語交換プログラム」、「体験活動プログラム」の 3 つの活動について整理し、今後の計画について同意を得た。これに基づき、日本語教室は KTH での体験活動を 9 月に実施することを決定した。

2023 年度は、GELS (Global Engineers' Language Skills) に参加し、欧米の工学言語教育者とネットワークを構築した。GELS はケンブリッジ大学の言語コミュニケーションセンター (Centre for Language and Inter-communication) に拠点を置く組織で、2016 年に発足し、ヨーロッパを中心に理工系大学でサイエンス・コミュニケーションや理工系向けの外国語教育に携わる教員間の教育・研究における連携強化を目的として活動を行っている。

J-GELS は GELS の関連組織として、2023 年 9 月にスウェーデン王立工科大学 (KTH) で行われた GELS ネットワークのワークショップを機に発足した。J-GELS は、ヨーロッパ、アメリカ、日本で教鞭をとる日本語教員を中心に、定期的に研究会を行っている。日本では東京大学、九州大学、東京工業大学の 3 校が参加している。さらに、英国 (ケンブリッジ大学)、ドイツ (ミュンヘン工科大学)、フランス (リール大学) と連携し、2023 年 12 月以降、2 ヶ月に 1 回の割合で工学日本語教育のカリキュラム検討会を実施している。東京大学は研究会で 2 回、MOOC に関する情報提供と実践報告を行った。

2023 年度は、以上のように、主に英国とスウェーデンでの活動を通じて、日本語教育の現状とニーズを把握し、今後の連携強化とカリキュラムの改善に向けた具体的な方針を見出すことができた。また、GELS および J-GELS への参加により、工学日本語教育における国際的なネットワークを拡充し、さらなる教育・研究の発展に寄与することが期待される。

5.2 米国世界展開強化事業

本節では、国際連携 (特別) 実習 VI¹³ (カリフォルニア工科大学 Caltech との協働学習プログラム) について報告する。このコースの前身は、「日米の COIL 型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム」で、2018 年度に文部科学省からの支援を得て 5 か年計画で始まった。2019 年度には、教員 1 名、学生 5 名の派遣を行ったが、コロナ禍の影響で、Caltech からの来日は、中止を余儀なくされた。しかし、5 か年計画最後の年度となった 2023 年は、日米双方向の対面での交流を含む COIL (Collaborative Online International Learning 以下 COIL) 型協働学習が初めて実施可能となった。

2023 年度の派遣は国際工学教育推進機構から支援¹⁴を得て実施され、来日も Caltech の

¹³ 本コースは 2022 年度 A1A2(冬季集中)から工学系共通科目として単位化(1 単位)されることとなった。

¹⁴ 本部「体験活動」北米向け学生支援金と同額である 7 万円/人の援助をいただいた。

平井律子講師の尽力により、実現の運びとなった。

本コースの目的は、COIL を活用した Project/problem Based Learning (PBL) 型の活動を日米双方の学生に提供することであり、互いの文化、社会への理解を深め、個々の学生の国際化教育に資することを目指している。2023 年度の参加者の内訳は以下の通りである。

参加学生：22 名

・東大 11 名（工学系 10 名、教養学部 1 名）*各専攻 1 名

博士 1 名：1 年 化学システム工学

修士 4 名：1 年 情報理工学、知能機械情報学、認知科学

：2 年 バイオエンジニアリング

学部生 6 名 *システム創成学 2 名、その他の専攻各 1 名

：3 年 システム創成学、物理工学、社会基盤学、電子情報工学

：4 年 電子情報工学

・Caltech 11 名（工学系 11 名）日本語中級¹⁵クラス 11 名

博士 1 名：1 年 (G3¹⁶) 生物学

学部生 10 名：1 年（専攻未定）

*各専攻 1 名、4 年生コンピューターサイエンスのみ 2 名

：2 年 機械工学

：3 年 計算論的神経回路システム、数学、生物工学、
コンピューターサイエンス

：4 年 材料化学 (Material Science)、物理工学、生物学、
コンピューターサイエンス

次に活動の流れを紹介する。

1) 事前準備、学内説明会への参加、コースオリエンテーション

a. 2023 年 8 月～10 月：東大、Caltech の担当教員間¹⁷で、プログラム概要と目標、派遣・現地滞在に伴う留意事項などについて打合せを行った（メール、ライン通話、Zoom を使用）。

b. 2023 年 10 月 3 日に開催された東大の学部 3、4 年生および大学院生向けオンライン説明会「国際連携（特別）演習・実習」に参加し、本プロジェクトについて紹介した。

c. 2023A1A2 の履修登録時に提出された応募動機などを確認の上、最終的に 11 名の学生と渡米することになり、10 月 27 日に渡米準備オリエンテーションを対面で実施した。

¹⁵ Caltech の日本語コースが定める学習レベルである。

¹⁶ Biology や Physics 専攻においては、修士、博士を区別せず Graduate という名称になり、G3 は博士課程 1 年に相当する。

¹⁷ 文部科学省参加プログラム立案：古市由美子室長。

国際連携（特別）実習 VI 実施教員：工学系日本語教室 牛山和子、Caltech 平井律子講師。

オリエンテーションでは、本コースの目標の再確認のほか、参加者同士が知り合う機会を設け、COIL とは何か、協働学習とは何か、異文化コミュニケーションとはどのようなものかなど、異文化・多文化理解のための基本的な認識を共有した。

2) 東大ーCaltech 第 1 回合同授業 (Zoom) および東大側渡米前最終ミーティング

2024 年 1 月 11 日 9 時 (Caltech 側 1 月 10 日 16 時) から Zoom を使用して、合同授業¹⁸を行った。この合同授業の目的は、a. 活動目標と活動内容の共有、b. 渡米前に日米双方の学生が知り合う機会の提供、c. 協働学習のためのプロジェクトチーム作りの 3 点である。当日はブレイクアウトルームなども利用し、学生同士が交流できる時間を可能な限り設けた。また、渡米 1 週間前の 2 月 6 日 9:30 より渡米する学生向けに渡米前最終ミーティングを実施し、必要書類や出発前の手続きが完了しているかなどの確認を行った。

3) 渡米中のスケジュール

表 2 渡米中のスケジュール

日・曜日	活動内容
2 月 13 日 (火)	・ 12:00 成田集合 14:45 出発 同日 7:35 ロサンゼルス着 ・ 宿泊先のあるパサデナに到着 小休止後 Caltech のキャンパスへ ・ 平井講師とキャンパスで対面、挨拶、13 日のスケジュール確認 ・ 東大側：Caltech Hameetman Center での教員のレクチャーおよびグループ活動 (11:00-12:30) ・ Caltech の学生数名+平井先生とキャンパス内で昼食 キャンパスツアー ・ 14:00-15:30 Caltech のラボ見学 (1) 物理工学 (Caltech 研究生 高橋さん) ・ 平井先生と合流：翌日の合同授業についての打ち合わせ
2 月 14 日 (水)	・ 9:30-11:00 東大側：Caltech Hameetman Center にてプロジェクトワーク、午後の合同授業に向けての話し合い ・ 12:00 昼食 (Caltech の学生数名+平井先生) ・ 14:00-15:15 Caltech のラボ見学 (2) 物理工学 (Caltech 研究生 野村さん) ・ 16:00-17:30 東大-Caltech：プロジェクトワーク参加者全員の顔合わせおよび Joseph Falson 助教授 (Material Science 材料化学) による英語のレクチャー (Caltech における教員・学生の研究活動の特徴、東大との比較および質疑応答、日英両語) ・ 18:30- グリフィス天文台見学 (Caltech 生 1 名も参加)

¹⁸ この事前合同授業は、前年度の活動終了後に行ったアンケートの中で、学生が提案してくれたものである。Caltech は学期開始直後という忙しい時期であったが、平井先生のご協力を得て実現した。

2月15日（木）	・ 10:30-12:00 Joseph Falson 助教授の修士課程の講義に参加（東大生にも質問の機会が与えられた） ・ 12:00-12:30 ラボ見学（3）Falson 助教授のラボの見学＋米国留学、研究生活などに関する質疑応答 ・ 13:30-14:30 ノートン・サイモン美術館を見学 市内バスで移動 ・ 16:00-17:30 Caltech 日本語上級クラスの授業に学習サポーターとして参加
2月16日（金）	・ 10:00-12:30 平井講師と共に Huntington Library（美術館と庭園）を見学 往復徒歩で移動 ・ 13:30 Caltech の学生数名と Caltech のキャンパスでランチ ・ 15:00-16:00 ラボ見学（4）材料化学（学部4年 Sarah さん） ・ 16:00-16:30 学生寮（Page House）見学 ・ 18:00-20:00 Page House で1学期に1度の寮生の正式ディナーに招待され、参加。
2月17日（土）	・ 9:00-10:30 東大-Caltech プロジェクトワーク（対面／Zoom） ・ フィールドワーク¹⁹ サンタモニカへ
2月18日（日）	・ 5:30 AM 宿泊先から LAX 空港へ出発 ²⁰ 19日 14:25 成田着

5.2.1 プロジェクトワーク

渡米前の合同授業（日本時間1月11日）で決めた東大・Caltechの学生チーム（全6チーム）が、それぞれのテーマに基づいてPBL型の協働学習を行った。米国滞在中、Caltechは学期中であったが、学生たちはグループごとに時間を調整して連絡を取り合い、インターネットツールも使いながら、プロジェクトワークを進めた。

発表の大きなテーマは、以下の3つであった。aは1グループ、bは2グループ、cは3グループが選択した。

- ジェンダーと社会（日米の取り組みと社会的背景など）
- 環境問題について考察する（例：海洋汚染、生活の現代化に伴う変化と社会的、文化的背景など）
- Z世代の役割（例：日米や世界で今起きている事象についてどのような行動、提言ができるか）

¹⁹ Caltech 平井講師からも推薦があったサンタモニカを訪れた。往復とも地下鉄とバスを使ったが、学生にとって「アメリカ」の自然や生活文化の一端を肌で感じる体験となったようである。

²⁰ 参加学生の内、4名は同便で教員と共に帰国したが、7名は米国に残り、順次帰国した。帰国後は、各専攻と担当教員に帰国報告が行われた。

学生たちは、グループに分かれ、インターネット上の資料、自分自身の体験などをもとに、日米の文化の共通点と相違点について学び合うという形で作業を進めた。使用言語は外国語としての英語・日本語、母語としての英語・日本語（バイリンガル形式）である。

本プログラムのシラバスに示された3つのキーワードは、COIL 及び PBL 活動の理念を背景にしたコミュニケーション能力（Communication Skill）、言語能力（Language Competence）、異文化理解能力（Cross Cultural Competence）であるが、国際的な視野を広げ、将来の留学に繋がる経験の場となることも目指して活動を行った。

日本への帰国後、学生たちは、COIL 方式で、協働学習を続けた。まず、2月25日までにプロジェクトの「企画書」を Google Classroom に提出してもらい、教員はそれぞれの企画書に対してコメントをつけ、フィードバックを行った。その後、グループごとに協働学習を進め、3月7日の9:00-10:30に東大と Caltech を Zoom でつなぎ、プロジェクトワークの中間発表を行った。その後の進捗状況は、Google Classroom から配信した「中間報告シート」に記入してもらい、3月12日～3月19日までにシートを提出、教員は順次フィードバックを行った。この COIL 型プロジェクトワークは、Caltech の学期末試験期間の1週間を除き、学生たちがオンラインツールを用いてチームごとに連絡を取り合い、作業を進めた。

5.2.2 Caltech メンバーの来日中の活動

2月13日から2月18日までの東大からの渡米に続き、3月18日から3月24日の日程で、Caltech より平井律子講師と学生10名²¹が来日し、以下の活動を行った。

表3 Caltech 生来日中のスケジュール

日・曜日	活動内容
3月18日（月）	17:30 頃、Caltech の平井講師と学生10名が宿泊先に到着
3月19日（火）	・ 10:00-東大8号館88M ウェルカムドリンク ・ 10:30-12:00 最終発表に向けてのグループワーク ・ 学食でランチ ・ キャンパスツアー ・ 14:15-15:00 小グループに分かれて、バイオエンジニアリングのラボを見学（津本機構長のラボ）修士2年 稲垣さん案内 ・ 15:30-16:30 本郷キャンパス総合図書館見学 （11名と10名に分かれて、30分ずつ見学）
3月20日（水） 祝日	・ 祝日 - Discover Japan (1)

²¹ Caltech から参加学生は11名の予定であったが、事情により1名は来日できなかった。しかし、後述する最終発表に関しては、準備、プレゼンテーションともにチームメイトと連絡を取り合い、オンラインで参加した。

	ペア、グループでの交流活動 (秋葉原、浅草、スカイツリーなど)
3月21日(木)	・10:00-12:30 最終発表準備(2) ・14:00-16:00 最終プレゼンテーション(1) 3グループ ・質疑応答および教員からのフィードバック
3月22日(金)	・10:00-12:30 最終プレゼンテーション(2) 3グループ ・質疑応答および教員からのフィードバック ・学生間交流活動
3月23日(土)	・Discover Japan(2) 全員で皇居周辺の散策、ペア・グループに分かれて築地を散策、築地本願寺参拝後、自由行動
3月24日(日)	・14:00に宿泊先を出発 羽田からLAX空港へ

最終発表は、2日間にわたって行われ、6つの学生チームが、それぞれのプロジェクトテーマに沿って協働学習の成果を発表した。東大生は学習言語である英語を、Caltechの学生も日本語と英語を使って発表を行った。なお、両日とも、東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門の教職員計7名が聴衆として発表の一部に参加した。このことは、学生にとって、大きな励みとなったことと思われる。また、フィールドワークや自由時間における対面での交流活動も東大、Caltech双方の学生にとって国境を越えた友情をはぐくむ機会になったことが、後述するアンケートに寄せられたコメントやメッセージから窺える。

5.2.3 活動のまとめと今後の展望

(1) 学生の成果物

- ・企画書：各チームで作成後、Google Classroom に提出
フィードバック：教員からのコメント・中間発表に向けての助言
- ・中間発表と中間報告書：チームで作成後 Google Classroom に提出。
フィードバック：教員からのコメント・アドバイス
- ・最終発表：スライドをもとにした各チーム20分の発表および質疑応答
フィードバック：チームごとにルーブリックを使って評価
- ・最終レポート（振り返りレポート）（東大側学生のみ）

(2) プログラム実施後のアンケートに見る学生からの評価

昨年度に続き、プログラム終了後に無記名でのアンケートを実施し、東大、Caltech 合わせて22名中18名から回答を得た。内訳は東大側9名、Caltech側9名である。

アンケートは、選択式・記述式合わせて全14問からなるが、問1の授業期間（2月13

日から 3 月 23 日) は適当であったかという問いには、全員が適当であったと答えていた。また、チームとしての協働作業時間以外に 1 人で活動した時間に関しては、東大側が 2 時間から 10 時間 (平均 4.3 時間)、Caltech 側が 2 時間から 6 時間 (平均 3.6 時間) という回答であったが、協働学習時間を入れると各自 25 時間程度活動した、との報告もあった。活動の手段に関しては、図 1 のような回答が得られ (複数回答可)、時差のある学習環境下において、学生が複数のコミュニケーションツールを使って COIL 型の協働作業を進めていたことがわかる。なお、その他の内訳は、Discord 4 名、Email 1 名、Messenger 1 名であった。また、昨年に比べて、ラインや Whats up など、より対話的なツールを使う学生が増えた (2022 年度 3 名、2023 年度 6 名)。

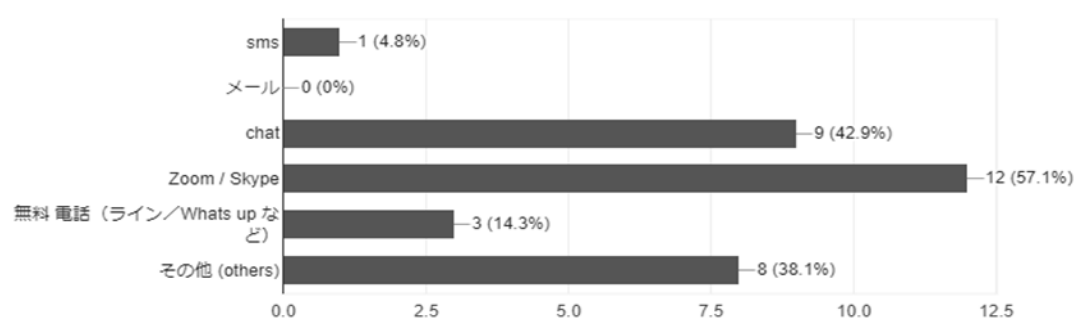


図 1：協働学習・コミュニケーションのための手段

選択式の質問には、4 件法の評価スケール²²を用いた。以下その概要を示す。

・本プログラムへの参加目的は何か、という問いに対しては、東大側は海外・Caltech の学生との交流 (4 名)、異文化理解 (3 名)、英語力の向上 (2 名)、視野を広げるため (1 名)、Caltech の研究室の訪問と教員・学生との対話 (1 名) の他、他専攻の東大生の友人をつくる (1 名) という回答もあった。Caltech 側は日本、日本語、日本文化への興味と関心があり、理解を深めたいという内容が最も多く (9 名)、日本語を使う・学ぶ (4 名)、異文化理解 (4 名)、クラス内プロジェクトとして参加 (2 名)、日本人の良き友人を作りたい (1 名)、友達を作りたい (1 名)、活動を通して世界の様々な問題の解決策を探りたい (1 名) という回答であった。

・「このプログラムを通して、英語の表現能力が伸びたと思うか」という問いに関する東大の学生の回答は、「とてもそう思う」4 名、「そう思う」3 名、「あまり思わない」、「全然思わない」が各 1 名であった。一方、「このプログラムを通して、日本語の表現能力が伸びたと思うか」という問いに関する Caltech の学生の回答は、「とてもそう思う」6 名、「そう思う」3 名となっており、本プログラムへの参加が学習言語におけるコミュニケーション能力の向上に役立ったという結果が出たと言える。

²² 質問への回答として「全然思わない・あまり思わない・そう思う・とてもそう思う」または「全然満足していない・あまり満足していない・満足している・とても満足している」からなるスケールを使用。

・「この授業で（他国の文化）アメリカ文化/日本文化への理解が深まったか」という問いに対しては、東大側は9名中7名が、Caltech 側は9名中9名が「そう思う」、「とてもそう思う」と回答している。

・「この授業でコミュニケーション力が伸びたか」という問いに対しては、「とてもそう思う」東大側6名、Caltech 側7名、「そう思う」東大側3名、Caltech 側2名という回答となり、18名全員がコミュニケーション力が伸びたと感じていることがわかった。

・「このプロジェクトに満足しているか」については、18名全員が「とてもそう思う」（東大側8名、Caltech 側6名）、または「そう思う」（東大側1名、Caltech 側3名）と回答し、本プロジェクトが学生にとって有用であったという結果になった。

・「この授業に参加して残念だったことはなにか」については、東大5名が渡米した際に Caltech の学生と過ごせる時間が少なかったこと、と回答している。訪米の時期が Caltech の学期中で学生たちは多くの授業があること、またほとんど全員が寮生のため、寮の夕食時間が決まっているなどの理由もあるが、Caltech の学生2名からも同様の感想が寄せられた。その他、「扱ったテーマをより掘り下げたかった」（3名）、「日本語をもっと話したかった」（1名）という意見もあった。貴重なコメントとして今後に生かしたい。

・「このプロジェクトに参加して一番よかったことは何ですか」という問いには全員からコメントがあった。以下、そのいくつかを紹介する。

・母語は違うし時に言葉が通じにくいこともあったが、それでも意思の疎通をしようと試み続けることで、お互いの理解が深まったし、Caltech の学生と友達になれた。

・様々なバックグラウンドの人々と関わる楽しさを知られたこと、日本文化を再発見できたこと

活動を通して、文化理解が深まり、カルテックの学生との交流や東大生の中でも交流を深められたことです

・ Exposure to the language really does help a lot with learning.

・ I think it was satisfying to write and give a presentation in Japanese that was technical at times.

However, the best part of the project was definitely the opportunity to meet the wonderful people at UTokyo and interacting with them!

・ Getting to collaborate with similar-aged students in a completely different environment was probably the best thing about this project, and getting to make friends across the world who I wouldn't have met if it wasn't for this class.

(3) 活動レポート（振り返りレポート）から見るプロジェクトワークの意味

実習の最後に東大の学生には活動レポートを書いてもらったが、学生11名の活動レポートからいくつか抜粋して本節のまとめとしたい。（原文ママ）

・自分は大学院からアメリカへの留学を検討しているため、Caltech のキャンパスや研究室の見学および COIL を通した学生間での交流により日米間の文化などの差異を体験でき

たことはとても有意義な経験になった

- ・自分はいつか海外大の博士課程進学をしたいと考えていて、今回のカルテック訪問を通じて現実味が大きく増した
- ・双方でアイデアを持ち寄ってディスカッションして一つの形にするという、本質的に協働が求められるタスクに取り組むことで、今後海外の研究者と共同研究する機会などに大いに役立つ経験になった
- ・このプログラムに応募したきっかけの一つが、他の専攻の東大生との交流ができることだったが、実際、工学部はここまで広いのかと感じるほど、それぞれの研究内容や興味を持っている分野が全く異なり、話を聞くのが新鮮だった
- ・予想外にも非常に良い友達がたくさんでき（ここが一番大事）、また今後の人生においても大切となるであろう Tips にもたくさん出会うことができた
- ・プログラム中は英語を使う機会が非常に多く、語学力の上達に繋がったと感じている。特に授業での最終発表では、初めて台本なしで英語で発表することができ英語力に対する自信に繋がった

上記のコメントは、国際交流・学内交流、多文化理解、英語力の伸長・留学への意欲の喚起など、国際連携（特別）実習 VI が目指した 3 つの目標とも対応している。今後も日米の学生が交流を深める場の一つとして、よりよい国際交流 プログラム作りを目指したい。

5.3 インド体験活動プログラム

体験活動プログラムは、東京大学の学部生および大学院生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れる機会を提供するプログラムで、2012 年度より実施されている。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイディアや発想力を生み出す力を能力の習得を目的としている。（体験活動プログラム PR 用パンフレット、<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html#10>）

日本語教室では、毎年、海外協定校を基点として、体験活動を主催している。今年度は、2 月 24 日から 3 月 1 日にかけて、インド工科大学カンプール校（以下 IITK）およびバナラス・ヒンドゥー大学（以下 BHU）において「インド人学生との学生交流およびインド文化体験活動—日本語教育のサポートと企業訪問をとおして—」を実施した。この体験活動は、2017 年度から IITK で日本語教育コース担当の Vatsala MISRA 講師および東京大学インド事務所の協力をもとに実施してきた。

今年度は、34 名の応募があり、その内 6 名の学部生と 2 名の博士の学生を選抜した。表 1 に示すスケジュールに従い、今回の体験活動では、IITK で講義に参加、日本文化体験ワークショップの実施、日本語コース受講者とのプレゼンテーション、学生交流を行われた。さらに、BHU でも互いの教育・文化に関するプレゼンテーションを実施し、その後学生交流

を行った。また、デリーでは、日本国際協力機構（JICA）および在インド日本大使館を訪問し、インド赤門会の先輩諸氏との交流を行った。

表4 インド体験活動のスケジュール

日程	活動内容
2月25日	ラクナウ空港に集合し、IIT カンプール大学へ移動、オリエンテーション
2月27日	午前：IITK キャンパスツアー、IITK 内小学校訪問（折り紙指導） 午後：日本文化体験（おにぎり、茶道）
2月28日	午前：工学基盤学講義、NGO 見学 午後：日本文化体験ワークショップ（折り紙、書道、盆踊り、浴衣着付け）インド文化体験（ヘナ、サリー着付け、インドダンス）
2月29日	午前：大学近郊の村民生活の見学（村の文化、小学校） 午後：プレゼンテーション、カンプール市内見学
3月1日	午前：IIT からバナラシ（電車）移動 午前：バナラシでガンジス川文化の見学
3月2日	午前：バナラシヒンズー大学でプレゼンテーション、学生交流 午後：サールナート見学、デリーへ移動
3月3日	デリー市内見学
3月4日	午前：JICA 訪問 午後：在インド日本大使館訪問、赤門会との交流会
3月5日	帰国

(1)実施前の準備

オリエンテーションは1回から3回まではオンライン、4回目は対面で行った。内容は以下のとおりである。

- 1) 第1回（6月26日）：概要説明、自己紹介、役割分担など
- 2) 第2回（10月23日）：学生の調査発表（IITK, BHU、インドの気候）、佐々木一憲氏よりインド文化についての講義
- 3) 第3回（12月7日）：航空券、VUSA の確認、さくらサイエンスプログラムの受け入れとその役割分担
- 4) 第4回（2月8日）：IITK での活動の最終確認

これ以外に、7月に日本大使館で栗原潔内氏（内閣官房健康・医療戦略室／内閣府健康・医療戦略推進事務局、前外務省在インド日本国大使館・在ブータン日本国大使館）による「躍進するインドの科学技術と日印協力の進展」についての講義を受け、8月に加藤隆宏教授（東京大学大学院人文社会系研究科）による「インド文化と宗教」についてのご講義を受けた。これにより、事前に日印関係、インドの社会・文化・宗教的な習慣について理解を深めるこ

とができた。

(2)プログラム中の主な活動

①日本・インド文化に関するプレゼンテーション

訪問1か月前から、IITK生と東大生がペアとなり、オンライン上で意見交換をしながらプレゼンテーションの準備を行った。当日は、日本人学生は英語で、インド人学生は日本語で発表を行った。テーマは、「大学生活」、「日本の祭り」、「ポップカルチャー映画」、「日本の盆踊り」、「ことわざ」、「食文化」、「服の文化」、「宗教」であった。インド人学生と日本人学生は、発表準備のためのコミュニケーションを通して、互いの文化や言語を学ぶことができた。BHUでも同様にプレゼンテーションを行った。



②日本文化体験ワークショップ、インド文化体験

日本文化体験として、折り紙、書道、茶道、盆踊り、浴衣着付け体験を行った。書道では、担当の学生が漢字の成り立ちとその書き方を説明し、「日本」「友」などの漢字の練習を行った。茶道では、茶道のマナーと日本文化の関係を説明し、希望者に茶道のお点前を指導した。折り紙は、「鶴」に挑戦した。盆踊りは、ワークショップに参加したインド人学生120名と一緒に「東京音頭」を踊り、楽しんだ。一方、インド文化体験として、ヘナ、サリー着付け体験をし、インドの伝統ダンスを紹介してもらった。



③大学近郊の村民生活の見学

IITK 近郊にある村を訪問し、家族総出で麦刈りや牛の世話、土間で家族が食事をする風景を見せていただいたが、IITK での生活と全く異なる様子であった。村の小学校も見学したが、黒板も机もなく、子供たちが車座になり、鉛筆1本を持ち、問題集に書き込んでいたのが印象的だった。翌日、この日の訪問が6社の新聞の地方版（写真参考）に掲載された。

④インド史跡訪問

デリーでは、勝利の塔で有名なインド最古のイスラム遺跡群「クトゥブ・ミナール」、ムガル文化の集大成「ラール・キラー（レッド・フォード）」を見学し、その近くのチャンドニー・チョークのマーケットをリキシャーに乗って、見て回った。108段の階段を持つ大規模な階段井戸アグラセー・キ・バオリも見学した。バナラシでは、ヒンドゥー教徒が一度は巡礼を願うガンジス川をボートで下った。仏教の四大聖地の一つであり、仏陀が最初に教えを説いたところで鹿野園と言われる、サールナートを見学し、インドの宗教的精神性や多様性を体験した。

⑤JICA、在インド日本大使館訪問、赤門会との交流

インドで活躍している東大OBOGにお話を伺い、意見交換、質疑応答を行った。国際協力、国際交流の意義を考え、国際的な舞台でのキャリア形成について検討するよい機会となった。

(3)体験活動の成果

体験活動終了後に実施した学生アンケート結果は、下記のとおりである（表5参照）。全員がプログラムに新規性を感じており、7名が充実した体験、将来役立つと捉えていることからプログラムの充実度は高いと評価さえる。自由回答からは、今回の体験活動を通して以下の点が明らかになった。

- ①インド人学生との友好関係の構築
- ②インド文化・日本文化理解の促進
- ③異文化コミュニケーション能力の向上
- ④今後のキャリアパス選択の拡大

これらの成果は、異なる行動様式や価値観に接することで刺激を受け、自身の価値観を相対化する機会となったことを示している。



表5 インド体験活動実施後のアンケート結果

	とても そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
プログラムに新規性がある	8人				
充実した体験	7人	1人			
困難を伴った		4人	2人	2人	
長所・短所を理解	6人	2人			
将来に役立つ	7人	1人			

また、自由記述として、以下のコメントが寄せられた。

- ・他国の学生との文化交流経験は初めてで緊張していたが、お互いの文化を尊重して友達になっていく過程が有意義なものであった。帰国後も SNS を通じて交流しており、今回経験によって、人と積極的にかかわっていく自信がついた。
- ・日本には「おもてなし文化」があるが、インドには「お客様は神様」の文化があり、学生には非常によくしてもらった。インド人学生と交流し、友好的な関係を築けたのは非常に嬉しかった。
- ・インドは何から何まで日本とは異なっており、考え方や生活習慣など全てが目新しく感じられた。書籍やネットの事前情報では得られない貴重な経験を得ることができた。一方で、日本文化への理解の浅いことに気づき、見直すきっかけとなった。
- ・プログラムを通して、インドに対して親しい感情を抱くようになり、インドに関わるような仕事を少し調べるようになった。
- ・インドで働く日本人との交流で、特に JICA 訪問がよい機会となった。自分の将来の選択を広げることができたと思う。海外で働きたいという気持ちが強まった。

5.4 さくらサイエンスプログラム

さくらサイエンスプログラムは、工学系、情報理工学系に関連する学術的な背景を持ち、日本文化、社会への関心が高く、日本語学習経験がある優秀なインド人学生を対象に、「インドの工学・情報技術を担う高度人材のための最新技術体験と交流促進プログラム」を実施した。このプログラムでは、工学系研究科の教員と連携し、日本の災害とその復興を含む様々な技術開発の成果に触れ、最新の研究成果の共有と各研究室で情報交流を図ることを目的とした。さらに日本の社会的、文化的背景について知識を深める機会を提供した。

2023年12月20日から12月26日まで、インド工科大学カンプール校、ハイデラバード校より合計10名の学生（大学院学生2名、学部学生7名）と教員1名を招へいた。スケジュールは下記のとおりである。

表6 さくらサイエンスプログラムスケジュール

日程	プログラム
12月20日	到着
12月21日	午前：ガイダンス、キャンパスツアー 午後：情報理工学講義、インド人留学生会との懇談会
12月22日	午前：日本語コース 授業に参加 午後：工学系研究科 ラボツアー
12月23日	午前：みやぎ東日本大震災津波伝承館見学 午後：石巻市震災遺構門脇小学校見学
12月24日	午前：池袋防災館見学 午後：日本未来科学館見学
12月25日	午前：プレゼンテーション、茶道体験 午後：修了式
12月26日	帰国

12月20日に10名が来日し、21日に東京大学でのさくらサイエンスプログラムが開始された。午前、オリエンテーション後に、日本人学生によるキャンパスツアーに参加し、午後は情報理工学系研究科の講義を受講した。講義では、コンピュータサイエンス専攻の学生を中心に本学の情報理工学の専門的な教育・研究を体感してもらうことができた。その後、東京大学のインド人留学生会のインド人学生との交流会を設け、研究生生活だけでなく、日常生活について率直に話すことにより、日本での留学生活について確認を深めた。



キャンパスツアー



日本語教室オフィス

22 日午前は工学系日本語教室の日本語クラスに参加し、既に日本語学習経験がある学生のため、個々の日本語レベルに応じたクラスで他の留学生と共に学んだ。ランチタイムは、「インターナショナルラウンジ」で全学の日本人学生と交流し、工学系研究科の講義を受講後、研究室を見学した。世界最先端の研究室で実験やシミュレーションを見学することにより研究への関心が高まり、本学への留学をより身近に感じられるようになったと思われる。

23 日は東京駅から新幹線に乗り、みやぎ東日本大震災津波伝承館と門脇小学校を見学した。インドでは日本の新幹線方式を採用した高速鉄道が作られていることもあり、学生は新幹線に大変興味を持っていた。伝承館では、三陸の津波被害の歴史、東日本大震災津波、復興の取り組みに関わる映像、写真、被災物などの展示物について、ガイドの説明を熱心に聞き入っていた。また、津波火災による被災状況を残す門脇小学校は、1 階は津波と津波火災、2 階、3 階には津波火災後の状況を見ることができ、さらに震災発生当時の石巻の状況を記録した映像によって、被災状況を理解することができた。



みやぎ東日本大震災津波伝承館



新幹線にて

24 日午前は、日本人学生と池袋防災館で地震体験ツアーに参加した。前日に東日本大震災を見学したため、関心を持って、地震の揺れの体験、初期消火や応急救護、火災の煙からの避難などの日本の防災・耐震技術や防災意識や管理システムに触れることができた。午後は、日本人学生と日本未来科学館を見学した。日本の新たな科学技術の魅力や科学技術の進歩が社会とどのようにかかわっているかを楽しみながら考えることができた。



池袋防災館



日本科学未来館

25 日は今回のさくらサイエンスプログラムを振り返り、各自が主に日本語でプレゼンテーションを行った。その後、国際交流部門長から参加者全員（10 名）に修了証とバッジが授与された。各自の発表報告によると、東日本大震災津波伝承館での展示物や映像、震災遺構である門脇小学校見学によって、日本とインドの共通課題の一つである災害と復興への意識が高まったことが分かった。また、日本人学生との交流によって、日本語学習への動機づけが高まり、日本文化への理解が深まったようだ。今回、本プログラムをサポートしてくれた日本人学生は、2 月にインド工科大学を訪問予定になっている。今後もさくらサイエンスプログラムをとおして、本学とインド工科大学とのネットワークの強化に貢献し、ひいては、日本及び世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与していきたい。



最終プレゼンテーション



さくらサイエンスプログラム修了式

5.5 海外協定校との連携

海外協定校との連携・交流は当教室の学生のために非常に重要であり、今後も引き続き支援ネットワークを構築し、連携を深めていきたい。

2023 年度は、下記の 7 つの機関からの訪問があった。また、短期プログラム実施担当部署からの依頼を受け、日本語の特別授業、文化活動を実施した。

- ・4 月 26 日：東京大学インド事務所より、日本を留学先として学生に勧めることを念頭に、佐々木事務所所長および職員の方、計 2 名が来室。「日本語教室についての説明」、「授業見学」、「意見交換」を行った。

- ・6 月 9 日：トレント大学国際交流課課長 Grazia Callovini 氏が来室。日本語教室についての説明、授業見学のほか、文化活動（茶道、書道）にも参加。

- ・6 月 12 日：ワシントン大学より Teaching professor の松田先生、本部 USTEP オフィスから 6 名の職員の方が来室。今後のさらなる交流を目指して、「日本語教室についての説明」、「授業見学」、「意見交換」を行った。

- ・7 月 20 日：バングラデシュ事務所所長 (Syed Emdadul Haque 氏) + 本部推進課職員の方々が当教室について知りたいとのご意向で来室され、「日本語教室についての説明」、「意見交換」などを行った。

上記の他、来日短期プログラムの一環としての依頼を受け、以下の活動を行った。

- ・5 月 31 日：ESEP、インドの学生（3 名）（日本語の特別授業）

- ・7 月 5 日サマープログラム ESEPG&UC（16 名）アジア・ヨーロッパ 10 か国（日本語の特別授業）

- ・7 月 28 日、31 日サウジアラビア学生 20 名国際短期プログラム GLP（特別授業および茶道体験）

第6章 研究活動・教材作成

工学系研究科日本語教室では、日本語教育および交流活動、国際化教育の実践研究を行い、その成果を広く周知するとともに、改善・発展を目指している。本章では、まず、当教室で行っている教育活動に関する研究について述べる。次に、各教員が行った専門分野における研究成果について記載する。最後に、教材作成の成果について述べる。

6.1 当教室における日本語教育の実践研究の発表

猪狩美保・古市由美子 (2023) 「反転授業における学習者の学びと課題ー「専門読解」コースの実践を通してー」カナダ日本語教育振興会 (CAJLE) CAJLE2023Proceedings

猪狩美保・古市由美子 (2023) 「Learners' Learning and Challenges in Flipped Classroom: Report on the Practice of “Technical Reading” Course 反転授業における学習者の学びと課題ー「専門読解」コースの実践を通してー」カナダ日本語教育振興会 (CAJLE) pp.28-36

【要旨】本発表は、工学系大学院生を対象とした日本語中級読解コースで実施した反転授業の実践報告である。2020年4月～2023年1月まで6学期分の授業後のアンケートを分析した結果、概ね反転授業について、肯定的な結果が得られた。そして、研究室で使用する専門的な知識、語彙力、読解力や読むスキル、文法力が養われたことが分かった。また、専門語彙を学ぶことは、読解力の向上だけでなく、研究生活や日常会話にも役立っていた。一方、反転授業の課題として、プラットフォームの簡便性、事前学習において専門性が異なる学習者やレベル差のある学習者への配慮が必要である。専門読解コースを反転授業として実施することは、事前学習によって外発的な動機付けが高まるだけでなく、研究内容と読解教材が関連することで内発的な動機付けに結びつくことが明らかになった。

古市由美子・猪狩美保 (2023) 「反転授業における教員の専門性ー日本語授業実践のリフレクションに基づいてー」東アジア日本語教育・日本文化研究学会

【要旨】本発表は、日本語中級読解コースで実施した反転授業における教員の専門性について分析したものである。情報通信技術 (ICT) の進歩、オンライン化の整備に伴い、反転授業への関心が高まっている。そこで、工学系研究科の大学院生を対象とした工学に特化した専門読解コースで実施した反転授業を取り上げ、授業実施教員2名のリフレクションの結果をもとに、教員の専門性について考察した。分析結果から、「専門性の三位一体モデル」(館岡 2021) において、反転授業は理念とフィールドとを連動すると促進しやす

い。教員の専門性として、授業を行う上で学生主体への意識の転換が必要になり、高度に構造化する授業デザインの知識、それを実施するためのファシリテータ、ICT リタラシーの技術が必要になる。また、教員が授業実践をリフレクションすることによって、授業を客観的に捉え、教員の成長につながる事が分かった。

6.2 各専門分野における研究成果

【研究論文】劉羅麟（2024/03）「学習者の母語を活用した音声特化授業の設計—中国語母語話者を第一歩として—」『早稲田日本語教育実践研究』12, pp.31-38

【要旨】第二言語教育では教室における母語の使用を回避または禁止する時代もあったが、近年では教育における母語の活用に関する研究が盛んに行われ、その実際の効果も検証されている。本稿では、学習者の母語（母方言を含む）を活用した、音声に特化した授業の設計について報告する。研究の第一歩として中国語母語話者を対象に選び、その母語を活かしながら、日本語のリズム（促音、長音、撥音、拗音）、子音（清音・濁音、ナ行音・ラ行音）、アクセント（初級名詞、人名、複合名詞）、イントネーション（への字のイントネーション、文末のイントネーション）について学習する授業を設計し実践した。

【実践報告】劉羅麟・伊藤茉莉奈・小林美希・中川彩野・渡邊咲・福島青史（2023/12）「日本語の合成音声を用いた講義動画の作成—調整方法の報告と「聞きやすさ」に関する考察—」『早稲田日本語教育学』35, pp.179-183

【要旨】本稿では、オンデマンド科目で使用する講義動画を作成する過程における、1) 合成音声の不自然な箇所を調整する方法と、2) 調整を行うか否かを判断する中で行われた音声の「聞きやすさ」に関する考察について報告する。ソフトウェアが生成した合成音声には、不自然な読み方・ポーズ・アクセントがあったため、文字表記と句読点の変更・コマンドの挿入・同音異義語への置換などの方法で調整した。こうした調整を行うか否かを判断する中で、①読み方の間違い、②テーマとなる語句の後におけるポーズの欠如、③語句の途中に挿入された不要なポーズ、④頻出する語におけるアクセントの崩れ、⑤ひとまとまりであるはずの語句におけるアクセントの分断や、長い漢字語彙のような難しい語彙におけるアクセントの崩れ、⑥音声上の問題点の多発、という6点が講義動画としての「聞きやすさ」に影響を及ぼす要因として浮かび上がった。

【研究発表】劉羅麟（2023/11）「中国の大学の日本語教師における音声教育観と指導実態—モデルに基づいたアンケート調査の結果から—」第13回国際日本語教育・日本研究シンポジウム（英語での発表、題名原文：Beliefs about Speech Education and Teaching Practices of Japanese Language Teachers in Universities across China: Results of a Model-based Questionnaire Survey.）

【要旨】本発表では、理念・経験・意見モデルに基づいてアンケートを作成し、中国の大学における日本語教師（CT）の音声教育観と指導実態を調査した。CT を体系的な発音指導を行う G1 と、非体系的な発音指導を行う G2 に分けた。分析の結果、①CT は全員音声教育が必要だと考え、主に1年生（特に入門期）の際に発音指導を実践している。②G2 の指導は殆ど総合系科目で行われているのに対し、G1 の指導は発音、会話、聴解など様々な科目で行われている。③G1 は発音のほぼすべての側面を指導しているのに対し、G2 はアクセントとリズムに重点を置いている。④G1 と G2 はどちらもフィードバック、知識伝授、モデル発音を指導方法として用いているが、視覚や身体補助はあまり使用されていない。⑤約 40% の CT が学習者の母語を日本語の発音指導に活用している。

【セミナー】古市由美子 JIEPP 第5回日印交流セミナー 2023年11月

「インドとの学術交流・学生交流の促進に向けて（東京大学インド事務所、国際協力機構の活動報告）」

今回の日印交流セミナーでは、司会およびコメンテーターを担当した。当日は、大学関係者や官庁・企業関係者等から約 100 名の参加があった。質疑応答を踏まえ、以下のような報告文を WEB に掲載した。東京大学インド事務所が設立し、10 年間で日本の大学でインド人留学生が 3.5 倍に増加したことから、現地機関の重要性を認識している。また、インドの教育方針である NEP 2020 が改訂され、インドは教育大国を目指しており、格差の大きいインド社会において IT 技術がますます重きをなすだろうと思われる。JICA インド事務所については、人的交流とインド工科大学ハイデラバード校を拠点とした学術交流の広がり期待している。一方、ハイデラバード校に約 300 名の日本語履修生が存在するが、潜在的な留学生はいるため、今後積極的に留学支援体制を整えることを希望する。さらに、日本から企業や学生がインドを来訪し、相互理解を広げてくれることに期待する。

6.3 MOOC 教材の研究会と使用の広がり

2022 年に MOOC 教材として開発した読解オンライン教材が海外協定校を中心に使用が広がりつつある。2023 年度から KTH（スウェーデン王立工科大学）で B1 レベルの教材としての使用が開始された。また、MOOC 教材に関心のあるヨーロッパ日本語教師会のメンバーを中心に、12 月「Let's Read! Learning Japanese through Science & Technology コース内容と実践方法」、3 月に「Let's Read! Learning Japanese through Science & Technology 東京大学の実践例に基づいて」について、研究会を開催した。

2022 年 4 月公開 古市由美子「Let's Read! Learning Japanese through Science & Technology-1」

2022 年 6 月公開 古市由美子「Let's Read! Learning Japanese through Science & Technology-2」



2024 年 3 月末現在、Part 1 の総登録者数は 16,852 人、Part2 の総登録者数は 1,761 人で、多くの受講生に利用していただいている。

第7章 今後の課題

工学系日本語教室は、留学生・研究員を取り巻く環境づくりの一環として、円滑な研究生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目的としている。今年度実施したことを振り返り、来年度のよりよい留学生支援に向けて、次の5項目、1日本語教育、2日本文化事情教育、3多言語・多文化支援、4国際化教育、5実践研究と教材開発について、課題と展望を検討する。

7.1 日本語教育

1) 工学系日本語カリキュラムの検討

2023年度の受講状況並びに、学生のニーズに応え、来年度以降、下記のコースの新たな開講が望まれ、受講者数が少ないコースはシラバスの見直しなどを行いたい。

・初級1コースの増設

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は主に英語であるが、日本社会での生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級1レベルのコースを提供しているが、今年度はS1S2、A1A2の受講者が定員を上回ったため、さらに増設が必要である。その要因として、USTEP生の初級コースを当教室が担っていること、都市工学日本語教室が来年度より閉室に伴い、その留学生を当教室で受け入れることから初級コースの増設が必要となる。

・中級3日本語キャリアブリッジの開講

日本組織事情コースの受講生の日本語レベル差があり、学びたいことや習得したいスキルが個々で異なった。また、言語背景調査で修了後の進路について尋ねると、「日本で就職する」72名（42%）と約4割の学生がビジネス場面での高度な日本語習得を目指すという回答があった。そのため、現在上級1、2レベルに開講している「日本組織事情」コースに加えて、中級レベルにおける就職支援のコースの開設が望まれる。

・上級2聴解・上級2読解の開講

言語背景調査の「あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか」という質問に対する回答を見ると、超級レベルが（42%）、上級レベルが（32%）となり、全体の7割以上の学生が上級レベル以上の日本語能力を目指している。今学期まで、教員不足などのため開講できなかった上級2の聴解と読解の開講を実施したい。

2) 教室の確保

教室の確保は長年の課題であり、未だに解決に至っていない。当教室が授業のために使用できる教室は、現在 9 教室ある。日本語教室が管理する講義室は 1 つ、優先的に予約が可能な教室が 3 つ、他の講義や会議のない場合に借りることができる 5 教室がある。しかし、入試準備が始まる時期は、優先的に予約が可能な 3 教室が使用不可となり、一時的に 2 号館、5 号館を借用し授業を行ったが、来年度は受講者の増加も予測され、一定の広さを持つ教室が不足する。今後日本語教室が優先的に使用できる教室の確保が急務となる。

7.2 日本文化事情・文化体験

今年度は、各学期、日本文化体験およびワークショップを 3 回開催した。「茶道ワークショップ」、「書道ワークショップ」は、大学サークルとの連携によって実施した。このような日本人学部生と留学生の交流は、日本文化を教える過程で、日本人学生自身も改めて自国の文化について再認識する機会となり、また、留学生は日本人学生から直接学ぶことで、親しみを感じ、よりリアルな文化を理解することができる。現状の課題として、以下 3 点が挙げられる。まず、茶道、書道、着物の着付けなどの日本文化体験やワークショップは非常に人気が高く、希望者全員を受け入れることができない。次に、東京大学のサークルと連携し、日本人学生との交流機会を増やしたいが、サークルへの連絡が困難で、指導に当たる学部生の継続が難しい。さらに、日本文化が伝統文化に偏る傾向がみられるため、留学生に人気のあるポップカルチャーの体験活動にも取り組みたいと考えている。

7.3 留学生と日本人学生の国際交流支援

授業ボランティアは、日本人学生がボランティアとして参加し、教員と協働して留学生の日本語学習を支援することを目的としている。このプログラムにより、日本人学生が日本語を再発見し、日本語を見つめ直す機会を提供している。日本人学生のボランティアは、今年度は 20 名が参加してくれたが、これは教員の希望する人数を下回った。今後授業ボランティアの募集方法を改善し、ボランティア経験の効果を周知することで、参加者数の増加を図りたい。

International lounge は留学生と日本人学生および教職員との学内での国際交流、多文化理解を促進する目的とし実施している。初回とイベント時の参加者は多いが、回を重ねるごとに人数が減少する傾向がみられる。また、留学生の参加率が日本人学生に比べて若干低

い。日本人、留学生の誰でも参加できるように英語が使用されることが多いが、日英両言語を併用することによって、言語習得の機会を提供し、留学生の参加を促進したいと考えている。

日本語ラーニングアドバイスセッションは、学期間中に、日本人大学院生がアドバイザーとして、留学生の日本語の四技能（聞く・話す・読む・書く）およびアカデミックスキルに関する学習支援を提供することを目的としている。日本語授業が行われない学期間においても効果的なサポートを実施するため、実施期間や回数、時間帯の調査を行い、その結果に基づいて体制を強化していきたい。

7.4 国際化教育

体験活動プログラムは、日本人学生が海外協定校でこれまでの生活と異なる文化や価値観に触れることを通じて、新しいアイデアや発想力を身に付けることを目的としている。

今年度はインド工科大学カンプール校（IITK）で実施した。本プログラムは2016年からIITKで5回実施してきたが、担当者の退職に伴う状況の変化により、来年度から実施校を変更することとなった。来年度は新たな受入れ校を検討し、受入れ校の担当者との関係性を構築し、プログラムを継続していきたい。さらに、来年度からケンブリッジ大学が体験活動の場を提供してくれることになり、新たに体験活動を開始する予定である。

さくらサイエンスプログラムは、工学系および情報理工学系に関連する学術的背景を持ち、日本文化や社会への関心が高く、日本語学習経験がある優秀なインド人学生を対象として、今年度初めて実施した。航空券や宿舍の手配、細かな事務手続きは困難であるが、今後もさくらサイエンスプログラムを通じて、本学とインド工科大学とのネットワークを強化し、日本および世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与していきたいと考えている。

7.5 実践研究および教材開発

今年度、専門日本語教育に関する研究を実施したが、今後も当教室の特徴を生かした工学系の実践研究を継続していきたい。第6章で述べたように、2021年度には大規模公開オンライン講座（MOOC）として読解教材を開発し、2022年度より配信を開始した。今年度からは海外協定校でもオンラインテキストとして採用されたことにより、今後もこれを通じて海外協定校との連携がさらに深まることが期待される。加えて、予算と人材を確保し、工学系に特化したオンライン教材の開発を進めていきたいと考えている。

2023年度S1S2工学系研究科日本語教室概要

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2023年4月5日～2023年7月26日

履修登録: HP <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

登録期間: 3月6日～4月12日 修正期間: 4月13日～4月19日 (入門コース6月13日まで)

連絡先: 113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ (4コース: 18コマ)、初級Ⅱ (3コース: 12コマ) 中級Ⅰ (5コース: 9コマ)

中級Ⅱ (6コース: 10コマ) 中級Ⅲ (6コース: 7コマ)、上級Ⅰ (6コース: 8コマ)、上級Ⅱ (3コース: 3コマ) 計33コース、66コマ

コース	対象	時間	担当	教室	教材
入門 * 1コマ1単位 (6月6日～)	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	金・中村	88L	『Basic Japanese for Students はかせ1』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 8:30-10:15	大西 鈴木 金	123	『大地Ⅰ メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)
初級1A 初級1B	はじめて日本語を勉強する人	月 8:30-10:15 水・金 10:25-12:10	A: 金・片岡・ ハワード B: 鈴木・藤 井・宮瀬	A: 88L/324B /324C B: 88M/324C /722	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級2A 初級2B	初級Ⅰの修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当	月 10:25-12:10 水 8:30-10:15	A: 金・中村 B: 東平・金	A: 88L/88M B: 324B/#5 54	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ初級Ⅱ	初級Ⅱまたはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・木 8:30-12:10	猪狩 米谷	#5 55/123	『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)
初級3A 初級3B	初級Ⅱまたはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・金 10:25-12:10	A: 佐藤・猪 狩 B: 東平・米 谷	A: 324B B: 324C/88M	『大地Ⅱ メインテキスト(L23-32)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級4A 初級4B	初級Ⅲの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当	火・金 8:30-10:15	A: 佐藤・猪 狩 B: 東平・ハ ワード	A: 324B B: 324C	『大地Ⅱ メインテキスト(L33-42)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 総合A 中級Ⅰ 総合B	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	火 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A: 牛山・ハ ワード B: 内田・中 村	A: #5 54/88M B: 132	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 聴解	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	木 8:30-10:15	内田	88L	『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク), 『<テーマ別> 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社)
中級Ⅰ 会話A 中級Ⅰ 会話B	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	火 10:25-12:10	A: 金 B: 内田	A: 88M B: 132	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 専門読解	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	水 8:30-10:15	猪狩	88L	自主教材

中級1 文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	月 10:25-12:10	佐藤	132	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ 中級作文」(凡人社)
中級2 総合A 中級2 総合B	中級1総合コースの修了者、 またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	火 10:25-12:10 金 8:30-10:15	A: 牛山・宮 瀬 B: 大西・片 岡	A:#5 54/722 B:123/88L	『中級を学ぼう 日本語の文型と表 現56 中級前期 第2版』(スリー エーネットワーク) ※テキストは緑色の表紙
中級2 聴解	中級I聴解コースの修了者、 またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	水 8:30-10:15	片岡	324B	『留学生のためのアカデミック・ジャ パニーズ聴解【中級】』(スリーエー ネットワーク)
中級2 会話A 中級2 会話B	中級I会話コースの修了者、 またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	月 8:30-10:15	A: 佐藤 B: 東平	A:132 B:324B	『新版ロールプレイで学ぶ中級から 上級への日本語会話』(凡人社)
中級2 読解	中級1読解コースの修了者、 またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	金 13:00-14:45	米谷	88M	『留学生のための読解トレーニング (読む力がアップする15のポイン ト)』(凡人社)
中級2 文章	中級1文章コースの修了者、 また は JLPT N3 相 当、 CEFR B1 相当	木 8:30-10:15	ハワード	88M	『小論文への12のステップ』 (スリーエーネットワーク)
中級2 専門語彙・漢字	中級1総合コースの修了者、 またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	水 10:25-12:10	中村	88M	自主教材
中級3 総合	中級2総合コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月・水 10:25-12:10	鈴木・猪狩	88M/88L	『中級を学ぼう 日本語文型と表現 82 中級中期』(スリーエーネットワ ーク) * テキストは水色の表紙
中級3 聴解	中級2聴解コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 10:25-12:10	藤井	324C	『留学生のためのアカデミック・ジャ パニーズ聴解【中上級】』(スリー エーネットワーク)
中級3 会話	中級2会話コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	火 8:30-10:15	大西	123	自主教材
中級3 専門読解	中級2読解コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 8:30-10:15	猪狩	722	自主教材
中級3 文章	中級2文章コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	水 8:30-10:15	宮瀬	132	『小論文への12のステップ』(スリー エーネットワーク)
中級3・上級1・上級2 多文化理解プロジェクト	中級2総合または中級3総合 コースの修了者、または JLPT N2相当、CEFR B2相 当	木 13:30-14:30	牛山	88M	自主教材

上級 日本組織事情A	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	火 10:25-12:10	佐野	88L	自主教材
上級 日本組織事情B (オンラインコース)	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	火 13:00-14:45	佐野	オンライン	自主教材
上級1 総合	中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	水 10:25-12:10 金 8:30-10:15	宮瀬・牛山	132/88M	『留学生のための時代を読み解く上級日本語』第3版 スリーエーネットワーク
上級1 聴解	中級3聴解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	水 8:30-10:15	藤井	324C	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)
上級1 会話	中級3会話コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 10:25-12:10	内田	88L	『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)
上級1 読解	中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	金 10:25-12:10	金	123	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク
上級1 文章	中級3文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30-10:15	藤井	324C	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)
上級2 総合	上級1総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	水 10:25-12:10	金	#5 54	自主教材
上級2 会話	上級1会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	金 10:25-12:10	片岡	88L	自主教材
上級2 文章	上級1文章コースの修了者、JLPT N1レベル以上、またはCEFR C1相当	木 10:25-12:10	猪狩	722	『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情 (4月26日～)	全レベル対象 (オンライン&対面)	水 13:00-14:30	牛山 早坂		
International Lounge (4月21日～)	全レベル対象	金 12:10-13:10	金 山畑	工学部11号 館2階T- Lounge	
チュートリアル (6/7～)	全レベル対象	水 14:00-15:40	猪狩	88M	

*授業内容・教室は変更の可能性あり

2023年度S1S2工学系研究科日本語教室時間割

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2023年4月5日～2023年7月26日

履修登録: HP <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録期間: 3月6日～4月12日 修正期間: 4月13日～4月19日 (入門コース6月13日まで)

連絡先: 113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:18コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級1(5コース:9コマ)

中級2(6コース:10コマ) 中級3(6コース:7コマ)、上級1(6コース:8コマ)、上級2(3コース:3コマ) 計33コース、66コマ

	8:30 – 10:15	10:25 – 12:10	13:00 – 14:45	14:55 – 16:40
月	インテンシブ初級Ⅰ 大西 123			
	初級1A 金 88L 初級1B 鈴木 88M	初級2A 金 88L 初級2B 東平 324B		
	中級2 会話A 佐藤 132 中級2 会話B 東平 324B	中級1 文章 佐藤 132		
		中級3 総合 鈴木 88M		
火	インテンシブ初級Ⅱ 猪狩 5号館54		入門 [6/6-] 金 88L	
	初級4A 佐藤 324B 初級4B 東平 324C	初級3A 佐藤 324B 初級3B 東平 324C		
	中級1 総合A 牛山 5号館54 中級1 総合B 内田 132	中級1 会話A 金 88M 中級1 会話B 内田 132		
	中級3 会話 大西 123	中級2 総合A 牛山 5号館54 中級2 総合B 大西 123		
		上級 日本組織事情A 佐野 88L	上級 日本組織事情B (オンラインコース) 佐野	
水	インテンシブ初級Ⅰ 鈴木 123		ビジターセッション&日本事情 (13:30-14:30) 牛山・早坂 [4/26-]	チュートリアル (14:00-15:40) 猪狩 [6/7-] 88M
	初級2A 中村 88M 初級2B 金 5号館54	初級1A 片岡 324B 初級1B 藤井 324C		
	中級1 専門読解 猪狩 88L	中級2 専門語彙漢字 中村 88M		
	中級2聴解 片岡 324B	中級3 総合 猪狩 88L		
	中級3 文章 宮瀬 132	上級1 総合 宮瀬 132		
	上級1 聴解 藤井 324C	上級2 総合 金 5号館54		
木	インテンシブ初級Ⅱ 米谷 123		中村 入門 [6/8-] 88L	
	中級1 聴解 内田 88L	中級1 総合A ハワード88M 中級1 総合B 中村 132	中級3・上級1・上級2 多文化理解プロジェクト 牛山 88M	
	中級2 文章 ハワード 88M	中級3 聴解 藤井 324C		
	中級3 専門読解 猪狩 722	上級1 会話 内田 88L		
	上級1 文章 藤井 324C	上級2 文章 猪狩 722		
金	インテンシブ初級Ⅰ 金 123	初級1A ハワード 324C 初級1B 宮瀬 722	International Lounge (12:10-13:10) 金・山畑 [4/21-]	
	初級4A 猪狩 324B 初級4B ハワード 324C	初級3A 猪狩 324B 初級3B 米谷 88M	中級2 読解 米谷 88M	
	中級2 総合A 宮瀬 722 中級2 総合B 片岡 88L	上級1 読解 金 123		
	上級1 総合 牛山 88M	上級2 会話 片岡88L		

* 教室は変更の可能性有り

2023年度A1A2工学系研究科日本語教室概要

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2023年10月3日～2024年1月30日

履修登録: HP <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録期間: 9月5日～10月8日 修正期間: 10月9日～10月14日
(入門コース12月7日迄)

連絡先: 113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ (4コース: 18コマ)、初級Ⅱ (3コース: 12コマ) 中級Ⅰ (5コース: 9コマ)

中級Ⅱ (6コース: 10コマ) 中級Ⅲ (6コース: 7コマ)、上級Ⅰ (6コース: 8コマ)、上級Ⅱ (3コース: 3コマ) 計33コース、66コマ

コース	対象	時間	担当	教室	教材
入門 * 1コマ1単位 (11月30日～)	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	中村・劉	火曜日: 88L 木曜日: 88M	『Basic Japanese for Students はかせ1』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 木 10:25-12:10	大西 鈴木 金 劉	月曜日・水 曜日: 123 木曜日: 722	『大地Ⅰ メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)
初級1A 初級1B 初級1C	はじめて日本語を勉強する人	月 8:30-10:15 水・金 10:25-12:10	A: 金・片岡・ ハワード・劉 B: 鈴木・藤 井・宮瀬 C: 牛山・米 谷・鈴木	A: 88L/324B /324C B: 88M/324C /722 C: 132/722/13 2	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級2A 初級2B	初級Ⅰの修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当	月 10:25-12:10 水 8:30-10:15	A: 金・中村・ 劉 B: 東平・金・ 劉	A: 88L/88M B: 324B/#5 54	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ初級Ⅱ	初級Ⅱまたはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・木 8:30-12:10	猪狩 米谷	#5 55/123	『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)
初級3A 初級3B	初級Ⅱまたはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・金 10:25-12:10	A: 佐藤・猪 狩 B: 東平・米 谷	A: 324B B: 324C/88M	『大地Ⅱ メインテキスト(L23-32)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級4A 初級4B	初級Ⅲの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1 相当	火・金 8:30-10:15	A: 佐藤・猪 狩 B: 東平・ハ ワード	A: 324B B: 324C	『大地Ⅱ メインテキスト(L33-42)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 総合A 中級Ⅰ 総合B	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	火 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A: 牛山・ハ ワード B: 内田・中 村	A: #5 54/88M B: 132	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 聴解	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	木 8:30-10:15	内田	88L	『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク), 『<テーマ別> 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社)
中級Ⅰ 会話A 中級Ⅰ 会話B	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	火 10:25-12:10	A: 金・劉 B: 内田	A: 88M B: 132	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 専門読解	初級Ⅳ、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	水 8:30-10:15	猪狩	88L	自主教材

中級1 文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	月 10:25-12:10	佐藤	722	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ 中級作文」(凡人社)
中級2 総合A 中級2 総合B	中級1総合コースの修了者、 またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	火 10:25-12:10 金 8:30-10:15	A: 牛山・宮 瀬 B: 大西・片 岡	A:#5 54/722 B:123/88L	『中級を学ぼう 日本語の文型と表 現56 中級前期 第2版』(スリー エーネットワーク) ※テキストは緑色の表紙
中級2 聴解	中級I聴解コースの修了者、 またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	水 8:30-10:15	片岡	324B	『留学生のためのアカデミック・ジャ パニーズ聴解【中級】』(スリーエー ネットワーク)
中級2 会話A 中級2 会話B	中級I会話コースの修了者、 またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	月 8:30-10:15	A: 佐藤 B: 東平	A:722 B:324B	『新版ロールプレイで学ぶ中級から 上級への日本語会話』(凡人社)
中級2 読解	中級1読解コースの修了者、 またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	金 13:00-14:45	米谷	88M	『留学生のための読解トレーニング (読む力がアップする15のポイン ト)』(凡人社)
中級2 文章	中級1文章コースの修了者、 また は JLPT N3 相 当、 CEFR B1 相当	木 8:30-10:15	ハワード	88M	『小論文への12のステップ』 (スリーエーネットワーク)
中級2 専門語彙・漢字	中級1総合コースの修了者、 またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	水 10:25-12:10	中村	88M	自主教材
中級3 総合	中級2総合コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月・水 10:25-12:10	鈴木・猪狩	88M/88L	『中級を学ぼう 日本語文型と表現 82 中級中期』(スリーエーネットワ ーク) * テキストは水色の表紙
中級3 聴解	中級2聴解コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 10:25-12:10	藤井	324C	『留学生のためのアカデミック・ジャ パニーズ聴解【中上級】』(スリー エーネットワーク)
中級3 会話	中級2会話コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	火 8:30-10:15	大西	123	自主教材
中級3 専門読解	中級2読解コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 8:30-10:15	猪狩	722	自主教材
中級3 文章	中級2文章コースの修了者、 またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	水 8:30-10:15	宮瀬	132	『改訂版 大学・大学院留学生の日 本語②作文編』(アルク)
中級3・上級1・上級2 多文化理解プロジェクト	中級2総合または中級3総合 コースの修了者、または JLPT N2相当、CEFR B2相 当	木 13:30-14:30	牛山	88L	自主教材

上級 日本組織事情A	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	火 10:25-12:10	古市・佐野	88L	自主教材
上級 日本組織事情B (オンラインコース)	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	火 13:00-14:45	古市・佐野	オンライン	自主教材
上級1 総合	中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	水 10:25-12:10 金 8:30-10:15	宮瀬・牛山	132/88M	『留学生のための時代を読み解く上級日本語』第3版 スリーエーネットワーク
上級1 聴解	中級3聴解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	水 8:30-10:15	藤井	324C	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)
上級1 会話	中級3会話コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 10:25-12:10	内田	88L	『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)
上級1 読解	中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	金 10:25-12:10	金・古市	123	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク
上級1 文章	中級3文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30-10:15	藤井	324C	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)
上級2 総合	上級1総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	水 10:25-12:10	金・牛山	#5 54	自主教材
上級2 会話	上級1会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	金 10:25-12:10	片岡	88L	自主教材
上級2 文章	上級1文章コースの修了者、JLPT N1レベル以上、またはCEFR C1相当	木 10:25-12:10	猪狩	324B	『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・日本事情 (10月18日～)	全レベル対象	水 13:00-14:30	牛山 早坂	88L	
International Lounge (10月20日～)	全レベル対象	金 12:10-13:10	金・古市・牛山 山畑	工学部11号館2階T-Lounge	
チュートリアル (11/29～)	全レベル対象	水 14:00-15:40	猪狩	88M	

*授業内容・教室は変更の可能性あり

2023年度A1A2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2023年10月3日～2024年1月30日

履修登録:HP <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録期間:9月5日～10月8日 修正期間:10月9日～10月14日(入門コース12月7日迄)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826 FAX:03-5800-2436

単位: 1コマ2単位(「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:18コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級Ⅰ(5コース:9コマ)

中級Ⅱ(6コース:10コマ) 中級Ⅲ(6コース:7コマ)、上級Ⅰ(6コース:8コマ)、上級Ⅱ(3コース:3コマ) 計33コース、66コマ

	8:30 - 10:15	10:25 - 12:10	13:00 - 14:45	14:55 - 16:40
月	インテンシブ初級Ⅰ 大西 123			
	初級1A 金/劉 88L 初級1B 鈴木 88M 初級1C 牛山 132	初級2A 金/劉 88L 初級2B 東平 324B		
	中級2 会話A 佐藤 722 中級2 会話B 東平 324B	中級1 文章 佐藤 722		
		中級3 総合 鈴木 88M		
火	インテンシブ初級Ⅱ 猪狩 5号館 55		入門 [12/5-] 劉 88L	
	初級4A 佐藤 324B 初級4B 東平 324C	初級3A 佐藤 324B 初級3B 東平 324C		
	中級1 総合A 牛山 5号館54 中級1 総合B 内田 132	中級1 会話A 金/劉 123 中級1 会話B 内田 132		
	中級3 会話 大西 88L	中級2 総合A 牛山 5号館54 中級2 総合B 大西 88M		
		上級 日本組織事情A 古市・佐野 88L	上級 日本組織事情B (オンラインコース) 古市・佐野 88M	
水	インテンシブ初級Ⅰ 鈴木 123		ビジターセッション&日本事情 (13:00-14:30) 牛山・早坂 [10/18-] 88L	チュートリアル (14:00-15:40) 猪狩 [11/29-] 88M
	初級2A 中村 88M 初級2B 金/劉 5号館54	初級1A 片岡 324B 初級1B 藤井 324C 初級1C 米谷 722		
	中級1 専門読解 猪狩 88L	中級2 専門語彙漢字 中村 88M		
	中級2読解 片岡 324B	中級3 総合 猪狩 88L		
	中級3 文章 宮瀬 132	上級1総合 宮瀬 132		
	上級1 読解 藤井 324C	上級2 総合 金/牛山 5号館54		
木	インテンシブ初級Ⅱ 米谷 123		入門 中村 [11/30-] 88M	
	中級1 読解 内田 88L	中級1 総合A ハワード88M 中級1 総合B 中村 132	中級3・上級1・上級2 多文化理解プロジェクト 牛山 88L	
	中級2 文章 ハワード 88M	中級3 読解 藤井 324C		
	中級3 専門読解 猪狩 324B	上級1 会話 内田 88L		
	上級1 文章 藤井 324C	上級2 文章 猪狩 324B		
		インテンシブ初級Ⅰ 金/劉 722		
金		初級1A ハワード 324C 初級1B 宮瀬 722 初級1C 鈴木 132	International Lounge (12:10-13:10) 金・山畑 [10/20-]	
	初級4A 猪狩 324B 初級4B ハワード 324C	初級3A 猪狩 324B 初級3B 米谷 88M	中級2 読解 米谷 88M	
	中級2 総合A 宮瀬 722 中級2 総合B 片岡 88L	上級1 読解 金/古市 123		
	上級1 総合 牛山 88M	上級2 会話 片岡88L		

*教室は変更の可能性有り

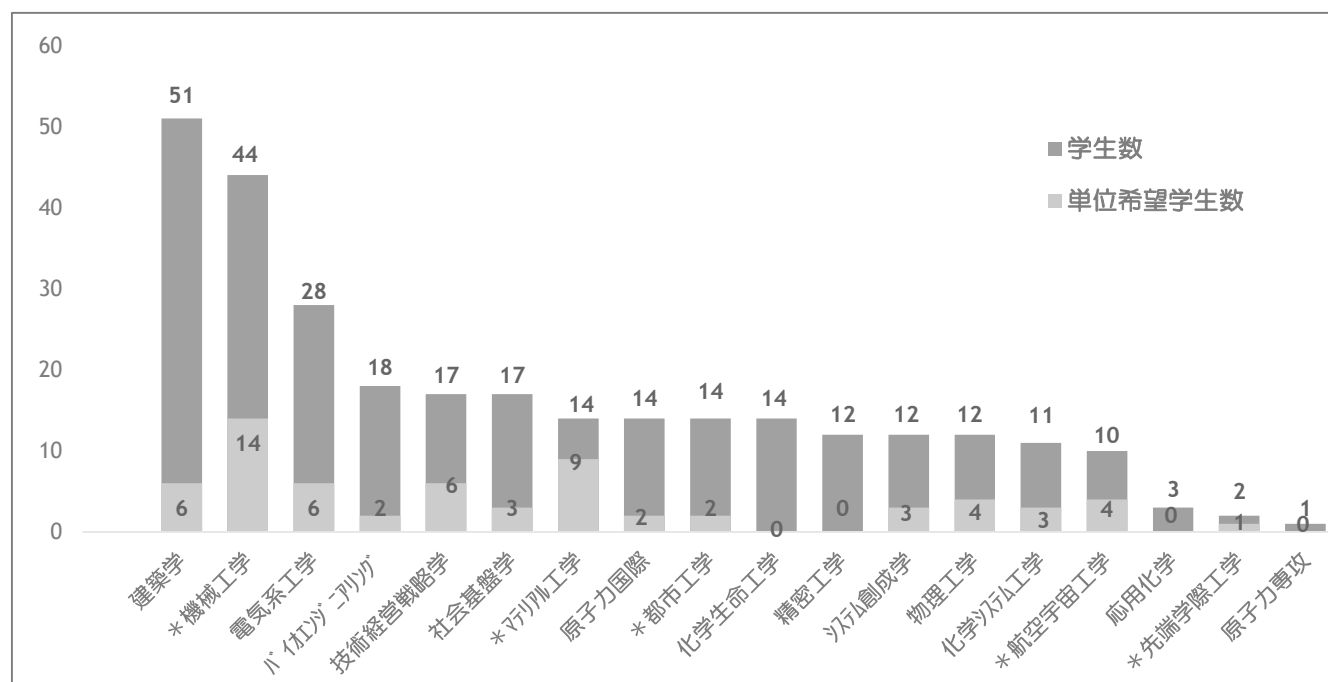
1. 2023年度S1S2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位希望学生数

レベル 研究科		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		52	50	61	32	44	43	12	294(65)	233(61)
②情報理工学系		18	14	12	20	10	11	2	87(30)	70(29)
③新領域創成科学研究科		1	2	10	1	6	2	1	23(10)	14(7)
④他研究科	公共政策 大学院	6	2	8	2	3	16	1	38(28)	29(22)
	情報学環・学際情報学府	1	1	2	6	5	6	4	25(10)	16(7)
	理学系研究科	3	3	6	4	10	5	1	32(7)	19(5)
	農学生命科学研究科	1			2	1	1		5(2)	4(2)
	経済学研究科				3	1		1	5(1)	3(1)
	医学系研究科		1	1	2				4(1)	3(1)
	総合文化研究科	1	1	2					4(0)	3(0)
	地震研究所	1			1				2(0)	2(0)
	生産技術研究所		1						1(0)	1(0)
	薬学系研究科	1							1(0)	1(0)
	人文社会系研究科							1	1(1)	1(1)
	④計	14	9	19	20	20	28	8	118(50)	82(39)
⑤USTEP		6	4	5	8	8	8	10	49(45)	25(25)
合計①～⑤		91	79	107	81	88	92	33	571(200)	424(161)

2) 専攻別



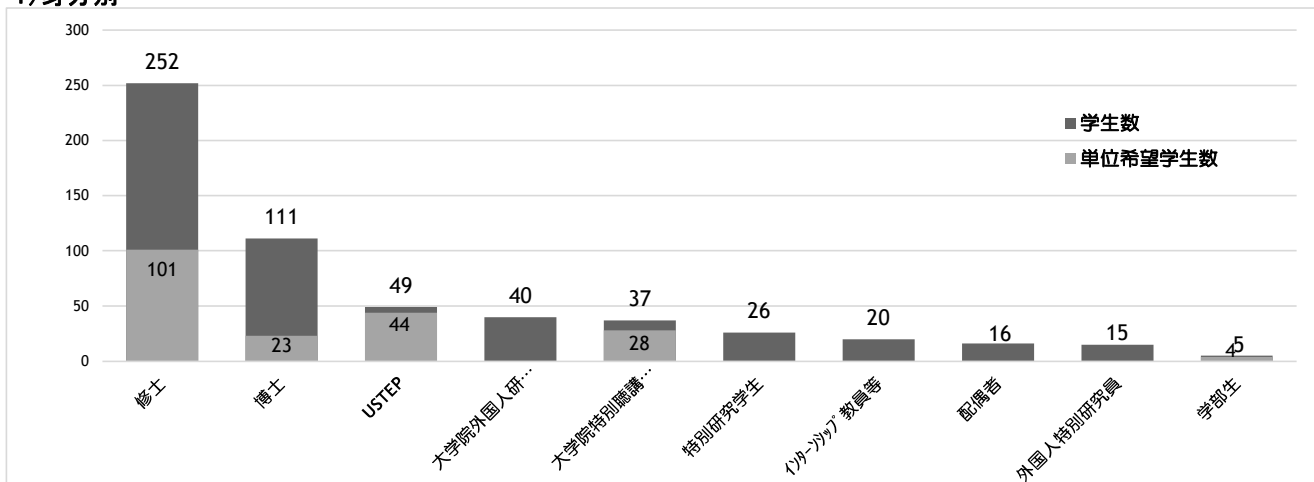
* : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国	18	37	46	47	45	61	15	269	207
2	フランス	11	8	4	2	1	1		27	23
3	台湾		1	12	10	8	9	6	46	20
4	韓国	2		2	1	5	4	5	19	15
5	ドイツ	8	2	2	1	3			16	14
6	アメリカ合衆国	1	4	4		9	1		19	11
7	インド	6	2	1			1		10	10
8	カナダ	2	1		3	2	4	1	13	7
9	オーストラリア	1	1	2	4	1	1		10	7
10	インドネシア	2	4		1				7	7
11	フィリピン	3		3			1		7	6
12	ノルウェー	2	1	2	3				8	5
13	ウクライナ	3	1			3			7	5
14	タイ		2			1	3		6	5
15	オーストリア	2	3						5	5
16	イラン	1	1	3			1		6	4
17	ブラジル	1		1	1		2		5	4
18	英国	1		3	1				5	4
19	イタリア	2	1	1					4	4
20	スイス	2	1	1					4	4
21	香港					1	1	5	7	3
22	トルコ			2		4			6	3
23	シンガポール	1				1		1	3	3
24	エジプト	2	1						3	3
25	ロシア	2		1					3	3
26	スウェーデン	1	1				1		3	3
27	マレーシア		1	4					5	2
28	デンマーク	1			2				3	2
29	オランダ		1	1	1				3	2
30	チリ		1	2					3	2
31	ミャンマー		1			1			2	2
32	ポーランド	1	1						2	2
33	パキスタン	2							2	2
34	ジョージア		1			1			2	2
35	ニュージーランド				2				2	2
36	* その他	13	1	10	2	2	1		29	21
合計		91	79	107	81	88	92	33	571	424

* その他(実数1名) : アイルランド・アルバニア・イスラエル・ガムビア・カンボジア・シリア・スーダン・スベイン・スリランカ・セルビア・トーゴ・バルバドス・バングラデシュ・ベルー・ボスニアヘルツェゴビナ・マルタ・メキシコ・モンゴル・ラトビア・南アフリカ

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室受講者数(実数)

社基		初級1A	初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学	9	9	10	28
	単位コース選択者	9	9	10	28
都市工		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	合計	
	都市工学日本語教室(学生内訳)	都市工:1/その他工学系:1/他研究科:2	都市工:8/その他工学系:0/他研究科:1	都市工:9/その他工学系:1/他研究科:3	
	単位コース選択者	都市工:0/その他工学系:0/他研究科:1	都市工:3/その他工学系:0/他研究科:0	都市工:3/その他工学系:0/他研究科:1	
シス創		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系読解	中級Ⅲ創成系総合	合計
	システム創成系日本語教室(学生内訳)	システム創成系:1/その他工学系:3/他研究科:1	システム創成系:3/その他工学系:1/他研究科:1	システム創成系:2/その他工学系:4/他研究科:4	システム創成系:5/その他工学系:7/他研究科:5
	単位コース選択者	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:2/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:3/その他工学系:0/他研究科:2
IME		中級	上級	合計	
	IME日本語教室	IME:1/その他工学系:1/他研究科:0	IME:1/その他工学系:4/他研究科:0	IME:2/その他工学系:5/他研究科:0	*【シス創】中級Ⅰは複数コース受講者有り、合計は実数

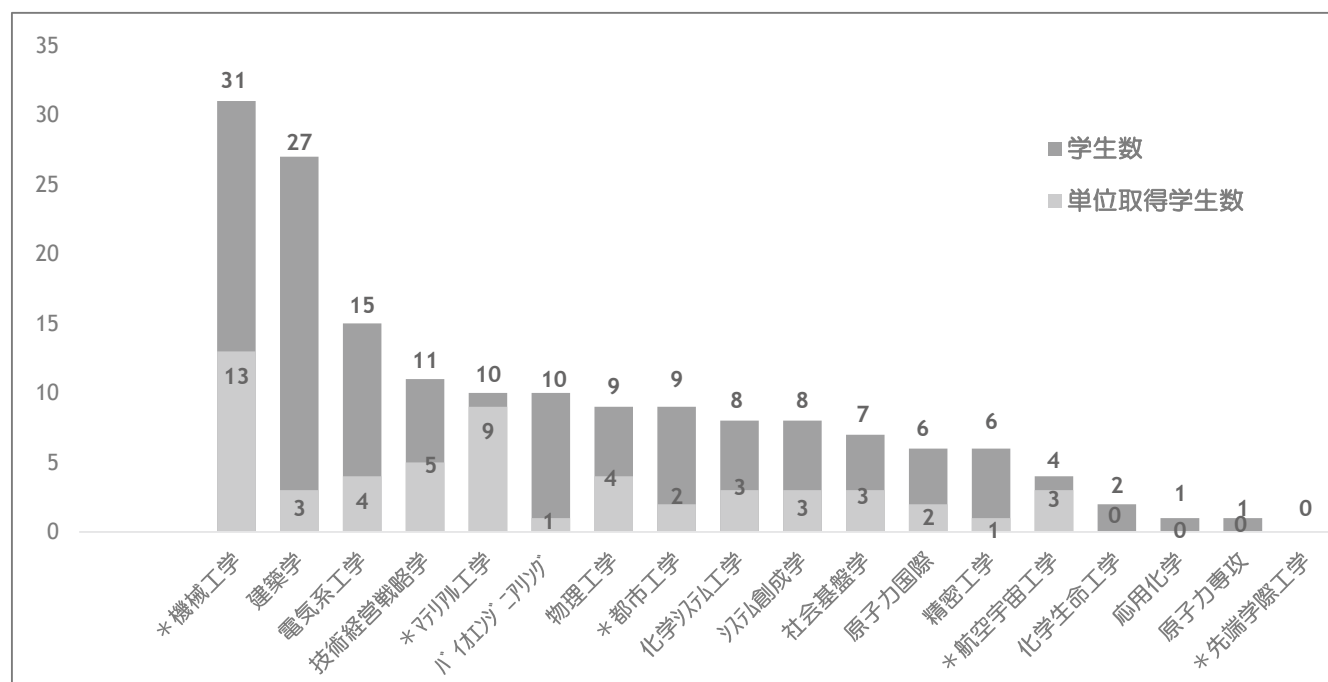
1. 2023年度S1S2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位取得学生数

研究科 \ レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		32	22	37	23	23	24	4	165(56)	127(52)
②情報理工学系		14	9	7	18	4	5	2	59(27)	48(26)
③新領域創成科学研究科				7		3	2	1	13(7)	7(5)
④他研究科	公共政策 大学院	7	1	5	1	2	13	1	30(28)	25(23)
	理学系研究科	2	1	5	3	8	5	1	25(7)	12(5)
	情報学環・学際情報学府	1	1	2	1	4	5	3	17(10)	14(9)
	農学生命科学研究科				1	1		1	3(2)	3(2)
	経済学研究科				1	1		1	3(1)	3(1)
	医学系研究科		1	1					2(0)	2(0)
	総合文化研究科	1							1(0)	1(0)
	地震研究所				1				1(0)	1(0)
	生産技術研究所		1						1(0)	1(0)
	薬学系研究科	1							1(0)	1(0)
	人文社会系研究科							1	1(0)	1(0)
	④計	12	5	13	8	16	23	8	85(48)	64(40)
⑤USTEP		3	4	5	7	8	8	9	44(43)	22(21)
合計①～⑤		61	40	69	56	54	62	24	366(181)	268(144)

2) 専攻別



* : 単位が修了要件として認められている専攻

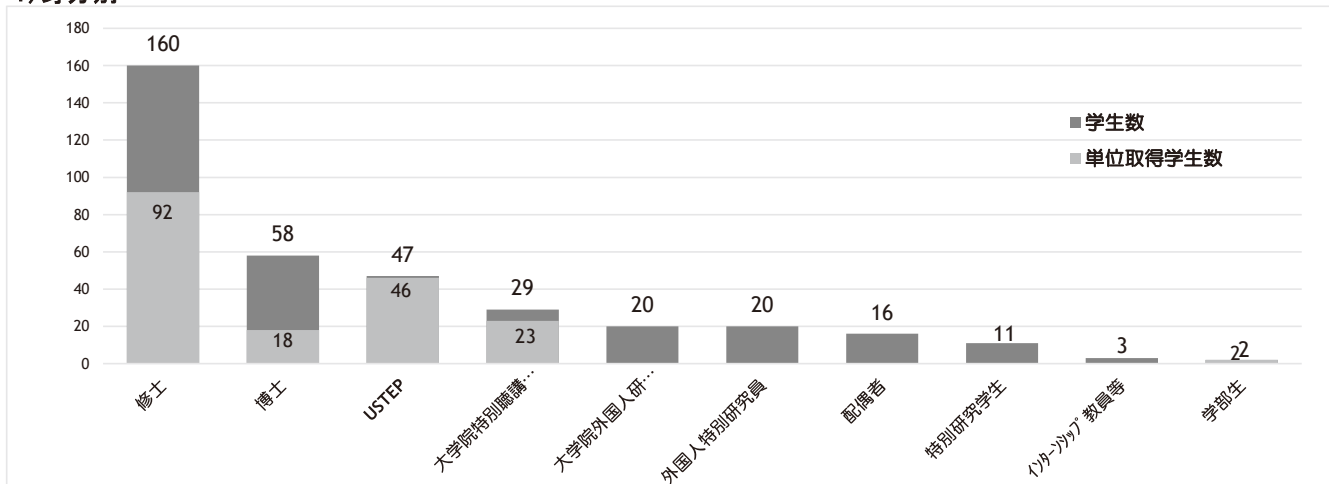
3) 国籍－レベル別

国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国	12	12	20	29	29	42	8	152	116
3	台湾			12	10	6	8	5	41	18
2	フランス	6	6	4	2				18	14
4	韓国	2		2			1	5	10	9
5	ドイツ	5	2		1	1			9	9
6	アメリカ合衆国	1	2	4		5			12	7
8	カナダ	2	1		2	2	4	1	12	6
7	インド	5		1					6	6
9	オーストラリア		1	2	4	1			8	5
10	インドネシア	2	3						5	5
11	フィリピン	2		3			1		6	5
12	ノルウェー	1	1	2	2				6	4
15	オーストリア	1	3				1		5	4
14	タイ		1			1	3		5	4
19	イタリア	2	1	1					4	4
16	イラン	1		3			1		5	3
22	トルコ			2		3			5	3
13	ウクライナ	1	1			2			4	3
23	シンガポール	1				1		1	3	3
26	スウェーデン	1	1				1		3	3
17	ブラジル	1		1	1				3	3
27	マレーシア		1	4					5	2
21	香港					1		4	5	2
28	デンマーク	1			2				3	2
30	チリ		1	2					3	2
25	ロシア	2							2	2
33	パキスタン	2							2	2
34	ジョージア		1			1			2	2
35	ニュージーランド				2				2	2
36	* その他	10	2	6	1	1			20	18
合計		61	40	69	56	54	62	24	366	268

* その他(実数1名): アイルランド・エジプト・エチオピア・カメルーン・ガンビア・カンボジア・スイス・スーダン・スペイン・セルビア・ベルギー・ポーランド

ボスニアヘルツェゴビナ・メキシコ・モンゴル・ラトビア・南アフリカ・英国

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室修了者数(実数)

社基		初級1A	初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学	7	9	10	26
	単位コース選択者	7	9	10	26
都市工		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	合計	
	都市工学日本語教室(学生内訳)	都市工:1/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:6/その他工学系:0/他研究科:0	都市工:7/その他工学系:1/他研究科:1	
	単位コース選択者	都市工:0/その他工学系:0/他研究科:1	都市工:2/その他工学系:0/他研究科:0	都市工:2/その他工学系:0/他研究科:1	
シス創		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系読解	中級Ⅲ創成系総合	合計
	システム創成日本語教室(学生内訳)	システム創成系:1/その他工学系:2/他研究科:1	システム創成系:2/その他工学系:1/他研究科:1	システム創成系:2/その他工学系:3/他研究科:3	システム創成系:4/その他工学系:5/他研究科:4
	単位コース選択者	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:2/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:3/その他工学系:0/他研究科:2
IME		中級	上級	合計	
	IME日本語教室	IME:1/その他工学系:0/他研究科:0	IME:1/その他工学系:2/他研究科:0	IME:2/その他工学系:2/他研究科:0	

*【シス創】中級Ⅰは複数コース修了者有り、合計は実数

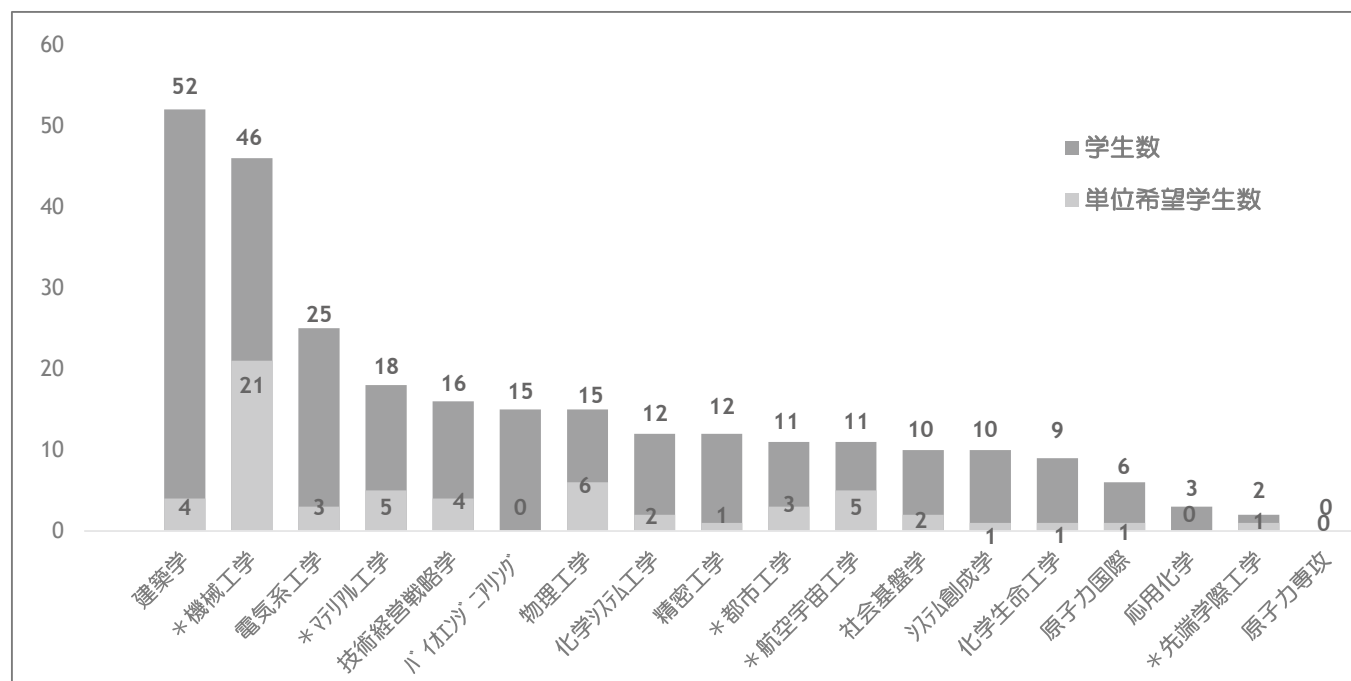
1. 2023年度A1A2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位希望学生数

研究科		レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科			72	42	37	48	38	33	3	273(60)	218(55)
②情報理工学系			21	9	9	12	23	12	5	91(42)	70(35)
③新領域創成科学研究科			2	2	4	2	8	6	1	25(15)	16(9)
④他研究科	公共政策 大学院		11	2	3	4	6	3	2	31(17)	27(17)
	情報学環・学際情報学府		1	2	2	4	5	6	3	23(9)	16(7)
	理学系研究科		3	1	2	2	9	6		23(4)	15(4)
	農学生命科学研究科			1			2	8	2	13(9)	9(5)
	経済学研究科			1		2	3			6(1)	4(1)
	医学系研究科		1	3	6	1		2		13(4)	8(2)
	総合文化研究科			3	2					5(1)	4(1)
	法学政治学研究科							1		1(1)	1(1)
	生産技術研究所				3	1				4(0)	2(0)
	教育学研究科							1		1(1)	1(1)
	④計		16	13	18	14	25	27	7	120(46)	87(39)
⑤USTEP(グローバル教育センター所属)			22	3	2	2	13	6	4	52(48)	42(38)
合計①～⑤			133(56)	69(32)	70(15)	78(15)	107(40)	84(40)	20(13)	561(211)	433(176)

2) 専攻別



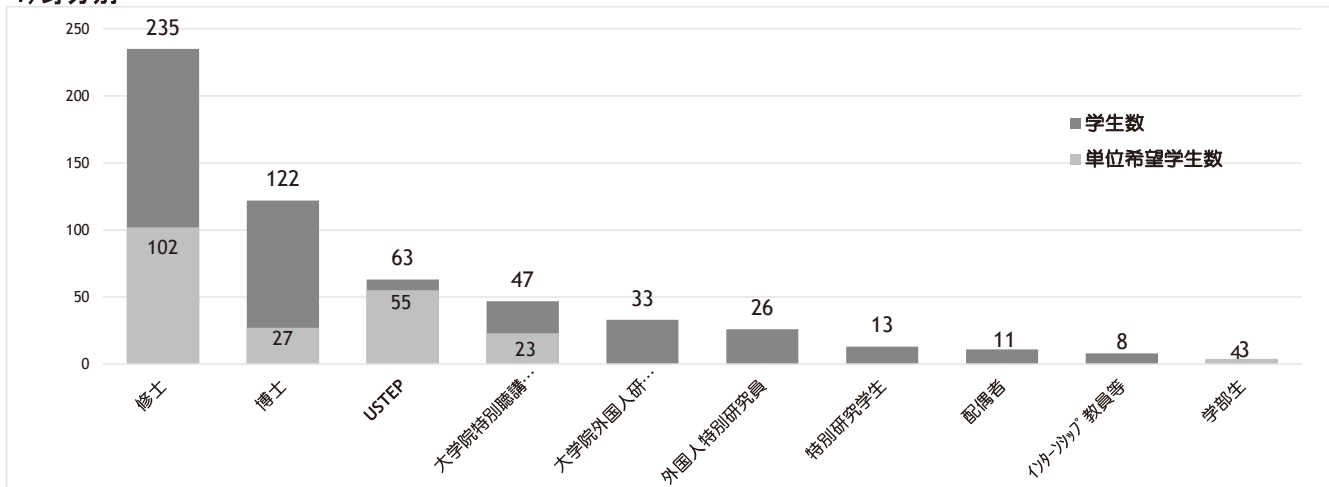
* : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国		36	29	27	38	64	49	12	255	194
2	フランス		20	8	11	3	1	1		44	39
3	ドイツ		16	5	3		5	1		30	26
4	台湾		1	1	4	6	13	8	4	37	21
5	韓国		1	3		3	4	6	2	19	16
6	インド		7	2		3	2			14	12
7	アメリカ合衆国		3	3	2	1	2	1		12	11
8	英国		7		2					9	8
9	インドネシア		2	3	1					6	6
10	マレーシア		1		1	3		4		9	5
11	日本					2	4			6	5
12	スウェーデン		3			1			1	5	5
13	オーストラリア				4		4	2		10	4
14	ウクライナ		2		3		2	2		9	4
15	カナダ		2			2	1		1	6	4
16	ニュージーランド		1	1		2	1			5	4
17	シンガポール		1	1			1	2		5	4
18	イタリア		3		1					4	4
19	タイ		1	1				2		4	4
20	チリ			2	1	2				5	3
21	フィリピン			1	2	2				5	3
22	スイス		1		3		1			5	3
23	オーストリア		1	1	2					4	3
24	メキシコ		1			1		1		3	3
25	ポーランド		2	1						3	3
26	トルコ				1	1		2		4	2
27	モンゴル			1	2					3	2
28	イラン			1			1			2	2
29	エジプト		1	1						2	2
30	チェコ		2							2	2
31	パキスタン		2							2	2
32	ノルウェー		1				1			2	2
33	* その他		15	4		8		3		30	25
合計			133	69	70	78	107	84	20	561	433

* その他(実数1名) : アイルランド・アルジェリア・アルバニア・オランダ・コソボ・サウジアラビア・スウェーデン・セルビア・デンマーク・ドミニカ共和国・バルバドス・バングラデシュ・ブラジル・ベトナム・ベルギー・ボスニアヘルツェゴビナ・マルタ・ミャンマー・ラトビア・ルーマニア・レバノン・ロシア・南アフリカ・香港

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室受講者数(実数)

社基		初級1A	初級1B	初級2	合計
	社会基盤学	11	10	11	32
	単位コース選択者	10	9	11	30

都市工		初級Ⅰ都市総合B	初級Ⅱ都市総合B	合計
	都市工学日本語教室(学生内訳)	都市工:2/その他工学系:5/他研究科:3	都市工:3/その他工学系:0/他研究科:0	都市工:5/その他工学系:5/他研究科:3
	単位コース選択者	都市工:1/その他工学系:4/他研究科:2	都市工:2/その他工学系:0/他研究科:0	都市工:3/その他工学系:4/他研究科:2

シス創		初級	中級Ⅱ創成系総合	合計
	システム創成系日本語教室(学生内訳)	システム創成系:2/その他工学系:1/他研究科:1	システム創成系:3/その他工学系:6/他研究科:0	システム創成系:5/その他工学系:7/他研究科:1
	単位コース選択者	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1

IME		中級	上級	合計
	IME日本語教室	IME:1/その他工学系:0/他研究科:0	IME:5/その他工学系:0/他研究科:0	IME:6/その他工学系:0/他研究科:0

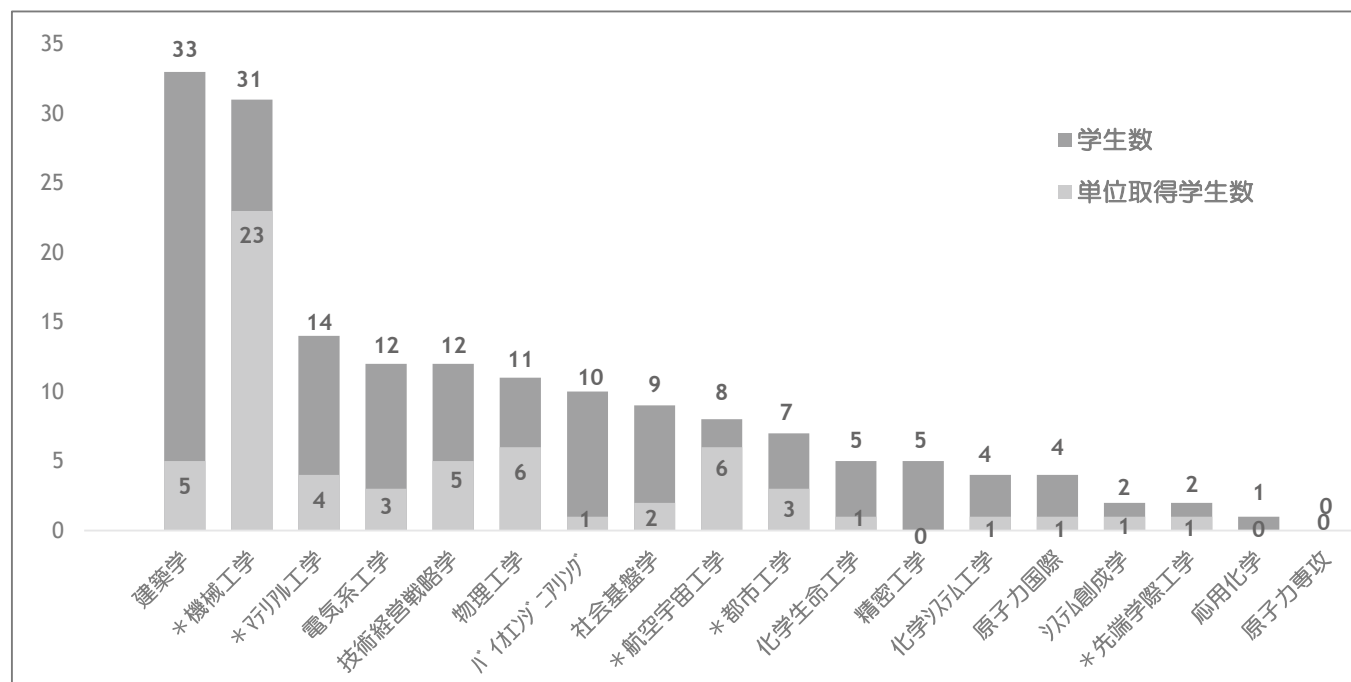
1. 2023年度A1A2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位取得学生数

研究科 \ レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		43	31	21	29	27	17	2	170(63)	137(62)
②情報理工学系		12	6	5	10	20	8	4	65(39)	54(36)
③新領域創成科学研究科		2	1	3	2	3	5	1	17(10)	13(8)
④他研究科	公共政策 大学院	7	1		2	4	3	2	19(15)	19(15)
	情報学環・学際情報学府	1		2		5	4	3	15(9)	12(8)
	理学系研究科	1		2	1	8	1		13(3)	9(3)
	農学生命科学研究科		1			2	7	2	12(8)	8(5)
	医学系研究科		2	5	1		2		10(4)	6(2)
	総合文化研究科			2					2(0)	1(0)
	法学政治学研究科						1		1(1)	1(1)
	生産技術研究所			3					3(0)	1(0)
	教育学研究科						1		1(0)	1(0)
	④計	9	4	14	4	19	19	7	76(40)	58(34)
⑤USTEP		25	1	5	3	19	8	4	65(56)	48(42)
合計①～⑤		91(67)	43(25)	48(15)	48(13)	88(39)	57(36)	18(13)	393(208)	310(182)

2) 専攻別



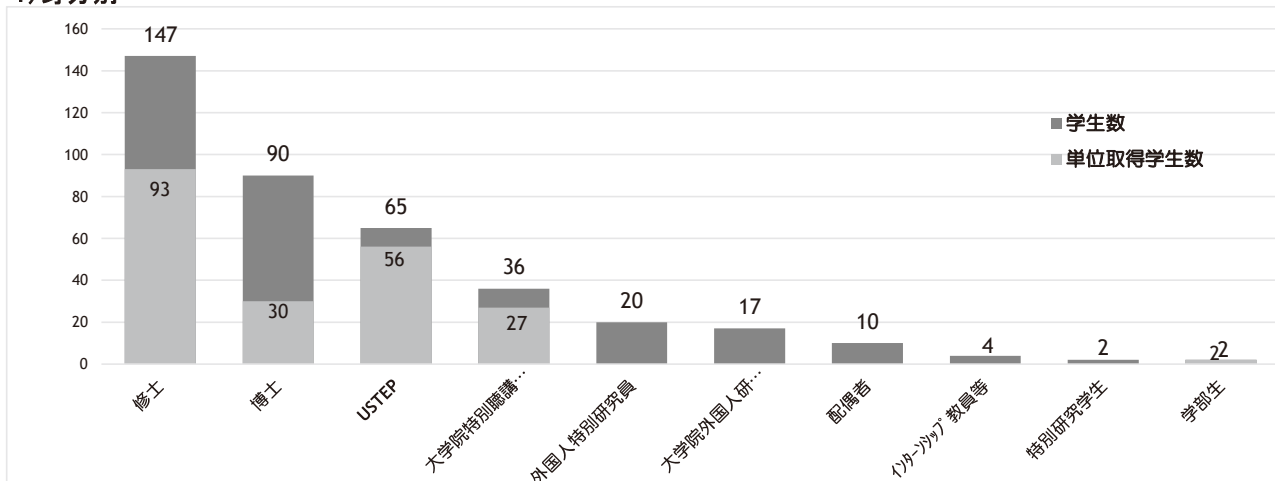
* :単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国		25	15	19	20	54	34	11	178	137
2	フランス		19	8	7	1	1	1		37	35
3	ドイツ		11	4			5	1		21	19
4	台湾				3	4	9	7	4	27	15
5	韓国		1	1		1	3	3	1	10	9
6	インド		2	2		2				6	5
7	アメリカ合衆国		1	2	2	1	2			8	7
8	英国		7		2					9	8
9	インドネシア			3						3	3
10	マレーシア		1		1	3		4		9	5
11	日本					2	4			6	5
12	スウェーデン		2			1			1	4	4
13	オーストラリア				1		3	1		5	3
14	ウクライナ		1		3					4	2
15	カナダ		1			2	1		1	5	3
16	ニュージーランド		1			2	2			5	4
17	シンガポール		1				1	1		3	2
18	イタリア		2		1					3	3
19	タイ		1	1				1		3	3
20	チリ			1		1				2	2
21	フィリピン				1	1				2	1
22	スイス		1		3		1			5	3
23	オーストリア		1	1	2					4	3
24	メキシコ		1			1				2	2
25	ポーランド		1	1						2	2
26	トルコ				1	1		1		3	2
27	モンゴル			1	2					3	2
28	イラン			1			1			2	2
29	チェコ		2							2	2
30	パキスタン		2							2	2
31	* その他		7	2		5	1	3		18	15
32	合計		91	43	48	48	88	57	18	393	310

* その他(実数1名) : アイルランド・エジプト・コソボ・サウジアラビア・スウェーデン・スペイン・セルビア・ノルウェー・ベルギー・スロバキア・リトアニア・マルタ・ミャンマー・ラトヴィア・ルーマニア・香港

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室修了者数(実数)

社基		初級1A	初級1B	初級2	合計
	社会基盤学 単位コース選択者	9	10	11	30
都市工		初級Ⅰ都市総合B	初級Ⅱ都市総合B	合計	
	都市工学日本語教室 (学生内訳)	都市工:2/その他工学系:5/他研究科:2	都市工:2/その他工学系:/他研究科:	都市工:4/その他工学系:5/他研究科:2	
	単位コース選択者	都市工:1/その他工学系:4/他研究科:2	都市工:2/その他工学系:/他研究科:	都市工:3/その他工学系:4/他研究科:2	
シス創		初級Ⅰ-1	初級Ⅰ-2	初級Ⅱ	中級Ⅱ創成系総合
	システム創成系日本語教室 (学生内訳)	システム創成系:2/その他工学系:1/他研究科:1	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:2/その他工学系:4/他研究科:0
	単位コース選択者	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0
* 初級は複数コース修了者有り。合計は実人数。					合計
					システム創成系:4/その他工学系:5/他研究科:1
					システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:1
IME		中級	上級	合計	
	IME日本語教室	IME:1/その他工学系:0/他研究科:0	IME:5/その他工学系:0/他研究科:0	IME:6/その他工学系:0/他研究科:0	

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。(0:できない 1:少しできる 2:よくできる)

聞く		話す		
初	1	相手の名前・専攻・研究室が聞いてわかる	1	あいざつができる
1	2	物の値段が聞いてわかる	2	名前・出身地・専攻・研究室名を言うことができる
	3	日常生活や大学で使う物の名前が聞いてわかる	3	今日の予定や昨日したことを言うことができる
	4	ゼミやミーティングの日程や時間が聞いてわかる	4	自己紹介をした後の質問に答えられる
初	5	物や建物の場所が聞いてわかる	5	物や建物の場所を聞くことができる
2	6	電車の行き先や乗り換えが聞いてわかる	6	日常生活・家族について話すことができる
7	7	友達に誘われた時、聞いてわかる	7	友だちを誘ったり、誘われた時の返事ができる
初	8	時間や場所を問い合わせた時、答えが聞いてわかる	8	大学の窓口で質問ができる
3	9	大学の窓口に必要な説明が聞いてわかる	9	遅刻・欠席・早退の理由を話すことができる
10	10	駅や空港のアナウンスで必要なことが聞いてわかる	10	自分の部屋や研究室、町の描写ができる
初	11	身近な話題に関する意見が聞いてわかる	11	身の回りの変化について話すことができる
4	12	身近な人からの電話の用件が聞いてわかる	12	自分の仕事・専門・趣味について説明できる
13	13	日常的な話題において出された提案が聞いてわかる	13	研究室の環境、好き嫌いなどについてプレゼンテーションができる
中	14	緊急放送・地震訓練放送などが聞いてわかる	14	図や表の説明ができる
1	15	天気予報が聞いてわかる	15	自己紹介の場面で敬語が使える
16	16	電話の録音メッセージが聞いてわかる	16	授業で先生に質問ができる
17	17	研究室・クラブ活動での指示・説明が聞いてわかる	17	実験方法や研究方法を順序だてて話すことができる
18	18	大学の教職員の事務的な説明が聞いてわかる	18	友達や教員にアドバイスを求めることができる
中	19	専門的なプレゼンテーションの要点がわかる	19	研究室の人や友達と雑談ができる
2	20	研究室のミーティングの内容が聞いてわかる	20	ミーティングなどの日程に関して自分の希望を述べ調整できる
21	21	アニメ・ドラマ・映画のストーリーがわかる	21	研究計画などを論理的に話すことができる
22	22	専門の授業全体の流れが聞いてわかる	22	大学の教職員に質問したり、説明することができる
中	23	研究に関する指導教員のコメントが聞いてわかる	23	ゼミで発表することができる
3	24	テレビのニュースやドキュメンタリーがわかる	24	ニュースの要旨を話すことができる
25	25	ゼミの発表が聞いてわかる	25	講義の途中や後で、教員に敬語を用いて質問ができる
26	26	ゼミの発表後の質疑応答の内容がわかる	26	初対面の人と雑談することができる
上	27	就職などの面接で質問されたことがわかる	27	就職などの面接で質問に適切に答えることができる
1	28	歓迎会など公式の場でのスピーチがわかる	28	歓迎会など公式の場でスピーチができる
29	29	自分の専門分野の学会発表や講演が理解できる	29	自分の専門分野の学会でのディスカッションで意見が言える
30	30	自分の専門分野での話題での議論を聞いて理解できる	30	会議や打ち合わせで意見をまとめたり進行役を務めたりできる
上	31	抽象的で複雑な内容を聞いて要点がわかる	31	母語話者同士の活発な会話に積極的に参加できる
2	32	ぐだけた表現から改まった表現まで幅広いスタイルが変化する話を聞いて問題なく理解できる	32	学会で口頭発表と質疑応答が適切にできる
33	33	専門外の分野の学会発表や講演を聞いて問題なく理解できる	33	フォーマルな会議やシンポジウム等で意見をとりまとめたり進行役を適切に務めたりできる
34	34	専門外の分野の話題での活発な議論を聞いて問題なく理解できる	34	自分の専門外の話題の議論で流暢かつ正確に意見を言うことができる

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。(0:できない 1:少しできる 2:よくできる)

読む		書く	
1	ひらがなを読むことができる	1	ひらがなを書くことができる
2	日本語で書かれた自分の名前がわかる	2	自分の名前をカタカナで書くことができる
3	ひらがなとカタカナのメニューがわかる	3	今日のスケジュールを書くことができる
4	日本語で書かれた自宅と大学の住所がわかる	4	自分の大学名・研究室名・専門を漢字で書くことができる
5	日本語で書かれた自分の大学名・研究室名・専門がわかる	5	自宅と大学の住所を漢字で書くことができる
6	スケジュール変更のお知らせがわかる	6	自分の国や自分の紹介を書くことができる
7	駅や食堂の券売機の表示画面がわかる	7	簡単なメッセージのメモを書くことができる
8	研究室・実験室の注意書きがわかる	8	趣味や得意なことについて書くことができる
9	駅・銀行・大学の案内表示がわかる	9	自分のことについて、SNSなどに書きこむことができる
10	カード・はがきが読んでもわかる	10	カード・はがきなどを書くことができる
11	広告・チラシがわかる	11	日本語で日記を書くことができる
12	友達からのテキストメッセージが読んでもわかる	12	友達にテキストメッセージを書くことができる
13	自分の専門分野の論文・専門書の題名・図表の目名がわかる	13	打ち合わせで、メモを書きとめることができる
14	易しい科学技術／専門の文章がわかる	14	履歴書を書くことができる
15	事務からの書類が読んでもわかる	15	事務的な書類に必要なことを記入することができる
16	身近な人からの電子メールが読んでもわかる	16	お礼の手紙を手書きで書くことができる
17	公共料金のお知らせ、不在配達通知がわかる	17	奨学金の申請書類に記入することができる
18	漫画のストーリーがわかる	18	身近な人に電子メールを書くことができる
19	板書が見てわかる	19	講義を聞いて、ノートをとることができる
20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)がわかる	20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)を書くことができる
21	論文の要旨が読んでもわかる	21	推薦状の依頼書を書くことができる
22	大学内の掲示板が見てわかる	22	論文の要旨を書くことができる
23	専門に関する資料の内容がわかる	23	研究計画書を書くことができる
24	ニュースレター・メールマガジンが読める	24	授業のレポートを書くことができる
25	映画やテレビなどの字幕が見てわかる	25	プレゼンの発表原稿を書くことができる
26	研究会や会議の報告書が読める	26	状況に応じた許可願いや謝罪文を書くことができる
27	パソコンや携帯電話の説明書(マニュアル)がわかる	27	就職のための自己PRや志望動機などを書くことができる
28	WEBサイトや会社案内の情報がわかる	28	研究会や会議の報告書を書くことができる
29	論文・専門書が読んでもわかる	29	抽象的な内容についてある程度まとまった長さの意見文が書ける
30	一般的な内容の新聞・雑誌・書籍が読んで理解できる	30	フォーマットにしたがって、さまざまな用途の通信文(メール等)が書ける
31	専門外の記事や論文の概要を理解できる	31	関心のある作品や文献の批評文が書ける
32	専門書を含む幅広い書籍や論文を読み、その背景や意見を問題なく読み取ることができる	32	場面や受け手、内容に合わせて適切な文体を使い、フォーマルからインフォーマルまで幅広い通信文(メール等)が書ける
33	様々な通信文・通知文を読み、問題なく理解できる	33	研究の助成金等の申請書を書くことができる
34	複雑な内容の契約書、就業規則などを正確に読み取ることができる	34	学術論文や長い説明文が書ける

2023 言語背景調査 Language Background Questionnaire

1. 専攻：
2. 身分：☐研究生 ☐修士 ☐博士 ☐研究員 ☐交換留学生 ☐USTEP ☐学部生 ☐配偶者 ☐その他：
3. 身分で「その他」と答えた方は詳しく教えてください。
4. 母語
5. 現在の留学が終わった後の予定 日本で就職する/日本で進学する/帰国する/分からない
6. 日本にどのくらい滞在する予定ですか。
☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
7. 日本語学習歴(自国)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
8. 日本語学習歴(日本)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
9. どうして日本語を学習していますか。該当する項目を全て選んでください。
日常生活に必要なため/研究に必要なため/日本で就職をするため/友達をつくるため/日本の伝統文化（茶道、華道、書道など）に興味があるため/日本のサブカルチャー（アニメ、ゲームなど）に興味があるため/その他
10. その他と答えた方は、詳しく教えてください。
11. 現在取っている科目のレベル
☐初級Ⅰ（入門・初級Ⅰ・初級Ⅱ・インテンスⅠ初級Ⅰ）☐初級Ⅱ（初級Ⅲ・初級Ⅳ・インテンスⅠ初級Ⅱ）☐中級Ⅰ ☐中級Ⅱ ☐中級Ⅲ ☐上級Ⅰ ☐上級Ⅱ
12. 研究室で指導教員と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
13. 研究室で日本人学生と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
14. 研究室で留学生同士で研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
15. 研究室で指導教官との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
16. 研究室で日本人との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
17. 研究室で留学生同士の雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
18. 研究室での研究発表には、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
19. 研究室での打ち合わせには、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
20. 研究に関する資料は、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
21. 指導教員は、あなたにどの程度の日本語能力を求めていますか。
☐全く求めていない ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級レベル
22. あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか。
☐全く目指していない ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級レベル
23. 具体的に、どんな日本語能力を身につけたいですか。
24. 大学のあらゆる場面において、日本語ができなくて困ることがありますか。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある

25. どんな場面があるか、具体的に書いてください。
26. 大学以外の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますが、どんな場面か具体的に書いてください。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある
27. どんな場面か具体的に書いてください。
28. 日本語教室に期待していることはなんですか。該当する項目を全て選んでください。
☐日本語学習 ☐日本文化体験 ☐日本人学生との交流 ☐留学生との交流 ☐大学生生活・就職などのための日本語支援 ☐その他
29. No. 28 で「その他」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。
30. 日本語教室のドリンクコーナーを利用したことがありますか。
☐はい ☐いいえ
31. NO. 30 で「いいえ」と答えた人は、ドリンクコーナーを利用しない理由を書いてください。

1. 身分：

まったく思わない あまり思わない そう思う 強くそう思う

2. コースおよび授業内容について、質問 2～11 に答えて下さい。

コースの目標は明確だった。

3. 授業のスピードは適切だった。

4. 授業内容は分かりやすかった。

5. 授業の課題の量はどうですか。

多すぎる	適切である	少ない	課題が出ていない
1	2	3	4

まったく思わない　あまり思わない　そう思う　強くそう思う

6. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた。 1 2 3 4

7. このコースの授業を受けて学習意欲が高まった

8. このコースは自分にとって将来役に立つと思う。 1 2 3 4

9. あなたは、この授業科目の予習・復習に
毎週どれくらい時間を使いましたか。

まったく予習・復習しなかった	1時間未満	1～2 時間	2～3 時間	3～5 時間	5 時間以上
1	2	3	4	5	6

10. このコースに出て、どんなことができるようになりましたか。

11. このコースについて自由にコメントしてください。(教室、受講者数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど)

12. 現在、講義を受講しているまたは研究を行っているメインのキャンパスはどこですか。

本郷/駒場/柏/東海村/その他

13. No. 12 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

14. 履修登録の手続きとプレイスメントテストについて、次の項目に答えてください。 履修登録の手続きは分かりやすかった。

まったく思わない/あまり思わない/そう思う/強くそう思う

15. No. 14 で 1 または 2 を選んだ人は、どうしてそう思うか理由を教えてください。

16. プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた。
まったく思わない/あまり思わない/そう思う/強くそう思う

17. プレイメントテストに関するコメントがあったら書いてください。(テストの説明、時間など)

18. 日本語教室に期待していることはなんですか。該当する項目をすべて選んでください。
日本語学習/日本文化体験/日本人学生との交流/留学生との交流/大学生生活・就職などのための日本語支援/その他

19. No.18 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

20. 日本語学習サポート（チュートリアルや日本語ラーニングアドバイスセッション）を受けることを希望しますか。
希望する/希望しない

21. 誰に日本語学習サポートを受けることを希望しますか。該当する項目をすべて選んでください。
日本語教室の先生/日本人の大学院生/留学生の大学院生

22. 日本語学習サポートでどんなサポートを受けたいですか。該当する項目をすべて選んでください。
日本語の学習方法、復習など/ JLPT 対策/日本語のアカデミック・ライティング/奨学金の申し込み/アカデミックスキル（ノートテイキングなど）

23. 日本語学習サポートを希望する場合、どの時期に参加を希望しますか。該当する項目をすべて選んでください。
学期中/夏休みや冬休みなど

calligraphy workshop

書道に挑戦してみませんか？

We are going to have the calligraphy workshop.
Accepting 24 students on a first-come, first-served basis.
Please register through STAR system
at JLCSE homepage.

Date : June 7th (Wed)

1st session 13:00 – 14:00

2nd session 14:15 – 15:15

Place : Room88L 2F, Engineer Bldg#8,



浴衣を着よう！ YUKATA WORKSHOP

We are having a workshop where you can learn
how to wear yukata (traditional Japanese summer clothing).
After the workshop, we're sure that you can wear yukata
by yourself! Please register using our STAR system.
We accept the first 20 students!
(10 for women and 10 for men)



Time: June 21th (Wednesday)

1st session : 13:00 – 13:40 : 10 students (women)

2nd session : 13:45 – 14:15 : 10 students (men)

Place: Building#8, Room132



茶道体験

Tea Ceremony Experience

We are going to have the tea ceremony Experience. Let's make a cup of traditional Japanese green tea!

Date : 8th Nov.(Wednesday)

1st session 13:30 - 14:00

2nd session 14:15 - 14:45

Venue : Room 88L (2nd floor of Eng. Bldg. No.8)

We will be accepting applications through STAR system.

Participants will be determined by drawing lots.

We will notify successful participants by email on November 1st.
Reservation through email will not be accepted.



着物を着てみましょう！

Let's wear kimono!

Have you ever worn Kimono, traditional Japanese clothing?
We are going to have a kimono wearing session.
We will be accepting applications through STAR system.
Participants will be determined by drawing lots.
We will notify successful participants by email on November 22.

Date : Nov. 29th (Wed)

1st session : 13:30 - 14:00 : 6 students (female)

2nd session : 14:00 - 14:30 : 6 students (female)

3rd session : 14:30 - 15:00 : 12 students (male)

Place : Engineer Bldg#8, 1F, Room 132



折り紙ワークショップ

Welcome to the

ORIGAMI ART

Date : 6th Dec. (Wed.)

13:30 - 14:30

Venue : Room 88L

(2nd floor of Eng. Bldg. No.8)

We will be accepting applications through STAR system.

Participants will be determined by drawing lots.

We will notify successful participants by email on November 29.

There's a paper airplane competition !!



CALLIGRAPHY WORKSHOP

書道に挑戦!!

We are going to have the calligraphy workshop.

We will be accepting applications through STAR system.

Participants will be determined by drawing lots.

We will notify successful participants by email on Dec.11

Date : Dec. 18th (Mon)

1st session 13:30-14:30

2nd session 14:40-15:40

Place : Room88L 2F, Engineer Bldg#8,



日本語教室で留学生と 学びませんか

日本語教室の
イベントに
参加したい！

留学生の友だちが
ほしい！

海外の大学の事を
知りたい！

学生授業ボランティア 募集中！

工学系研究科日本語教室では、
留学生の日本語学習を支援してくださる
学生授業ボランティアを募集しています。
工学系研究科日本語教室には、初級から上級まで
さまざまな日本語コースがあり、留学生が日本語を学んでいます。
皆さまの参加をお待ちしています。

主 催 : 大学院工学系研究科日本語教室
活動期間 : 2023年10月10日～ 2024年1月30日
活動場所 : 工学部8号館 他
活動頻度 : 週1コマ(105分)～
募集人数 : 30名程度
活動内容 : 入門～上級の日本語クラスに参加して、
グループワークや 会話・ディスカッションのサポートをしていただきます。



※写真はイメージです。

学生授業ボランティアお問い合わせ先
東京大学大学院 工学系研究科
国際工学教育推進機構 国際教育部門
日本語教室(JLCSE) 工学部8号館128B教室
✉ nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp ☎ 03-5841-8826



学生授業ボランティア 募集中！

日本語教室で留学生と学びませんか

工学系研究科日本語教室では、
留学生の日本語学習を支援してくださる
学生授業ボランティアを募集しています。
工学系研究科日本語教室には、初級から上級まで
さまざまな日本語コースがあり、留学生が日本語を学んでいます。
皆さまの参加をお待ちしています。

主 催 : 大学院工学系研究科日本語教室
活動期間 : 2023年4月13日 (木) ～ 2023年7月26日 (水)
活動場所 : 工学部8号館 他
活動頻度 : 週1コマ(105分)～
募集人数 : 30名程度

活動内容 : 入門～上級の日本語クラスに参加して、グループワークや
会話・ディスカッションのサポートをしていただきます。

学生授業ボランティアお問い合わせ先
東京大学大学院 工学系研究科

国際工学教育推進機構 国際教育部門

日本語教室(JLCSE) 工学部8号館128B教室

✉ nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp ☎ 03-5841-8826

INSTITUTE FOR INNOVATION IN
INTERNATIONAL ENGINEERING
EDUCATION (IIIEE)

PRESENTS



International Lounge

Want to make international friends?
Want to enjoy a multilingual atmosphere?
Want to learn about other cultures?
Come join us now!

Every Friday
12:10-13:10
(2023A1A2 Oct20-Jan 19)



Venue : Engineering Building #11
2F (Above Starbucks)



インターナショナルな友達がいい?
多言語交流を楽しみたい?
他文化を学びたい?
さあ今すぐ来へ!

INSTITUTE FOR INNOVATION IN
INTERNATIONAL ENGINEERING
EDUCATION (IIIEE)

PRESENTS



International Lounge

Want to make international friends?
Want to enjoy a multilingual atmosphere?
Want to learn about other cultures?
Come join us now!

Every Friday
12:10-13:10
(2023S1S2 April 21-July14)



Venue : Engineering Building #11
2F (Above Starbucks)



インターナショナルな友達がいい?
多言語交流を楽しみたい?
他文化を学びたい?
さあ今すぐ来へ!

工学系研究国際工学教育推進機構
ilatutokyo@gmail.com

執筆・編集者

教授	古市	由美子
特任准教授	牛山	和子
特任講師	猪狩	美保
特任助教	金	瑜真
	劉	羅麟
事務補佐員	早坂	美和子
	山畑	めぐみ

執筆者

非常勤講師	内田	あゆみ
	大西	由美
	片岡	さゆり
	米谷	章子
	佐藤	瑞恵
	鈴木	恵理
	中村	亜美
	ハワード	文江
	東平	福美
	藤井	明子
	宮瀬	真理
	佐野	理恵

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 報告書 2023 年度

発行 日：2024 年 3 月 31 日

編集兼発行者：東京大学大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構
国際教育部門

発行責任者：古市由美子

113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

E-mail：nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp

電話：03-5841-8826 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>
